

基本計画書

基 本 計 画										
事 項		記 入 欄								備 考
計 画 の 区 分		大学の収容定員に係る学則変更								
フ リ ガ ナ 設 置 者		ガッコウホウジン カワハラガクエン 学校法人河原学園								
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		ニンゲンカンキョウダイガク 人間環境大学								
大 学 本 部 の 位 置		愛知県岡崎市本宿町字上三本松6番2号								
大 学 の 目 的		本大学は、21世紀の人類社会に豊かな展望を開き得るような、人間の新しいあり方を探求するため、人間の根幹にかかわる分野である医療と環境を中心に、幅広い教養と他者に対する感謝の念を基盤とし、深い専門の学術を教授研究し、我が国及び国際社会に貢献する有為な人材を育成することを目指す。								
新 設 学 部 等 の 目 的		新たに総合環境学部を開設するため、収容定員に係る学則変更を行う。								
新設学部等の概要	新 設 学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次人	人			年 月 第 年次		
	心理学部 心理学科	4	100	-	400	学士（心理学）	文学関係	令和4年4月 第1年次	愛知県岡崎市本宿町 上三本松 6-2	
	犯罪心理学科	4	50	-	200	学士（心理学）	文学関係	令和4年4月 第1年次	同上	
	環境科学部 フィールド生態学科	4	60	-	240	学士（環境科学）	農学関係	令和4年4月 第1年次	同上	
	環境データサイエンス学科	4	40	-	160	学士（環境科学）	農学関係	令和4年4月 第1年次	同上	
	看護学部 看護学科	4	95	-	380	学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	平成27年4月 第1年次	愛知県大府市江端町 3-220	
	松山看護学部 看護学科	4	80	-	320	学士（看護学）	保健衛生学関係（看護学関係）	平成29年4月 第1年次	愛媛県松山市花園町 3-6	
	総合心理学部 総合心理学科	4	80	-	320	学士（心理学）	文学関係	令和4年4月 第1年次	愛媛県松山市道後樋 又1192-3	
	総合犯罪心理学科	4	50	-	200	学士（心理学）	文学関係	令和6年4月 第1年次	同上	
	総合環境学部 フィールド自然学科	4	60 (0)	-	240 (0)	学士（環境学）	農学関係	令和7年4月 第1年次	同上	※令和6年4月設置届出 予定
	環境情報学科	4	40 (0)	-	160 (0)	学士（環境学）	農学関係	令和7年4月 第1年次	同上	※令和6年4月設置届出 予定
	計			655 (555)	-	2,620 (2,220)				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行， 名称の変更等）		総合環境学部 フィールド自然学科（60）（令和6年4月届出予定） 環境情報学科（40）（令和6年4月届出予定）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計					
	-	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位				

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新	心理学部 心理学科		5人 (4)	2人 (3)	4人 (4)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	37人 (37)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (4)	2 (3)	4 (4)	0 (0)	11 (11)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (4)	2 (3)	4 (4)	0 (0)	11 (11)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	5 (4)	2 (3)	4 (4)	0 (0)	11 (11)				
	心理学部 犯罪心理学科		5人 (4)	0人 (1)	4人 (4)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	37人 (37)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (4)	0 (1)	4 (4)	0 (0)	9 (9)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (4)	0 (1)	4 (4)	0 (0)	9 (9)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	5 (4)	0 (1)	4 (4)	0 (0)	9 (9)				
	環境科学部 フィールド生態学科		5人 (4)	5人 (6)	1人 (1)	1人 (1)	12人 (12)	0人 (0)	31人 (31)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (4)	5 (6)	1 (1)	1 (1)	12 (12)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (4)	5 (6)	1 (1)	1 (1)	12 (12)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	5 (4)	5 (6)	1 (1)	1 (1)	12 (12)				

設	環境科学部 環境データサイエンス学科		4人 (4)	1人 (1)	2人 (2)	1人 (1)	8人 (8)	0人 (0)	35人 (35)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	8 (8)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	4 (4)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	8 (8)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	4 (4)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	8 (8)				
	看護学部 看護学科		10人 (10)	7人 (7)	10人 (10)	12人 (12)	39人 (39)	1人 (1)	19人 (19)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	7 (7)	10 (10)	12 (12)	39 (39)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	10 (10)	7 (7)	10 (10)	12 (12)	39 (39)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	10 (10)	7 (7)	10 (10)	12 (12)	39 (39)				
	松山看護学部 看護学科		11人 (11)	2人 (2)	7人 (7)	3人 (3)	23人 (23)	3人 (3)	39人 (39)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	2 (2)	7 (7)	3 (3)	23 (23)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	11 (11)	2 (2)	7 (7)	3 (3)	23 (23)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	11 (11)	2 (2)	7 (7)	3 (3)	23 (23)				
	総合心理学部 総合心理学科		5人 (5)	4人 (4)	5人 (5)	0人 (0)	14人 (14)	0人 (0)	33人 (33)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	14 (14)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (5)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	14 (14)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	5 (5)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	14 (14)				

分	総合心理学部　総合犯罪心理学科		3人 (3)	1人 (1)	4人 (4)	0人 (0)	8人 (8)	0人 (0)	46人 (46)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 5人
	a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	8 (8)				
	b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	3 (3)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	8 (8)				
	c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	3 (3)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	8 (8)				
	総合環境学部　フィールド自然学科		4人 (4)	2人 (2)	1人 (0)	2人 (2)	9人 (8)	0人 (0)	20人 (20)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 6人
	a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	2 (2)	1 (0)	2 (2)	9 (8)				
	b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	4 (4)	2 (2)	1 (0)	2 (2)	9 (8)				
	c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）	4 (4)	2 (2)	1 (0)	2 (2)	9 (8)				
	総合環境学部　環境情報学科		4人 (4)	1人 (1)	2人 (2)	2人 (2)	9人 (9)	0人 (0)	21人 (21)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の四分の三の数 6人
	a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	9 (9)				
	b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	4 (4)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	9 (9)					
c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）	4 (4)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	9 (9)					
計		56人 (53)	25人 (28)	40人 (39)	21人 (21)	142人 (141)	4人 (4)	- (-)		

既 分	該当なし		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	0人 (0)	0人 (0)	
	設	a．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
		b．基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
		小計（a～b）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
		c．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
		d．基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
		計（a～d）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			
	計		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
合 計		56人 (53)	25人 (28)	40人 (39)	21人 (21)	142人 (141)	4人 (4)	- (-)		
職 種		専 属			その他			計		
事 務 職 員		77 (77)			45 (45)			122 (122)		
技 術 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
図 書 館 職 員		3 (3)			12 (12)			15 (15)		
そ の 他 の 職 員		0 (0)			14 (14)			14 (14)		
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
計		80 (80)			71 (71)			151 (151)		
校 地 等	区 分		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計	校舎敷地の借用 [大府キャンパス] 借用面積：1,648.0㎡ 借用期間：30年 [松山道後キャンパス] 借用面積：9,145.9㎡ 借用期間：2045年12月まで 校舎敷地のうち1,318.85㎡は河 原医療大学校（必要面積：特に なし）と共用 共用の校舎敷地13,118.85㎡のう ち運動場6,908.0㎡は人間環境大 学附属岡崎高等学校（必要面 積：8,400㎡、体育館等を備えて いるため教育上支障なし）と共 用、4,892.0㎡は未来高等学校、 河原調理専門学校（必要面積： 特になし）と共用	
	校 舎 敷 地		24,780.90㎡	13,118.85㎡		1,595.40㎡		39,495.15㎡		
	そ の 他		45,619.80㎡	0.00㎡		0.00㎡		45,619.80㎡		
	合 計		70,400.70㎡	13,118.85㎡		1,595.40㎡		85,114.95㎡		
校 舎			専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計	校舎面積のうち1,988.02㎡（松 山キャンパス）は河原医療大学 校（必要面積：特になし）と共 用	
			29,154.45㎡ (29,154.45㎡)	1,988.02㎡ (1,988.02㎡)		5,272.79㎡ (5,272.79㎡)		36,415.26㎡ (36,415.26㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室	125室		教 員 研 究 室		144室	大学全体	
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	大学全体		158,252〔13,341〕 (155,452〔13,341〕)	1,987〔1,868〕 (1,987〔1,868〕)	1,145〔121〕 (1,135〔121〕)	16〔16〕 (16〔16〕)	9,034 (9,345)	37 (37)		
	計		158,252〔13,341〕 (155,452〔13,341〕)	1,987〔1,868〕 (1,987〔1,868〕)	1,145〔121〕 (1,135〔121〕)	16〔16〕 (16〔16〕)	9,034 (9,345)	37 (37)		
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体	
			724.00㎡		610.56㎡		523.76㎡			

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	大学全体 ※図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員 1 人当り研究費等			300千円	300千円	300千円	300千円	－	－	
		共 同 研 究 費 等			12,000千円	12,000千円	12,000千円	12,000千円	－	－	
		図 書 購 入 費	39,022千円		11,522千円	10,022千円	10,022千円	12,522千円	－	－	
		設 備 購 入 費	150,000千円		6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	－	－	
	学生 1 人当り納付金	学部学科		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		心理学部 環境科学部 総合環境学部		1,330千円	1,130千円	1,130千円	1,130千円	－	－		
		看護学部		1,795千円	1,595千円	1,595千円	1,595千円	－	－		
		松山看護学部		1,750千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－	－		
		総合心理学部		1,280千円	1,080千円	1,080千円	1,080千円	－	－		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金，資産運用収入，雑収入 等								

既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		人間環境大学								令和4年より学生募集停止 令和4年より学生募集停止	
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収 容 定 員 率 充 足 率	開設年度	所 在 地			
	人間環境学部 心理学科 環境科学科 心理学部 心理学科 犯罪心理学科 環境科学部 フィールド生態学科 環境データサイエンス学科 看護学部 看護学科 松山看護学部 看護学科 総合心理学部 総合心理学科 総合犯罪心理学科	年	人	年次人	人			倍				
		4	－	－	－	学士（人間環境学）	－	平成29年度	愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2			
		4	－	－	－	学士（人間環境学）	－	平成29年度	同上			
		4	100	－	300	学士（心理学）	1.08	令和4年度	同上			
		4	50	－	150	学士（心理学）	1.07	令和4年度	同上			
		4	60	－	180	学士（環境科学）	1.10	令和4年度	同上			
		4	40	－	120	学士（環境科学）	1.06	令和4年度	同上			
		4	95	－	380	学士（看護学）	1.12	平成27年度	愛知県大府市江端町3-220			
		4	80	－	320	学士（看護学）	1.04	平成29年度	愛媛県松山市花園町3-6			
		4	80	－	240	学士（心理学）	1.09	令和4年度	愛媛県松山市道後樋又1192-3			
		4	50	－	50	学士（心理学）	－	令和6年度	同上			
		大 学 等 の 名 称		人間環境大学大学院								
		学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収 容 定 員 率 充 足 率	開設年度	所 在 地		
		人間環境学研究科 人間環境専攻 看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程 博士後期課程 松山看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程 博士後期課程	年	人	年次人	人			倍			
	2		8	－	16	修士（人間環境学）	1.00	平成15年度	愛知県岡崎市本宿町上三本松 6-2			
	2		20	－	40	修士（看護学）	0.42	平成27年度	愛知県大府市江端町3-220			
	3		8	－	24	博士（看護学）	0.83	平成27年度	同上			
	2		5	－	10	修士（看護学）	0.40	令和5年度	愛媛県松山市花園町3-6			
3	3		－	6	博士（看護学）	0.44	令和5年度	同上				
附属施設の概要			なし									

学校法人河原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	編入学定員	収容定員
人間環境大学	心理学部			
	心理学科	100		400
	犯罪心理学科	50		200
	環境科学部			
	フィールド生態学科	60		240
	環境データサイエンス学科	40		160
	総合心理学部			
	総合心理学科	80		320
	総合犯罪心理学科	50		200
	看護学部			
	看護学科	95		380
	松山看護学部			
	看護学科	80		320
計		555	－	2,220

令和7年度

学校名	学部・学科・課程名等	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
人間環境大学	心理学部				学部の設置 (届出)
	心理学科	100		400	
	犯罪心理学科	50		200	
	環境科学部				
	フィールド生態学科	60		240	
	環境データサイエンス学科	40		160	
	総合心理学部				
	総合心理学科	80		320	
	総合犯罪心理学科	50		200	
	総合環境学部				
	フィールド自然学科	60		240	
	環境情報学科	40		160	
	看護学部				
	看護学科	95		380	
	松山看護学部				
	看護学科	80		320	
計		655	－	2,620	

人間環境大学大学院	人間環境学研究科（M）	8	－	16
	看護学研究科看護学専攻博士前期課程（M）	20		40
	看護学研究科看護学専攻博士後期課程（D）	8		24
	松山看護学研究科看護学専攻博士前期課程（M）	5		10
	松山看護学研究科看護学専攻博士後期課程（D）	3		9
計		44	－	99

人間環境大学大学院	人間環境学研究科（M）	8	－	16
	看護学研究科看護学専攻博士前期課程（M）	20		40
	看護学研究科看護学専攻博士後期課程（D）	8		24
	松山看護学研究科看護学専攻博士前期課程（M）	5		10
	松山看護学研究科看護学専攻博士後期課程（D）	3		9
計		44	－	99

河原電子ビジネス専門学校	ITイノベーション科（4年制）	250	－	630
	ITエンジニア科（3年制）			
	ITエンジニア科（2年制）			
	ゲームクリエイター科（3年制）			
	ICTマネジメント科（3年制）			
	日本語学科（1年コース）			
	日本語学科（1.5年コース）			
	日本語学科（2年コース）			
	日本語キャリア専攻科（1年制）			
計		250	－	630

河原電子ビジネス専門学校	ITイノベーション科（4年制）	250	－	630
	ITエンジニア科（3年制）			
	ITエンジニア科（2年制）			
	ゲームクリエイター科（3年制）			
	ICTマネジメント科（3年制）			
	日本語学科（1年コース）			
	日本語学科（1.5年コース）			
	日本語学科（2年コース）			
	日本語キャリア専攻科（1年制）			
計		250	－	630

河原医療大学校新居浜校	医療事務科（1年制）	90	－	160
	医療総合科（2年制）			
	歯科衛生学科（3年制）			
	IT・Webシステム科	募集停止	－	募集停止
計		90	－	160

河原医療大学校新居浜校	医療事務科（1年制）	90	－	160
	医療総合科（2年制）			
	歯科衛生学科（3年制）			
	IT・Webシステム科	募集停止	－	募集停止
計		90	－	160

河原医療福祉 専門学校	介護福祉科 （2年制） 社会福祉メディ カルソーシャル 科（3年制） こども未来科 （2年制） 柔道整復師科 （3年制） 鍼灸師科 （3年制）	266	－	678	→	河原医療福祉 専門学校	介護福祉科 （2年制） 社会福祉メディ カルソーシャル 科（3年制） こども未来科 （2年制） 柔道整復師科 （3年制） 鍼灸師科 （3年制）	266	－	678	
計		266	－	678		計		266	－	678	
大原簿記公務員 専門学校愛媛校	会計学科（4年制） 総合ビジネス科 （2年制） 公務員ビジネス科 （2年制） 公務員専攻科 （1年制）	200	－	380	→	大原簿記公務員 専門学校愛媛校	会計学科（4年制） 総合ビジネス科 （2年制） 公務員ビジネス科 （2年制） 公務員専攻科 （1年制）	200	－	380	
計		200	－	380		計		200	－	380	
河原デザイン・アート 専門学校	3DCGゲーム・アニメ科 （2年制） グラフィックデ ザイン科（2年制） 漫画クリエイター 科（2年制） ネット動画クリエイター 科（2年制） インテリア・建築 デザイン科（2年制） 3DCGゲーム・アニメ研究 科（1年制） インテリア・建築 専攻科（1年制） インテリア・建築 研究科（2年制）	210	－	375	→	河原デザイン・アート 専門学校	デジタルデザイ ン科（2年制） グラフィックデ ザイン科（2年制） 漫画クリエイター 科（2年制） インテリア・建築 デザイン科（2年制） クリエイター研究 科（1年制） インテリア・建築 専攻科（1年制） インテリア・建築 研究科（2年制）	210	－	375	
計		210	－	375		計		210	－	375	
河原アイペットワールド 専門学校	動物看護・健康管 理学科（3年制） トリマー学科 （2年制） ペット総合学科（2年 制）	120	－	280	→	河原アイペットワールド 専門学校	動物看護・健康管 理学科（3年制） トリマー学科 （2年制） ペット総合学科（2年 制）	120	－	280	
計		120	－	280		計		120	－	280	
河原医療大学校	看護学科（3年制） 理学療法学科 （4年制） 作業療法学科 （3年制） 歯科衛生学科 （3年制） 歯科技工学科 （2年制） 診療情報管理学科 （3年制）	210	－	650	→	河原医療大学校	看護学科（3年制） 理学療法学科 （4年制） 作業療法学科 （3年制） 歯科衛生学科 （3年制） 歯科技工学科 （2年制） 診療情報管理学科 （3年制）	210	－	650	
計		210	－	650		計		210	－	650	
河原ビューティモード 専門学校	理容学科（2年制） 美容学科（2年制） トータルビューテ ィ学科（2年制）	190	－	380	→	河原ビューティモード 専門学校	理容学科（2年制） 美容学科（2年制） トータルビューテ ィ学科（2年制）	190	－	380	
計		190	－	380		計		190	－	380	
河原外語観光・製菓専門 学校	パティシエ・フラン ジェ科（2年制） エアライン・観光 科（2年制） ブライダル・ホテ ル科（2年制） 医療・総合事務科（2年 制） 外国語学科 （2年制） 声優タレント科 （2年制）	220	－	480	→	河原外語観光・製菓専門 学校	パティシエ・フラン ジェ科（2年制） エアライン・観光 科（2年制） ブライダル・ホテ ル科（2年制） 医療・総合事務科（2年 制） 外国語学科 （2年制） 声優タレント科 （2年制）	220	－	480	
計		220	－	480		計		220	－	480	
未来高等学校	通信制課程 普通 科 単位制	610	－	1,880	→	未来高等学校	通信制課程 普通 科 単位制	610	－	1,880	
計		610	－	1,880		計		610	－	1,880	
未来高等学校 新居浜校	通信制課程 普通 科 単位制	40	－	120	→	未来高等学校 新居浜校	通信制課程 普通 科 単位制	40	－	120	
計		40	－	120		計		40	－	120	
河原調理専門学校	調理師養成学科 （高等専門課程） 調理科（専門課程）	36 36	－ －	108 36	→	河原調理専門学校	調理師養成学科 （高等専門課程） 調理科（専門課程）	36 36	－ －	108 36	
計		72	－	144		計		72	－	144	
人間環境大学附属 岡崎高等学校	全日制課程 普通科	315	－	945	→	人間環境大学附属 岡崎高等学校	全日制課程 普通科	315	－	945	
計		315	－	945		計		315	－	945	

人間環境大学附属 岡崎中学校	休校中	-	-	-	人間環境大学附属 岡崎中学校	休校中	-	-	-	
計		-	-	-	計		-	-	-	

愛光幼稚舎	幼稚園	240	-	480	愛光幼稚舎	幼稚園	240	-	480	
計		240	-	480	計		240	-	480	

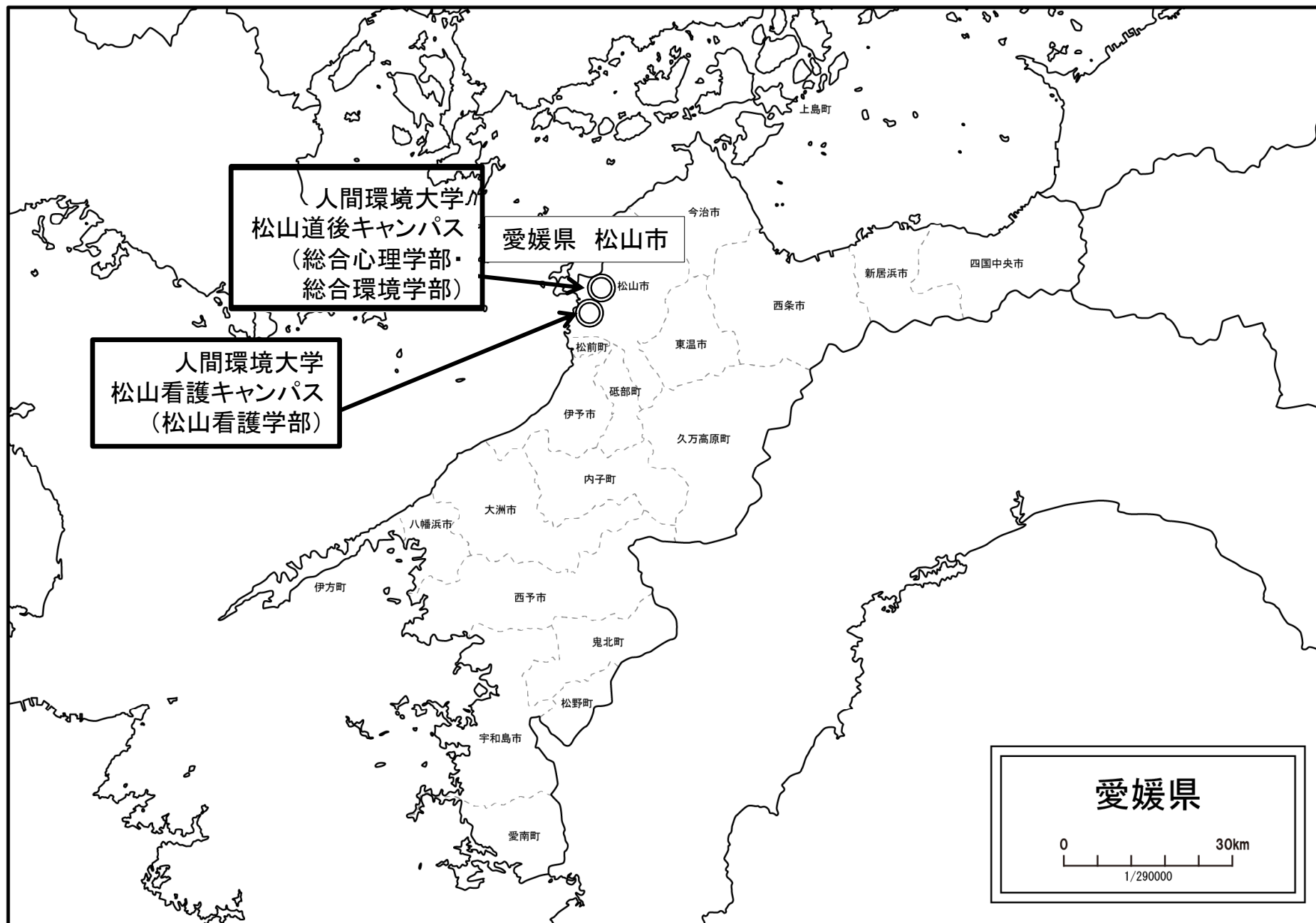
校地校舎等の図面 目次

- ①都道府県内における位置関係の図面 P. 2
- ②最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面 P. 3
- ③校舎、運動場等の配置図 P. 4
- ④校舎の平面図 P. 5
- ⑤工程表 P. 21

校地校舎等の図面

①都道府県内における位置関係の図面

(松山道後キャンパス:総合心理学部・総合環境学部)



②最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面
(松山道後キャンパス:総合心理学部・総合環境学部)

松山道後
キャンパス

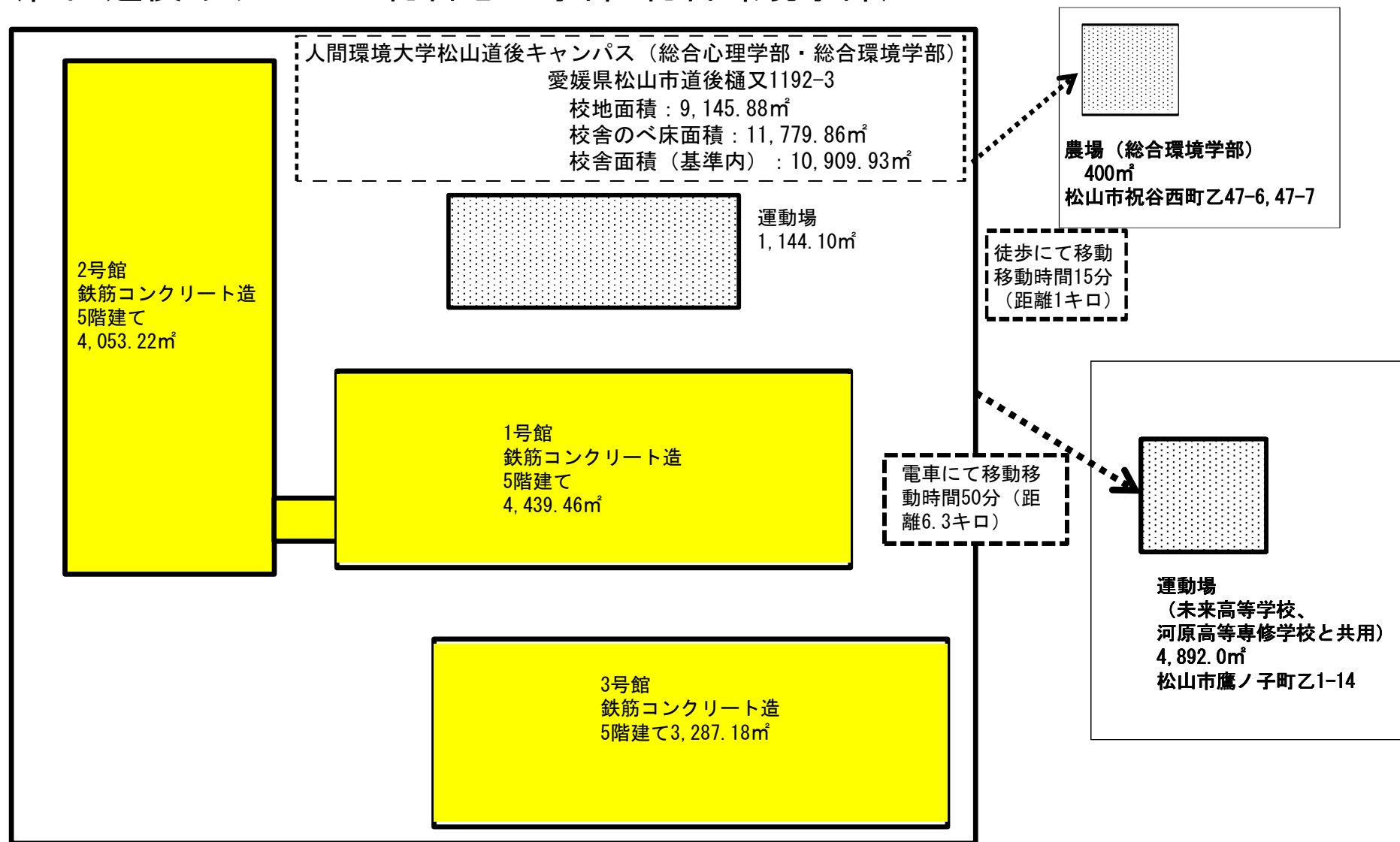
伊予鉄「赤十字病院前」駅
より0.5キロ
徒歩6分

伊予鉄環状線 赤十字病院前駅
(「松山市」駅から16分)

校地校舎等の図面

③校舎、運動場等の配置図

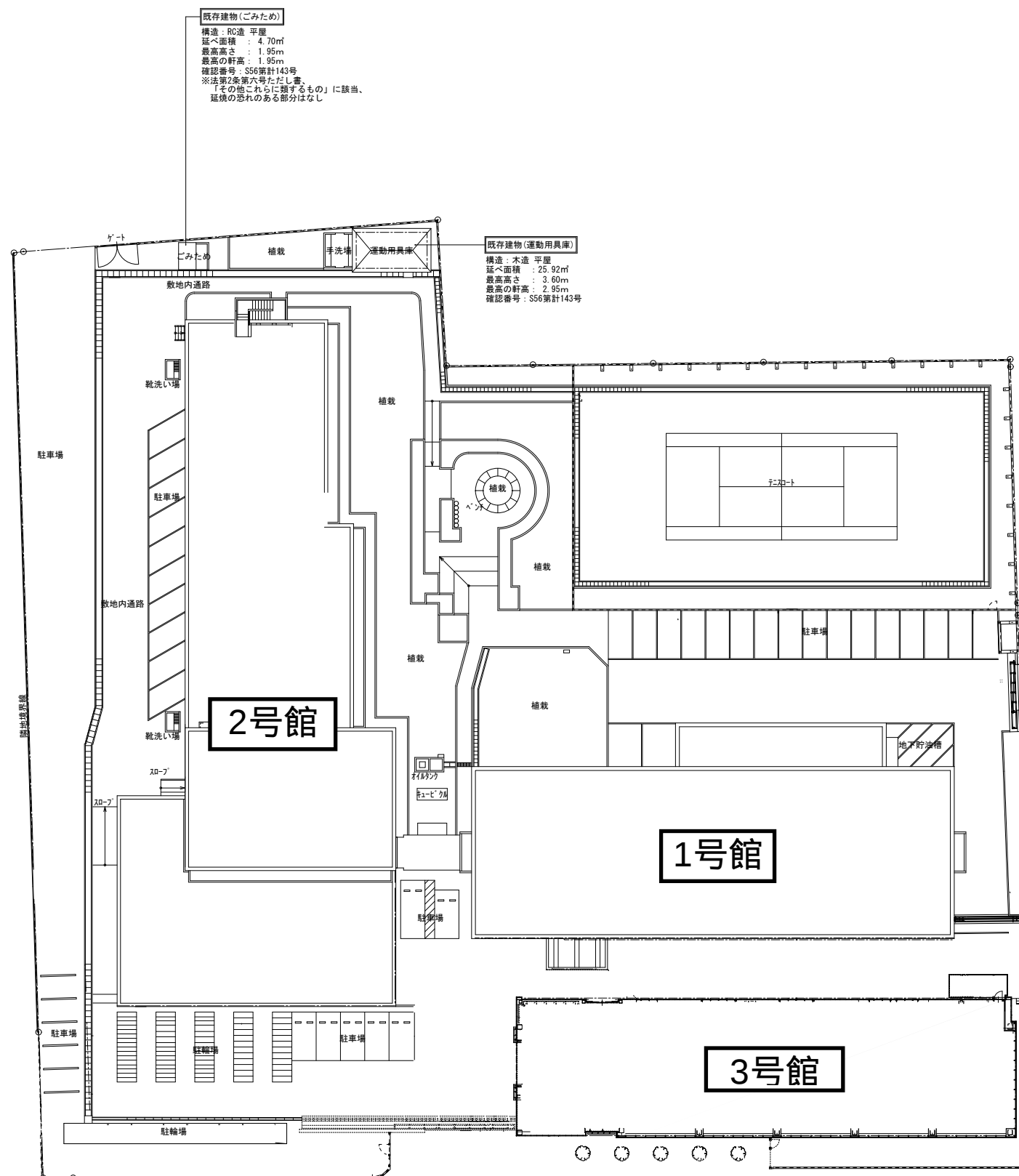
(松山道後キャンパス:総合心理学部・総合環境学部)



1号館、2号館、3号館とも全て総合心理学部、
総合環境学部の専用かつ総合心理学科、総合
犯罪心理学科、フィールド自然学科、環境情
報学科で共用

校舎平面図（松山道後キャンパス）

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、
総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用



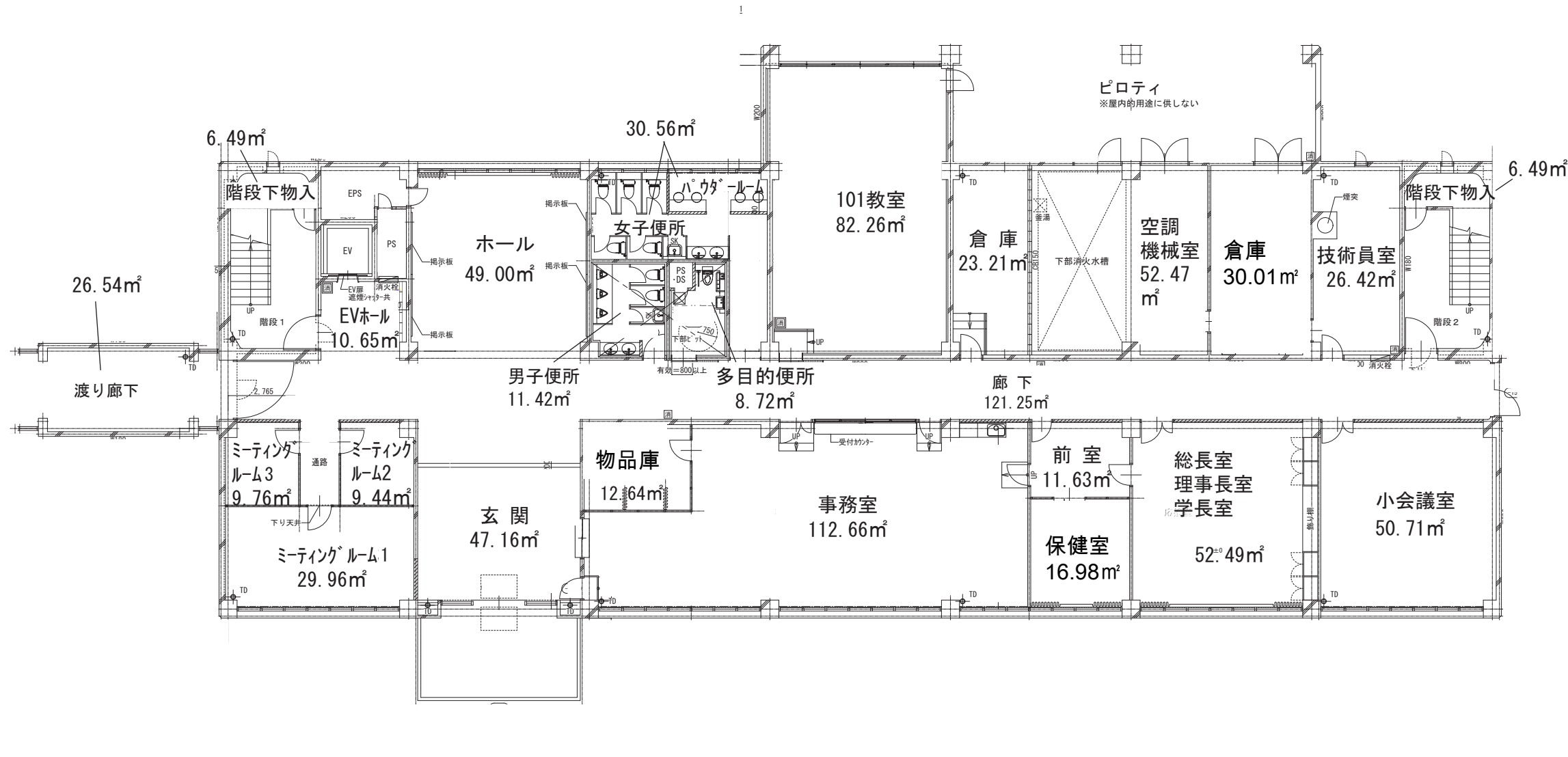
- ※ 設計 G、L (±0) = K B M -600 とする
- ※ 平均地盤面 = 設計 G、L +
- ※ (****) : 平均地盤面からの高さを示す。
- ※ (****) : 棟別平均地盤面からの高さを示す。
- ※ 道路斜率: 断面図による。
- ※ 隣地斜率: $20.00\text{m} + (48.74 \times 1.25) = 80.925 > \text{最高高さ} : 22.140$ ∴ 影響なし。
- ※ 本工事において、30cm以上の切土、盛土及び造成なし。

株式会社 鳳建築設計事務所
代表取締役 小林 寛之
一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第330号

	資格/番号	氏 名	捺印	製 図		特記事項	工事名称	河原学園 人間環境大学 松山道後キャンパス新校舎 増築工事	縮尺	図番
代 表 設 計 者	一級建築士 第160718号	花山 修二							1/400	A-02
担 当 設 計 者							図面名称	配置図		日付 ー

1号館1階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用

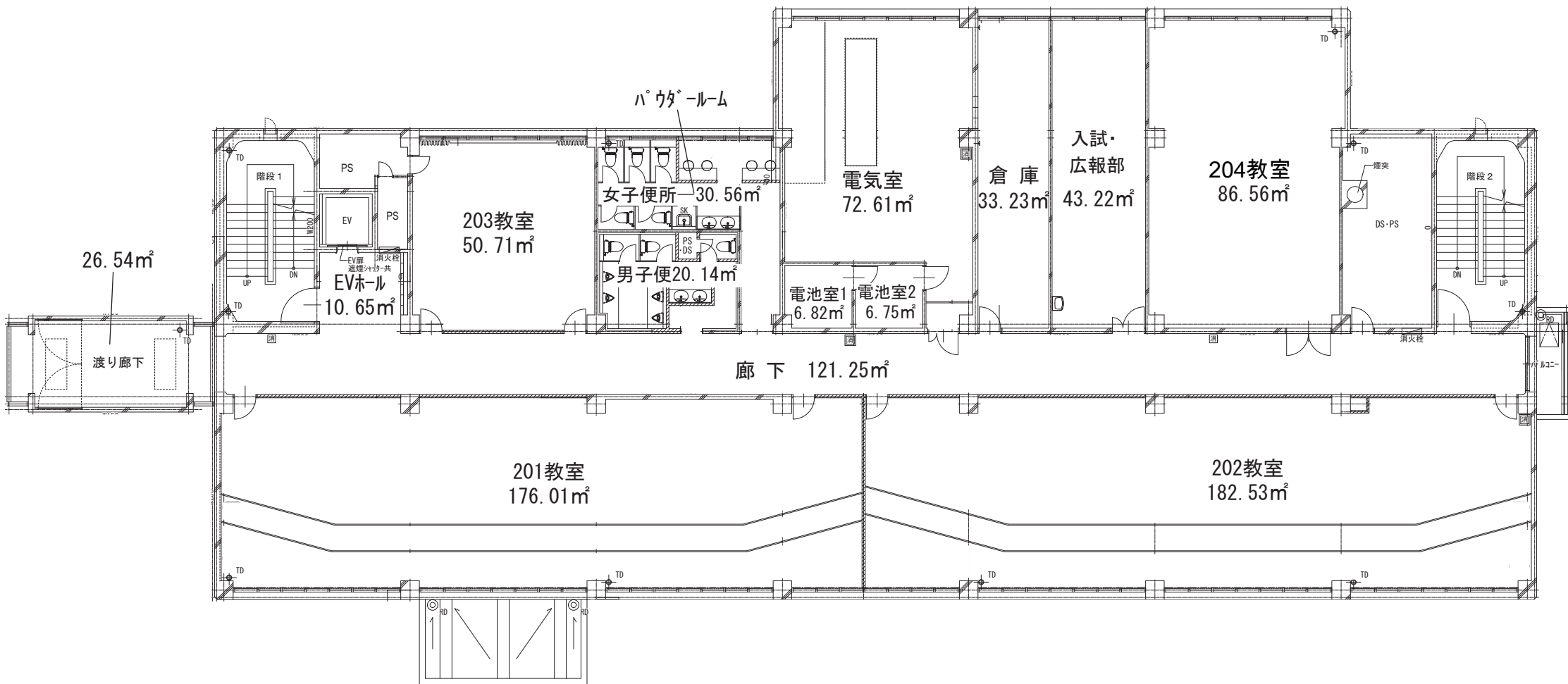


(改修後) 1 階平面図 S=1:100

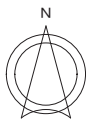
記 事		業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務 株式会社 緑企画設計 松山支店 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一級建築士(大図) 第327015号 管理建築士 篠森啓一	工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事 図面名称 [本館棟] (改修後) 1 階平面図	設計年月 令和2年 8月 縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-25

1号館2階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用



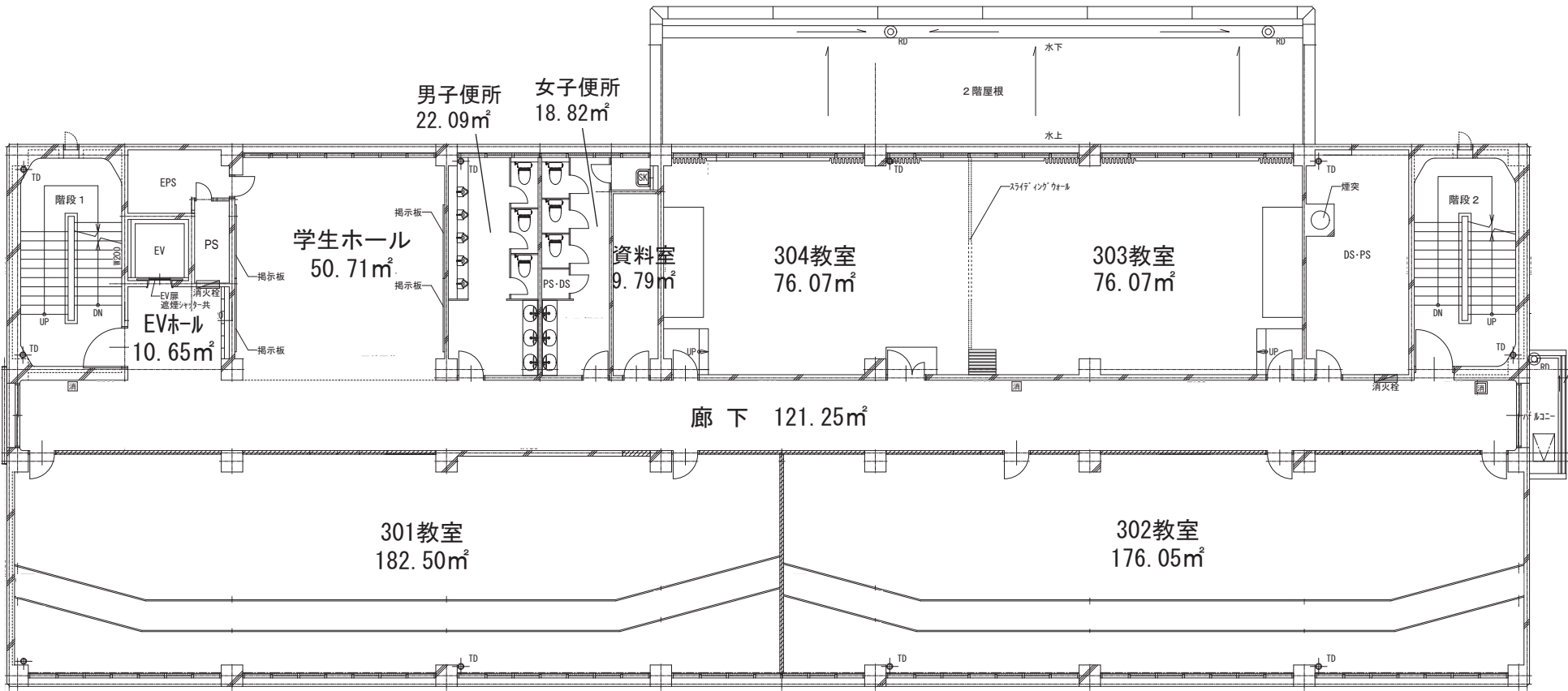
(改修後) 2 階平面図 S=1:100



記 事		業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務 株式会社 緑企画設計 松山支店 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一級建築士(大匠) 第327015号 管理建築士 篠森啓一	工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事 図面名称 [本館棟] (改修後) 2 階平面図	設計年月 令和2年 8月 縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-26

1号館3階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用

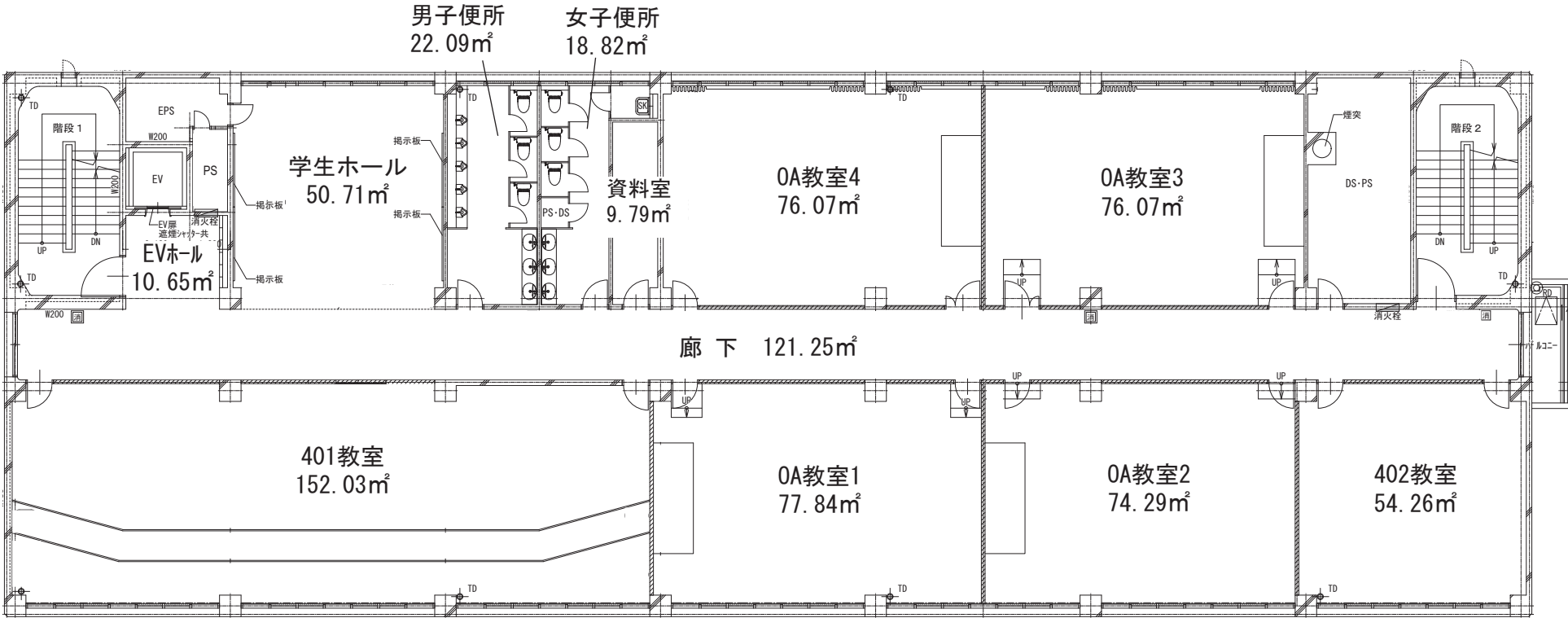


(改修後) 3 階平面図 S=1:100

記 事		業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務 株式会社 緑企画設計 松山支店 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一級建築士 (大匠) 第327015号 管理建築士 篠森啓一	工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事 図面名称 [本館棟] (改修後) 3 階平面図	設計年月 令和2年 8月 縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-27

1号館4階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用



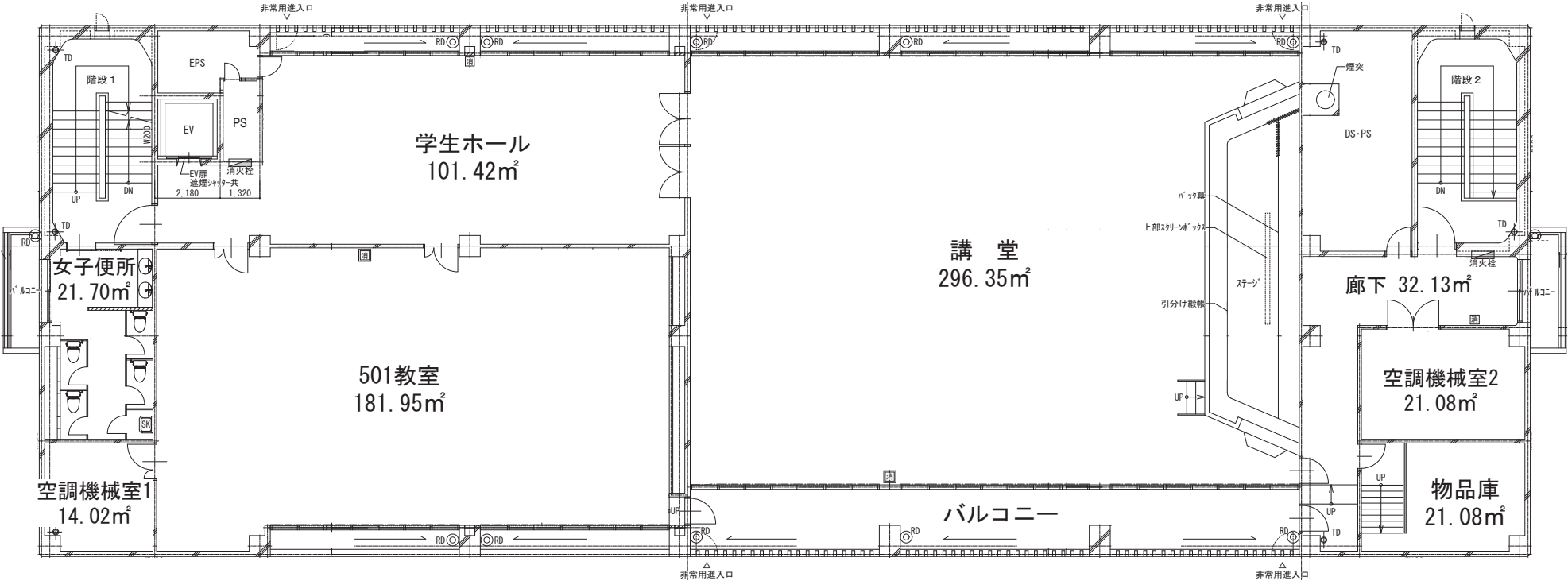
(改修後) 4 階平面図 S=1:100



記 事		業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務 株式会社 緑企画設計 松山支店 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一級建築士(大匠) 第327015号 管理建築士 篠森啓一	工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事 図面名称 [本館棟] (改修後) 4 階平面図	設計年月 令和2年 8月 縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-28

1号館5階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用



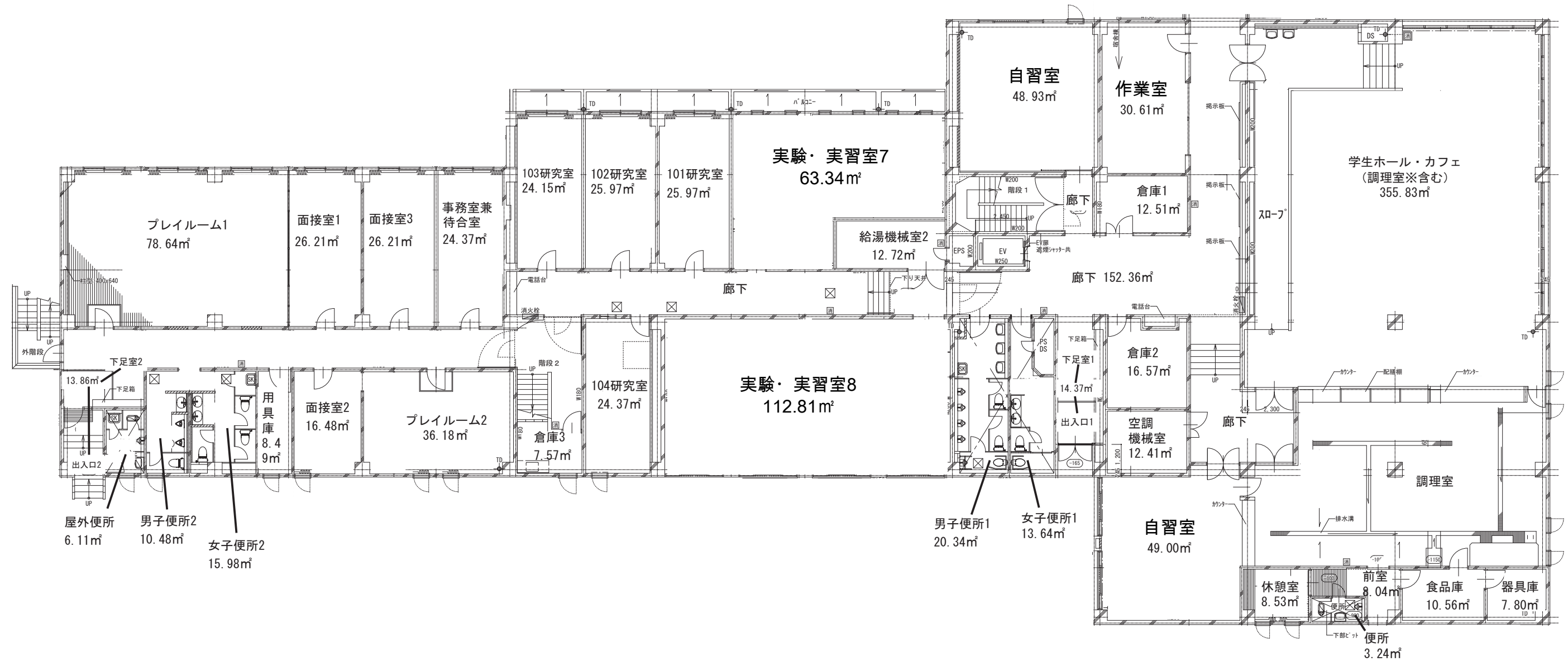
(改修後) 5 階平面図 S=1:100



記 事		業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務 株式会社 緑企画設計 松山支店 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一級建築士 (大匠) 第327015号 管理建築士 横森啓一	工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事 図面名称 [本館棟] (改修後) 5 階平面図	設計年月 令和2年 8月 縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-29

2号館1階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用



(改修後) 1 階平面図 S=1:100

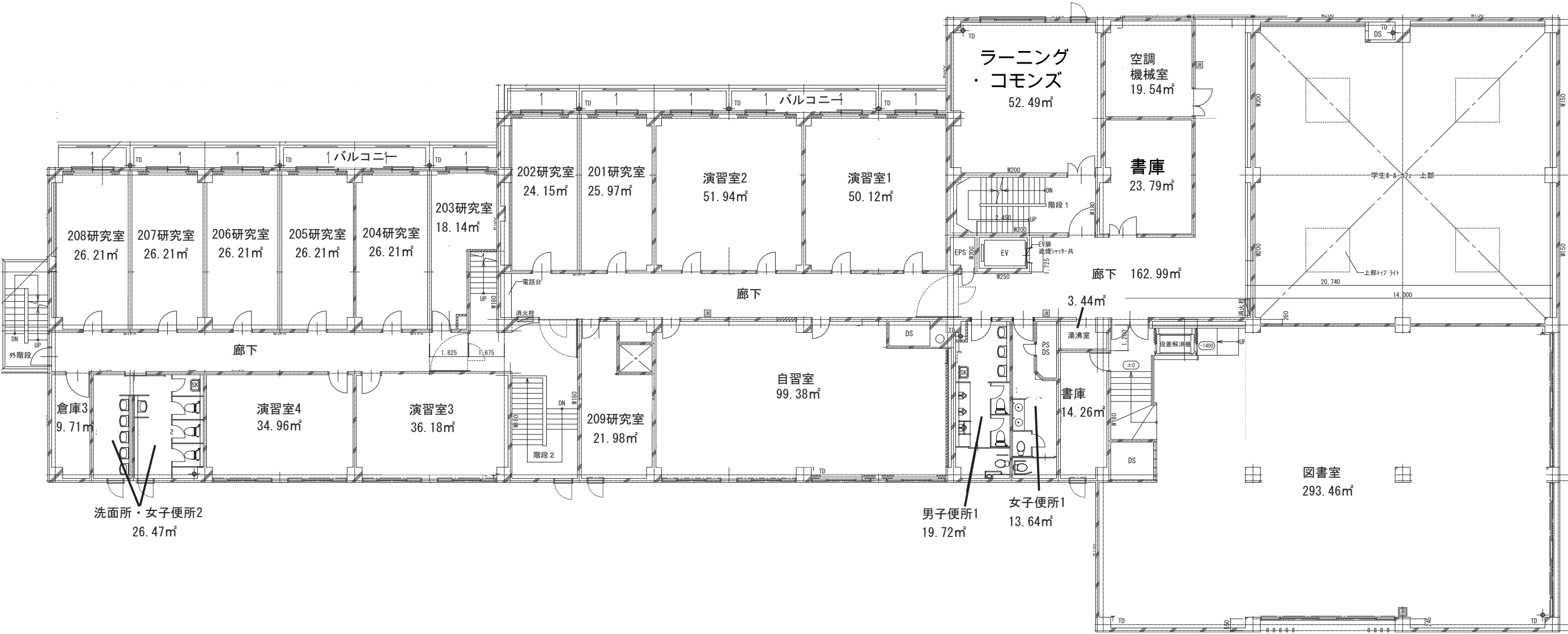


記 事		業務名称			工事名称		設計年月		
		(仮称)河原学園道後樋又施設改修設計業務			(仮称)河原学園道後樋又施設改修工事		令和2年 8月		
		 株式会社 綜企画設計 松山支店			一級建築士事務所 梁堀県知事登録 第2311号 一級建築士(大臣)第327015号 管理建築士 篠森啓一	印	図面名称 [元宿舎棟] (改修後)1階平面図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-31

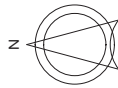
2号館2階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科共用

渡り廊下



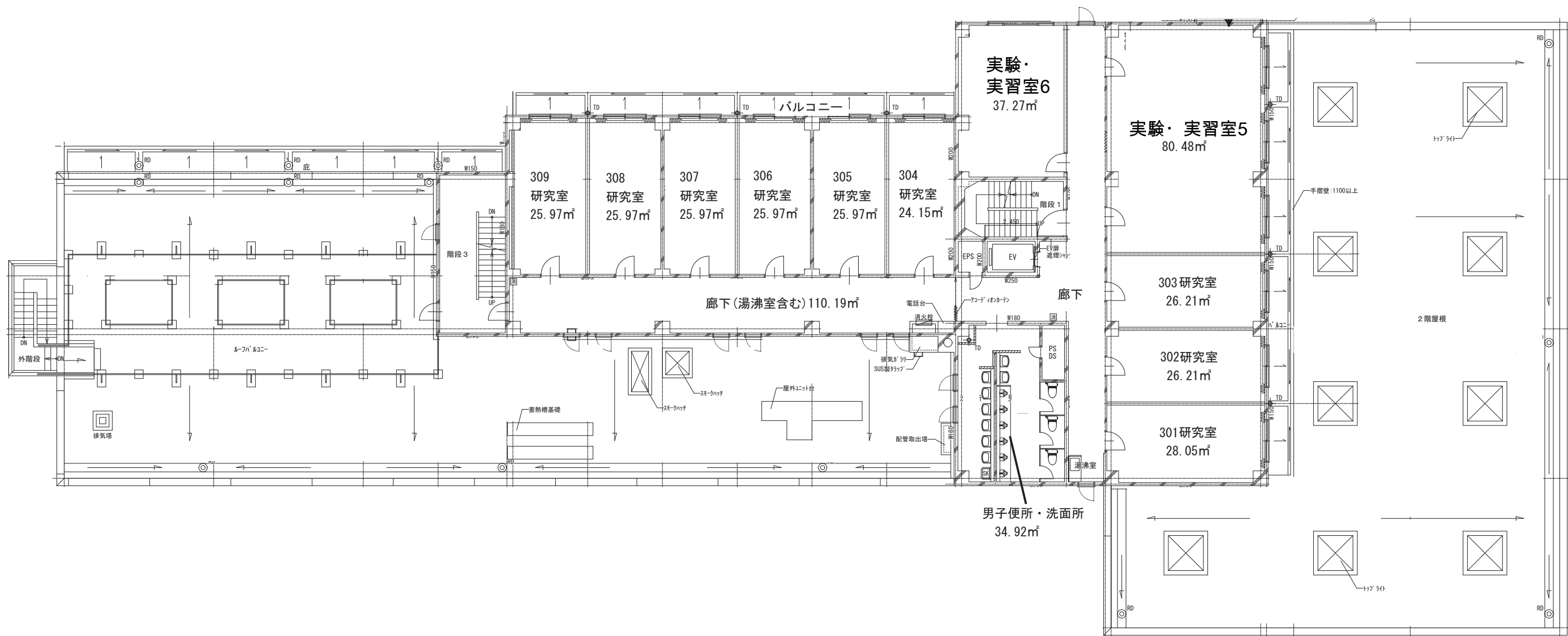
(改修後) 2階平面図 S=1:100



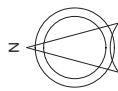
記 事	業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務				工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事		設計年月 令和2年 8月	
	株式会社 緑企画設計 松山支店 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一級建築士 (大匠) 第327015号 管理建築士 篠森啓一				図面名称 [元宿舎棟] (改修後) 2階平面図		縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-32

2号館3階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科共用



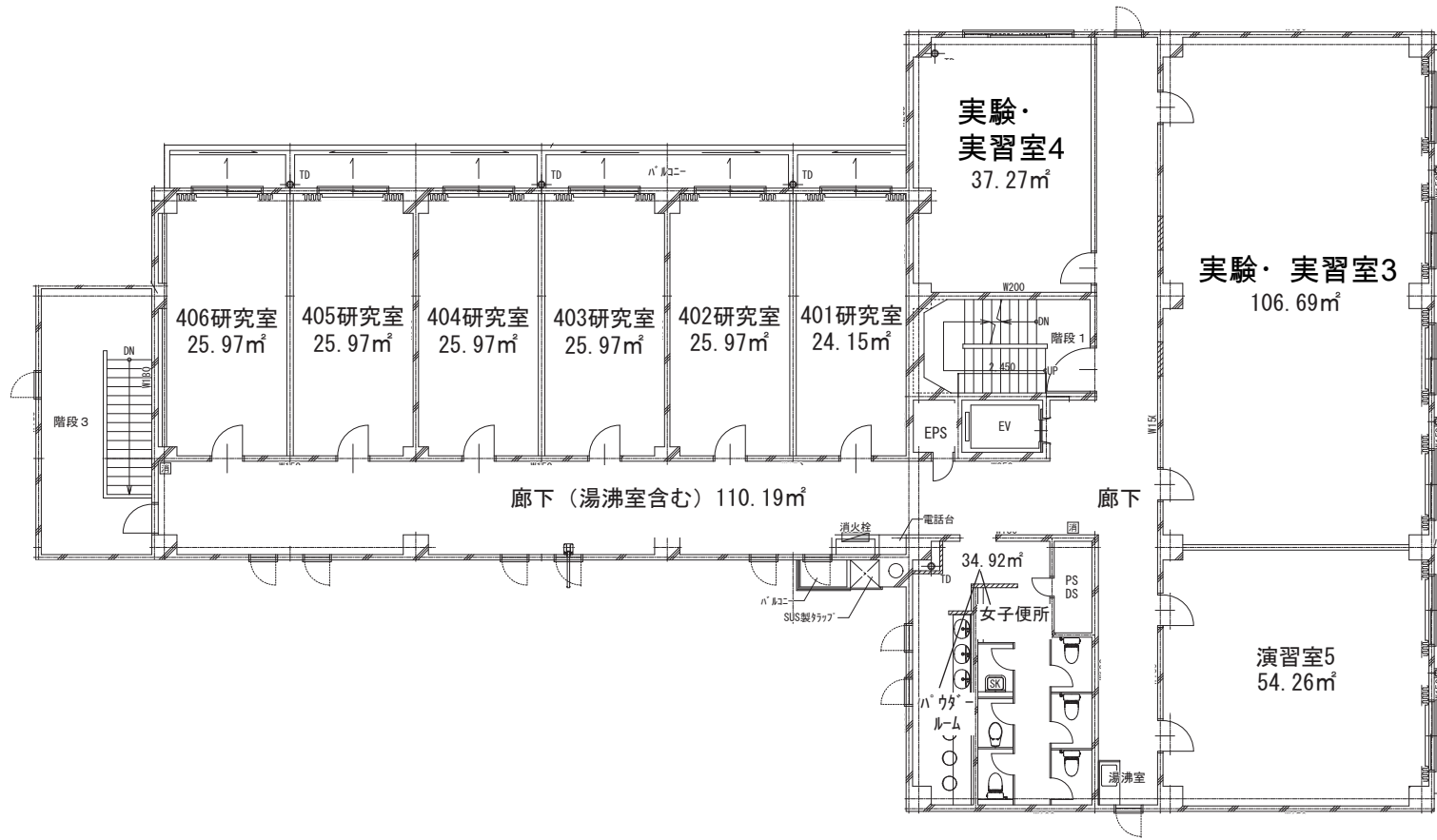
(改修後) 3階平面図 S=1:100



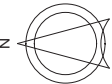
記 事	業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務				工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事		設計年月 令和2年 8月
	株式会社 緑企画設計 松山支店 一般建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一般建築士(大匠) 第327015号 管理建築士 篠森啓一				図面名称 [元宿舎棟] (改修後) 3階平面図	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-33

2号館4階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用



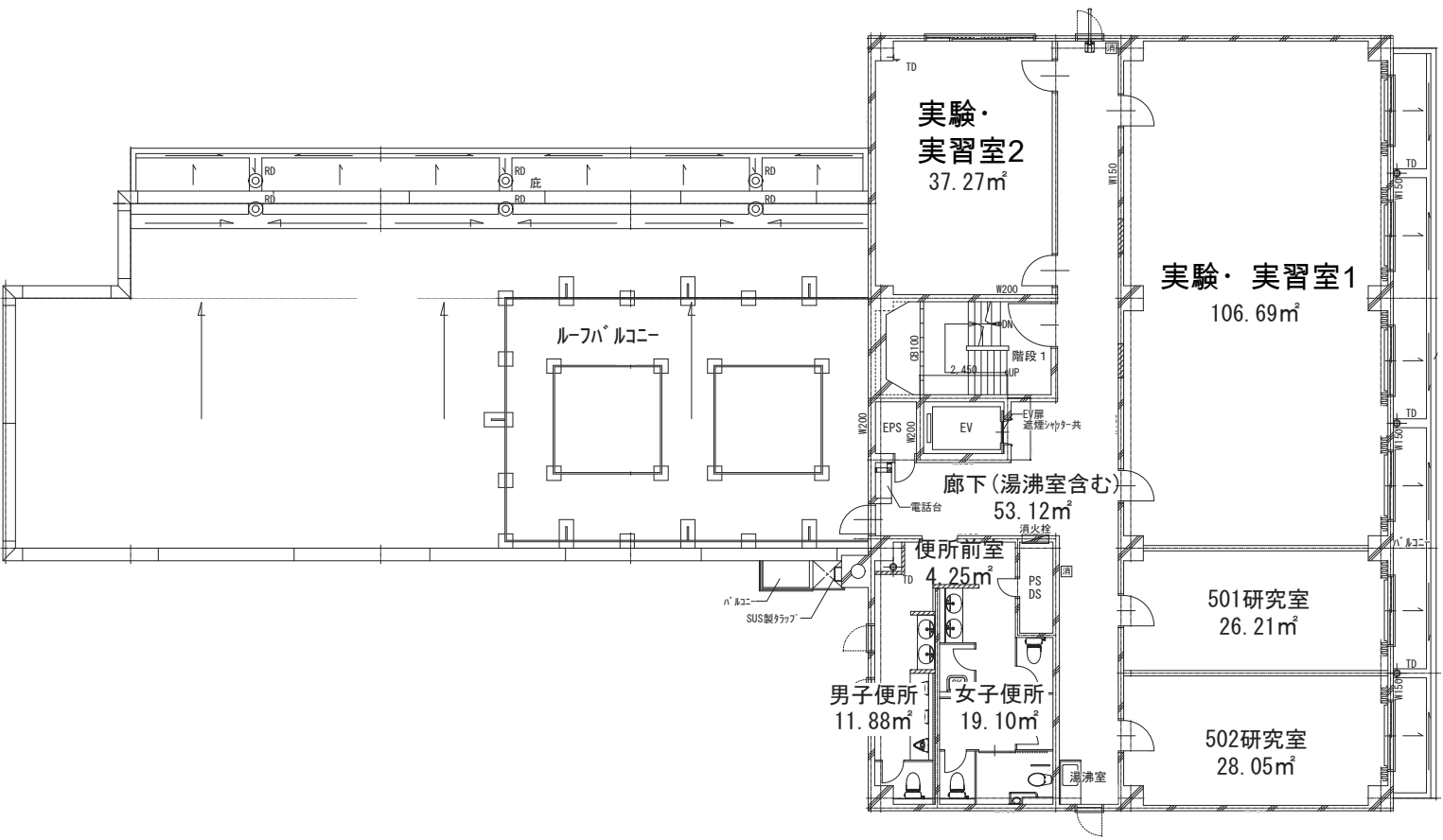
(改修後) 4 階平面図 S=1:100



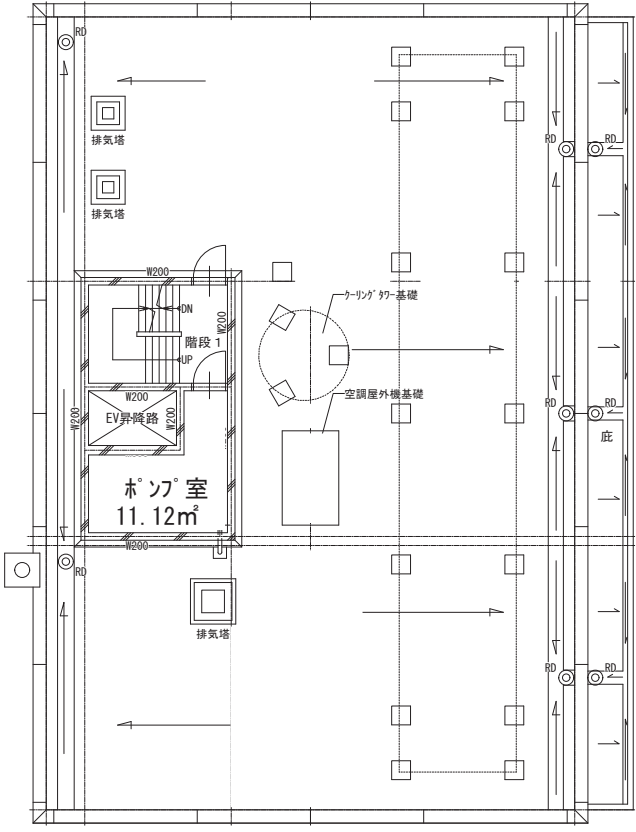
記 事		業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務 株式会社 緑企画設計 松山支店 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一級建築士 (大田) 第327015号 管理建築士 篠森啓一	印 ・	工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事 図面名称 [元宿舎棟] (改修後) 4 階平面図	設計年月 令和2年 8月 縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-34

2号館5階

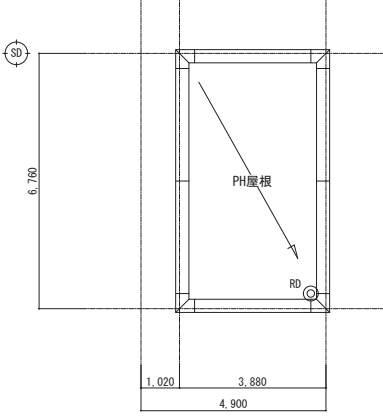
全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共用



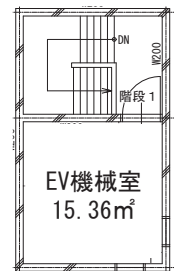
(改修後) 5階平面図 S=1:100



(改修後) R階平面図 S=1:100



(改修後) PH屋根伏図 S=1:100

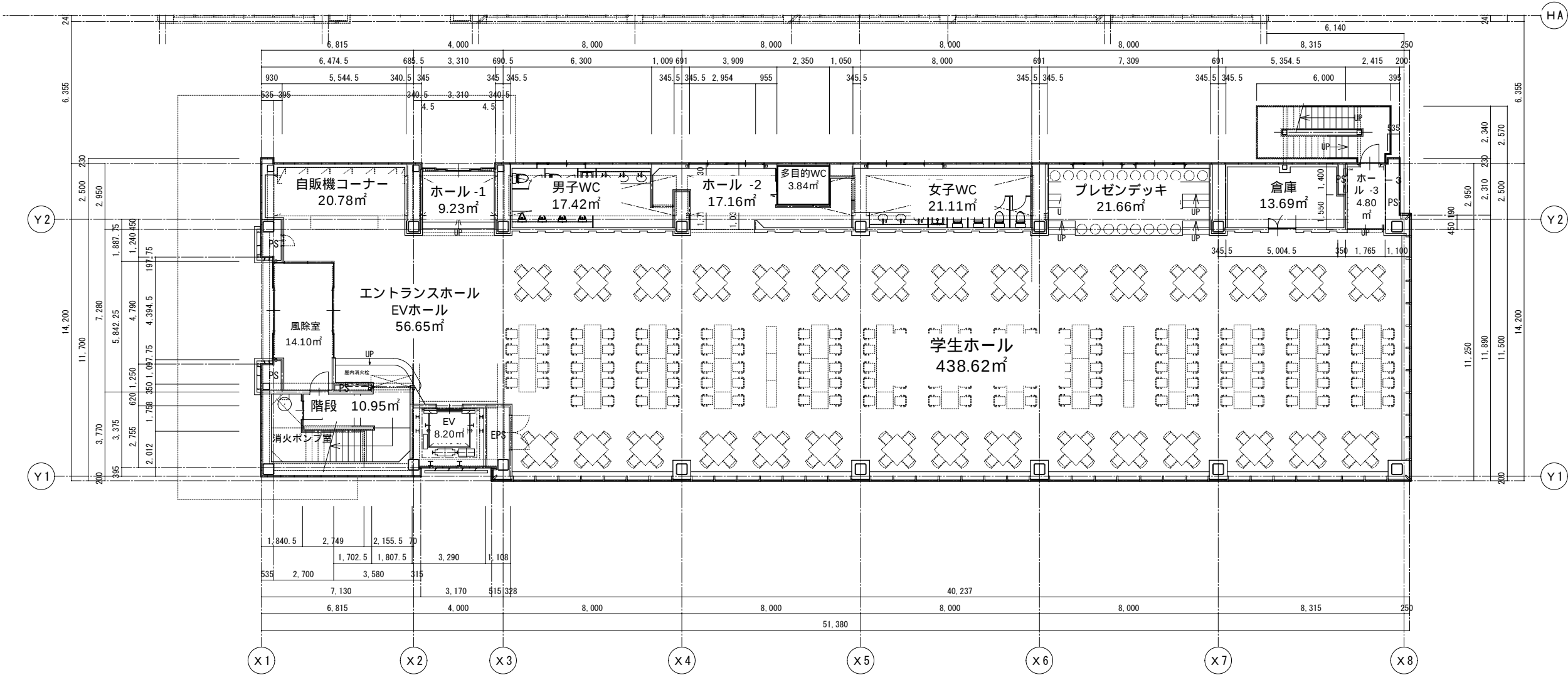


(改修後) PH階平面図 S=1:100

記 事	業務名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修設計業務				工事名称 (仮称) 河原学園道後樋又施設改修工事		設計年月 令和2年 8月	
	株式会社 緑企画設計 松山支店 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第2311号 一級建築士(大田) 第327015号 管理建築士 篠森啓一				図面名称 [元宿舎棟] (改修後) 5階, R階, PH階平面図		縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 A-35

3号館1階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共有



1 階 平 面 図 S=1/150

凡 例
--- 特記なき部分は、地下配管ビットを示す。



翫鳳建築設計事務所
代表取締役 小林 寛之
一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第330号

代 表
設 計 者
担 当
設 計 者

資格/番号
一級建築士 第160718号

氏 名
花山 修二

捺 印

製 図

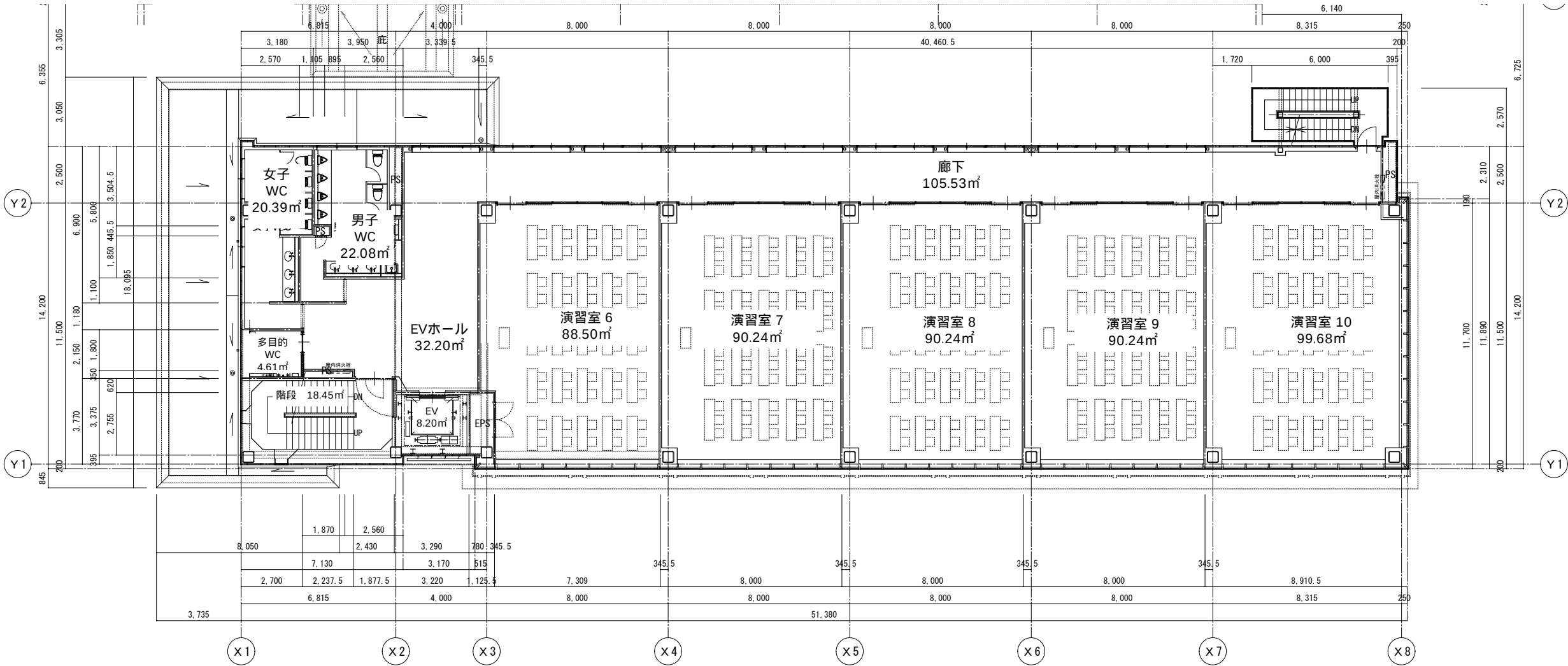
特記事項

工事名称 河原学園 人間環境大学
松山道後キャンパス新校舎 増築工事
図面名称 1 階平面図

縮尺 1/150
図番 A-07
日付 -

3号館2階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共有



2 階 平 面 図 S=1/150

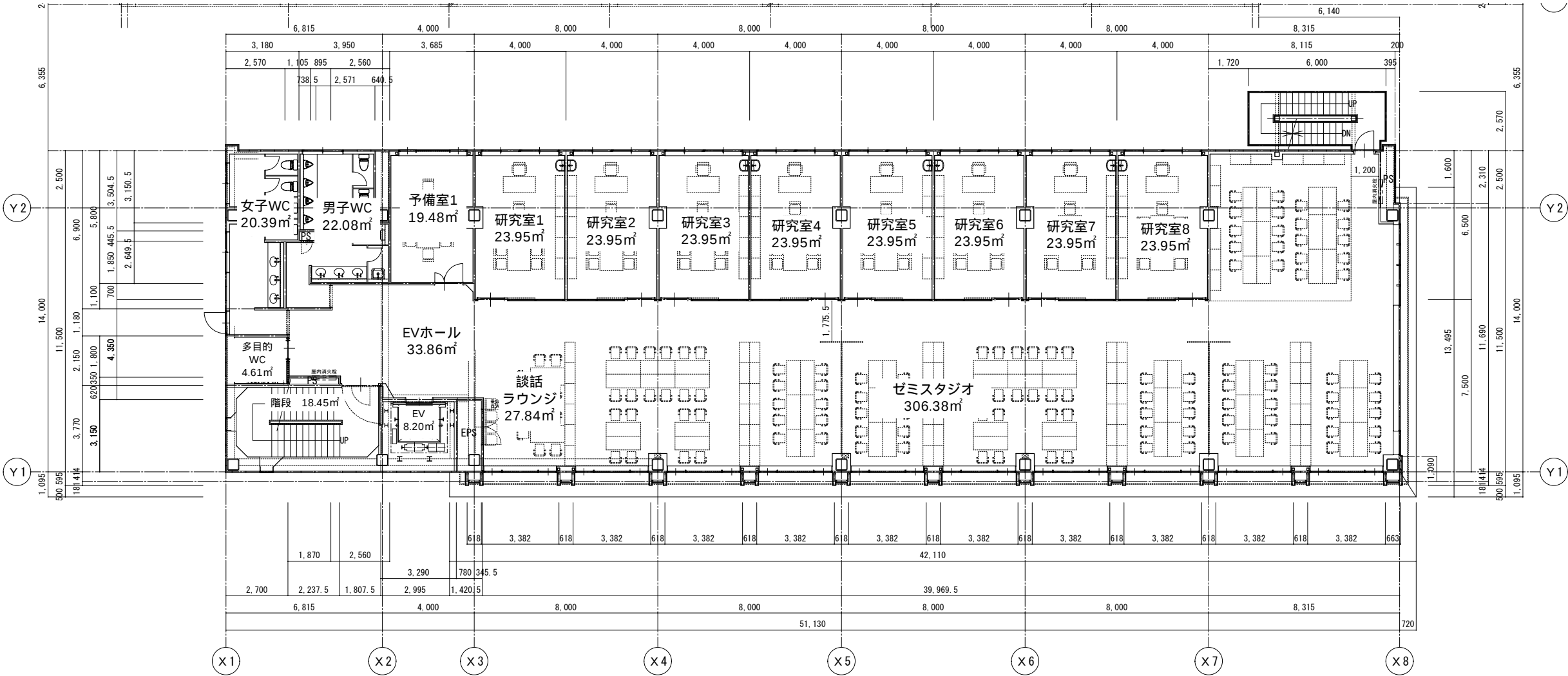


翫鳳建築設計事務所
代表取締役 小林 寛之
一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第330号

代表 設計者 担 当 設計者	資格/番号	氏 名	捺印	製 図	特記事項	工事名称	図面名称	縮尺 1/150	図番 A-08 日付 ー
	一級建築士 第160718号	花山 修二				河原学園 人間環境大学 松山道後キャンパス新校舎 増築工事	2 階平面図		

3号館3階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共有



3 階 平 面 図 S=1/150



鷺鳳建築設計事務所

代表取締役 小林 寛之
一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第330号

代表
設計者
担
当
設計者

資格/番号
一級建築士 第160718号

氏 名
花山 修二

捺印

製 図

特記事項

工事名称

河原学園 人間環境大学
松山道後キャンパス新校舎 増築工事

図面名称

3 階平面図

縮尺

1/150

図番

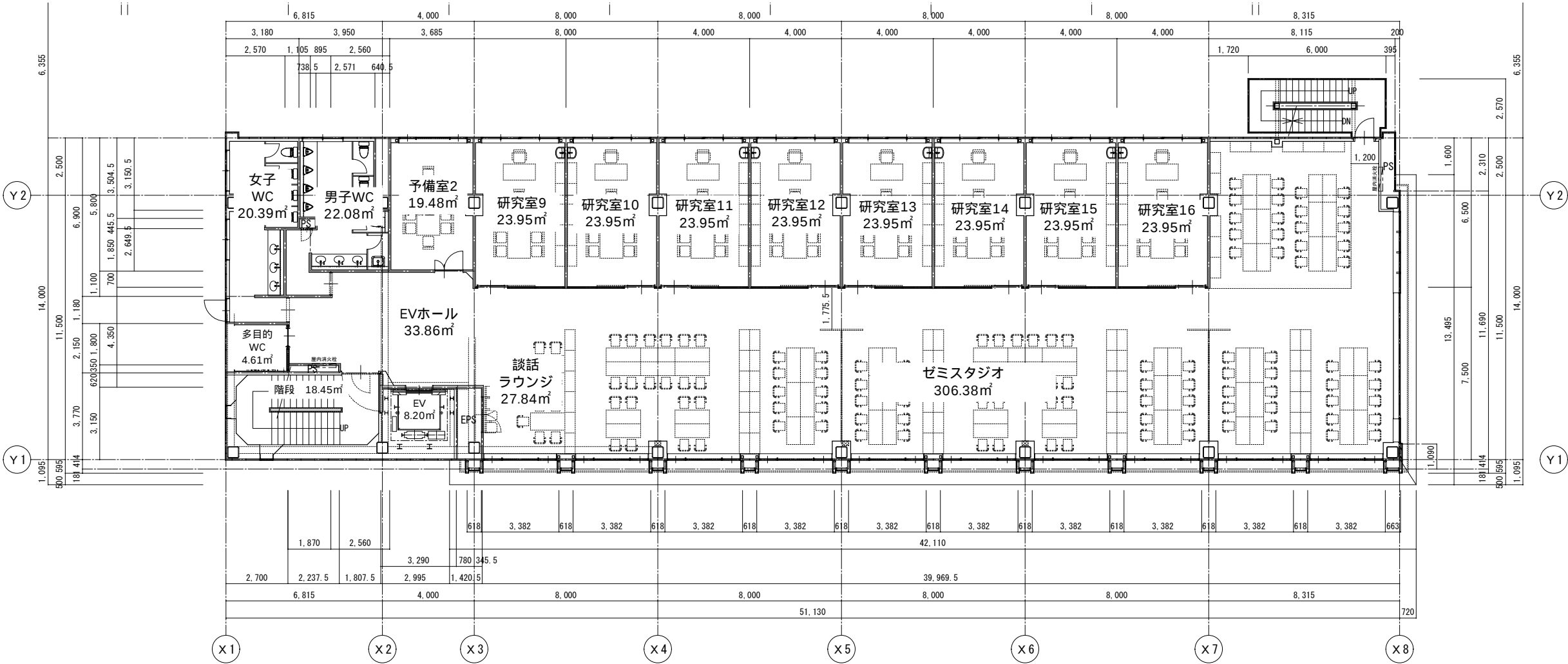
A-09

日付

一

3号館4階

全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共有



4 階 平 面 図 S=1/150



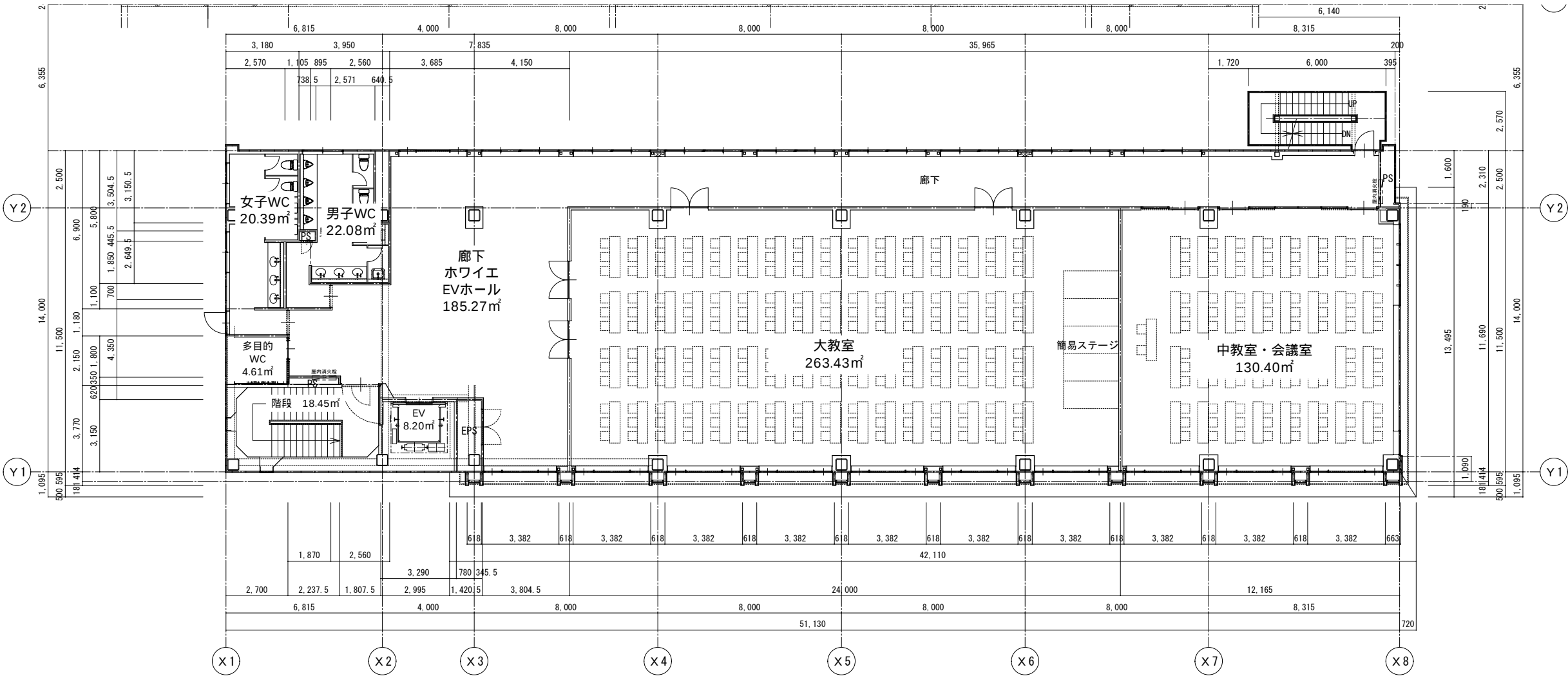
翫鳳建築設計事務所
代表取締役 小林 寛之
一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第330号

資格/番号	氏 名	捺印	製 図	特記事項	工事名称 河原学園 人間環境大学 松山道後キャンパス新校舎 増築工事	縮尺 1/150	図番 A-10
一級建築士 第160718号	花山 修二				図面名称 4 階平面図		日付 ー

3号館5階



全て総合心理学部総合心理学科、総合犯罪心理学科、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の共有



5 階 平 面 図 S=1/150

翫鳳建築設計事務所 代表取締役 小林 寛之 一級建築士事務所 愛媛県知事登録 第330号	資格/番号 一級建築士 第160718号 氏 名 花山 修二 捺印 製 図	特記事項	工事名称 河原学園 人間環境大学 松山道後キャンパス新校舎 増築工事 図面名称 5 階平面図	縮尺 1/150	図番 A-11 日付 —

工程表

名称	松山道後キャンパス 3号館新築工事及び1・2号館改修工事											
期間	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日											

工程名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
準備解体												
地盤改良												
建築工事												
改修工事												
検査・引き渡し												
家具備品等搬入												

備考

人間環境大学 学則（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 本学は、建学の精神に則り、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

2 本学の学部及び学科の人材の養成に関する目的、その他教育研究上の目的については、別に定める。

（自己評価、認証評価機関による認証評価等）

第2条 前条の目的を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前条の目的を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるものとする。

3 第一項の点検及び評価の項目並びに前二項の実施体制については、別に定める。

第2章 学部、学科、学生定員、専攻、修業年限及び大学院

（学部及び学科）

第3条 本学に、次の学部及び学科を置く。

- 1 心理学部
心理学科
犯罪心理学科
- 2 環境科学部
フィールド生態学科
環境データサイエンス学科
- 3 看護学部
看護学科
- 4 松山看護学部
看護学科
- 5 総合心理学部
総合心理学科
総合犯罪心理学科
- 6 総合環境学部
フィールド自然学科
環境情報学科

（大学院）

第3条の2 本大学に大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

（学部、学科の学生定員）

第4条 本学の学生定員は、次の通りとする。

- 1 心理学部

	心理学科	入学定員	100 名	収容定員	400 名
	犯罪心理学科	入学定員	50 名	収容定員	200 名
2	環境科学部				
	フィールド生態学科	入学定員	60 名	収容定員	240 名
	環境データサイエンス学科	入学定員	40 名	収容定員	160 名
3	看護学部				
	看護学科	入学定員	95 名	収容定員	380 名
4	松山看護学部				
	看護学科	入学定員	80 名	収容定員	320 名
5	総合心理学部				
	総合心理学科	入学定員	80 名	収容定員	320 名
	総合犯罪心理学科	入学定員	50 名	収容定員	200 名
6	総合環境学部				
	フィールド自然学科	入学定員	60 名	収容定員	240 名
	環境情報学科	入学定員	40 名	収容定員	160 名

(修業年限)

第5条 本学の修業年限は4年とする。

(在学期間)

第6条 在学期間は、8年を超えることができない。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第7条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第9条 休業日は、次の通りとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3) (削除)

(4) 春季・夏季及び冬季休業日に関しては、別に定める本学の学年暦による。

2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

4 必要がある場合には、休業日であっても講義、実習等を行うことができる。

第4章 入学、編入学及び転入学

(入学者の選抜)

第10条 入学者の選抜方法は、教授会で定める。

(入学者の決定)

第11条 入学者は、教授会の議を経て、学長が決定する。

(入学時期)

第12条 入学、編入学及び転入学の時期は、学年の始めとする。

2 特別の事情のある時は、後期からの入学を認めることがある。

(入学資格)

第13条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該教育課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧課程による大学入学資格検定に合格した者を含む)
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(編入学)

第14条 本学に編入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とし、選考の上、教授会の議を経て、相当年次に編入学を許可する。

- (1) 短期大学を卒業した者
- (2) 高等専門学校を卒業した者
- (3) 文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程(学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程)を修了した者
- (4) 外国において、学校教育における14年以上の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む)を修了した者又はこれに準ずる者
- (5) 本学において、前項各号に掲げる者と同等以上の学力があると認めた者

(転入学)

第15条 本学に転入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とし、選考の上、教授会の議を経て、相当年次に転入学を許可する。

- (1) 2年次に転入する場合は、大学に1年以上在学し、30単位以上修得した者
- (2) 3年次に転入する場合は、大学に2年以上在学し、62単位以上修得した者

(再入学)

第16条 削除

(出願)

第 17 条 本学に入学、編入学及び転入学しようとする者は、別に定めるところにより、入学願書及び所定の書類に入学検定料を添えて願出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については、別に定める。

(選考)

第 18 条 入学、編入学及び転入学の志願者に対して、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学許可)

第 19 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定期日までに、別に定める所定の書類を提出し、所定の入学金を納入しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に入学、編入学及び転入学を許可する。

3 学長は、前項の規定にかかわらず、別に定めるような特別の事由のある者については、入学金納入を免除することがある。

(編入学者等の修業年限)

第 20 条 編入学又は転入学を許可された者の修業年限は、次のとおりとする。

(1) 第 2 年次に入学した者… 3 年

(2) 第 3 年次に入学した者… 2 年

(編入学者等の在学期間)

第 20 条の 2 編入学又は転入学を許可された者は、次の各号に規定する年数を超えて在学することができない。

(1) 第 2 年次に入学した者… 7 年

(2) 第 3 年次に入学した者… 6 年

第 5 章 休学、復学、留学、転学、転部、転科、退学、再入学、除籍及び復籍

(休学)

第 21 条 学生は、病気その他やむを得ない理由のため引き続き 2 月以上修学することができないときは、休学願を学長に提出し、その許可を得て休学することができる。

(休学期間)

第 22 条 休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1 年を限度として休学期間の延長を認めることがある。

2 休学期間は、通算して 3 年をこえることができない。

3 休学期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

(復学)

第 23 条 学生は、休学期間中にその理由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(留学)

第 24 条 外国の大学又は短期大学へ留学を希望する者については、教授会の議を経て、許可することがある。

- 2 留学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由のあるときは、許可を得て、さらに1年以内に限り、その期間を延長することができる。
- 3 前項の留学期間は、休学の取り扱いをしないものとする。
- 4 前3項に定めるもののほか、留学に関して必要な事項は、別に定める。

(転学)

第25条 他の大学又は短期大学に転入学をしようとする者は、転学願を学長に提出しなければならない。

(転部)

第25条の2 本学の他の学部転部しようとする者は、転部願を学長に提出し、学長の許可を得なければならない。

- 2 転部に関する規程は、別に定める。

(転科)

第25条の3 本学の他の学科に転科しようとする者は、転科願を学長に提出し、学長の許可を得なければならない。

- 2 転科に関する規程は、別に定める。

(退学)

第26条 退学しようとする者は、退学願を学長に提出しなければならない。

(再入学)

第26条の2 退学した者が、再び入学を希望するときは、教授会の議を経て、学長が再入学を認めることができる。

- 2 再入学に関する規程は、別途定める。

(除籍)

第27条 学長は、次の各号のいずれかに該当する学生に対して、教授会の議を経て除籍することができる。

- (1) 授業料の納付を怠り、督促を受けても納入しない者
- (2) 3年の休学期間を経過した者
- (3) 学則第6条及び第20条の2に定める在学期間を経過した者
- (4) 死亡した者及び長期間行方不明の者
- (5) 所定の期間内に履修登録を完了していない者

(復籍)

第27条の2 除籍となった者が、復籍を希望するときは、教授会の議を経て、学長が復籍を認めることができる。

- 2 復籍に関する規程は、別途定める。

第6章 教育課程及び履修方法

(教育課程)

第28条 教育課程は、教育の目的を達成するために必要な科目を開設して、体系的に編成するものとする。

- 2 教育課程の編成に当っては、学部及び学科の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目)

第 29 条 授業科目は、開講対象により次のように区分する。

(1) 心理学部

心理学科

- 一 学部共通科目
- 二 心理学科基盤科目
- 三 心理学専門領域科目
- 四 心理学専門隣接科目
- 五 卒業研究・卒業論文

犯罪心理学科

- 一 学部共通科目
- 二 犯罪心理学科基盤科目
- 三 犯罪心理学発展科目
- 四 卒業研究・卒業論文

(2) 環境科学部

フィールド生態学科

- 一 学部共通科目
- 二 フィールド生態科目
- 三 環境データサイエンス科目
- 四 卒業論文

環境データサイエンス学科

- 一 学部共通科目
- 二 環境データサイエンス科目
- 三 フィールド生態科目
- 四 卒業論文

(3) 看護学部

看護学科

- 一 基礎科目
- 二 資格科目
- 三 専門基礎科目
- 四 専門科目

(4) 松山看護学部

看護学科

- 一 基礎科目
- 二 専門基礎科目
- 三 専門科目

(5) 総合心理学部

総合心理学科

- 一 一般教養科目
- 二 基盤教養科目
- 三 基盤スキル科目
- 四 基盤専門科目
- 五 高度専門科目

- 六 演習科目
- 七 公認心理師関連科目
- 総合犯罪心理学科
 - 一 一般教養科目
 - 二 基盤教養科目
 - 三 基盤スキル科目
 - 四 基盤専門科目
 - 五 高度専門科目
 - 六 演習科目
 - 七 公認心理師関連科目

(6) 総合環境学部

- フィールド自然学科
 - 一 一般教養科目
 - 二 専門教養科目
 - 三 フィールド自然共通科目
 - 四 陸域フィールド科目
 - 五 水域フィールド科目
 - 六 農業フィールド科目
- 環境情報学科
 - 一 一般教養科目
 - 二 専門教養科目
 - 三 環境情報科目

2 前項のそれぞれの授業科目、単位数及び履修方法については、別に定める。

(授業の方法)

第 29 条の 2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(授業日数)

第 30 条 1 年間の授業日数は、定期試験等の日数を含め、35 週にわたることを原則とする。

(単位)

第 31 条 授業科目の単位計算方法は、1 単位の学修時間を教室内及び教室外をあわせて 45 時間とし、次の基準によるものとする。

- 一 講義と演習については、15 時間から 30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習及び実験、又は演習及び実習については、15 時間から 30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 三 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間までの授業をもって 1 単位とする。

(履修の届出)

第 32 条 学生は履修しようとする授業科目について、指定の期日までに所定の用紙により届け出なければならない。

(単位の授与)

第 33 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

2 前項の試験は、筆記、口述又は論文提出等の方法によって行う。

(成績)

第 34 条 授業科目の試験の成績は、S・A・B・C・D の 5 種の評語をもって表わし、S・A・B・C を合格とする。

2 S・A・B・C・D の内容は、100 点表記法で、S は 90 点以上、A は 89 点から 80 点まで、B は 79 点から 70 点まで、C は 69 点から 60 点まで、D は 59 点以下とする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 35 条 本学が教育上有益と認めるときは、本学の定めるところにより、他の大学又は短期大学と協議のうえ、学生にその科目を履修することを許可することがある。このようにして修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規程は、学生が休学することなく外国の大学又は短期大学に留学した場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 36 条 本学が教育上有益と認めるときは、本学の定めるところにより、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修、その他文部大臣が別に定める学修を、本学における科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 37 条 本学が教育上有益と認めるときは、本学の定めるところにより、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号) 第 31 条に定める科目等履修生として修得した単位を含む)を、本学に入学した後の本学における科目の履修により修得した単位とみなすことができる。

2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する履修を、本学の定めるところにより、本学における科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 35 条、第 36 条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

4 前 3 項の規定は、外国の大学、短期大学を卒業又は中途退学し、本学に入学を許可された者について準用する。

(教育職員免許状の取得)

第 38 条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 前項の規定により所要の単位を修得した者が取得できる教員の免許状の種類は、次のとおりとする。

(1) 看護学部看護学科

養護教諭一種免許状

(学芸員資格の取得)

第 38 条の 2 学芸員の資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位のほかに、博物館法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 学芸員資格取得のために必要な授業科目、単位数及び履修方法については、別に定める。

第 7 章 社会人学生

(社会人学生)

第 39 条 第 13 条又は第 14 条に規定する資格を有する者であって、一定の年数、社会における経験を有する者が、本学に入学あるいは編入学を志願する時には、選考の上、社会人学生として入学あるいは編入学を許可することがある。

2 社会人学生の選考に関して必要な事項は、別に定める。

第 8 章 海外帰国生徒及び外国人留学生

(海外帰国生徒)

第 40 条 日本国籍を持つ者であって、海外で教育を受け、第 13 条又は第 14 条に規定する資格を有する者が、帰国後 3 年以内に、本学に入学あるいは編入学を志願する時には、選考の上、海外帰国生徒として入学あるいは編入学を許可することがある。

2 海外帰国生徒に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第 41 条 外国人であって第 13 条又は第 14 条に規定する資格を有し、本学に入学又は編入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学あるいは編入学を許可することがある。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第 9 章 卒業

(卒業)

第 42 条 本学に所定の期間在学して、所定の授業科目を履修し、所定の単位以上を修得した者に対して、学長は、教授会の意見を聴き卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。

3 学位の授与に関する規定は、別に定める。

第 10 章 研究生、科目等履修生、特別聴講学生および聴講生

(研究生)

第 43 条 本学において、特定の専門事項の研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関して必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第 44 条 本学学生以外の者で、本学所定の授業科目のうち、一又は複数の授業科目を選んで履修を希望する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生であって、履修を許可された授業科目の単位認定を希望する者には、当該授業科目につき単位認定試験を実施し、合格した者には所定の単位を認定する。

3 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第 45 条 他の大学又は短期大学に在学中の学生で、大学間の協議に基づき、特定の授業科目を定め、本学において聴講を希望する者があるときは、本学の定めるところにより、選考の上、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生として受講した科目については、試験の上、単位を与える。

3 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

(聴講生)

第 45 条の 2 特定の授業科目を定め、本学において聴講を希望する者があるときは、本学の定めるところにより、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生に関する規程は、別に定める。

第 11 章 賞罰

(表彰)

第 46 条 学生として表彰に値する行為があったときは、学長は教授会の議を経て表彰することができる。

(罰則)

第 47 条 本学の定める規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為があったときは、学長は教授会の議を経て懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 正当な理由がなくて出席常でない者

(3) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 12 章 教職員組織

(教職員組織)

第 48 条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

2 本学に、学部長、学科長を置く。

3 前項に定めるものの他に、統括副学長、副学長、副学部長、副学科長、学長補佐、その他大学運営に関わる管理者を置くことができる。

4 統括副学長、副学長、副学部長、副学科長、学長補佐、その他大学運営に関わる管理者に関することは、河原学園事務分掌規程に定めるものの他については教授会の議を経て学長が定める。

5 教職員及び教職員組織に関して必要な事項は、河原学園事務分掌規程に定めるものの他

については別に定める。

第13章 教授会

(教授会)

第49条 本学の各学部に、教授会を置く。

2 教授会に関して必要な事項は、別に定める。

第14章 図書館

(図書館)

第50条 本学に教育研究のため図書館を置く。

2 図書館に関する規程は、別に定める。

第15章 施設

(人間環境学研究所)

第51条 本学に人間環境学研究所を置く。

2 人間環境学研究所に関する規程は、別に定める。

(留学生センター)

第52条 本学に留学生センターを置くことができる。

2 留学生センターに関する規程は、別に定める。

(環境教育センター)

第52条の2 「大学学部教育における『環境教育』共通カリキュラム開発のための戦略的大学連携事業」推進組織として、本学に環境教育センターを置く。

2 環境教育センターに関する規程は、別に定める。

(地域包括医療研究センター)

第52条の3 本学に地域包括医療研究センターを置くことができる。

2 地域包括医療研究センターに関する規程は、別に定める。

(地域・協働センター)

第52条の4 本学に地域・協働センターを置く。

2 地域・協働センターに関する規程は、別に定める。

(教養教育センター)

第52条の5 本学に教養教育センターを置く。

2 教養教育センターに関する規程は、別に定める。

(人間環境大学子どもと親の心理発達支援研究センター)

第52条の6 本学に人間環境大学子どもと親の心理発達支援研究センターを置く。

2 人間環境大学子どもと親の心理発達支援研究センターに関する規程は、別に定める。

(厚生施設)

第 53 条 教職員及び学生の福利厚生のために、本学に食堂、談話室等の厚生施設を設けることができる。

第 16 章 生涯教育

(公開講座)

第 54 条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

第 17 章 入学検定料、入学金及び授業料等学納金

(授業料等の金額及び納付の時期)

第 55 条 本学の入学検定料、入学金、授業料等学生納付金の金額及び納付の時期は別に定めるところによる。

(復学した場合の授業料)

第 56 条 前期又は後期中途において、復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料を復学した月に納付しなければならない。

(退学又は停学の場合の授業料)

第 57 条 前期又は後期中途で退学、又は除籍された者の当該学期分の授業料は納付しなければならない。

2 停学期間中の授業料は納付しなければならない。

(休学の場合の授業料)

第 58 条 休学を許可された者の取り扱いについては、別に定める。

(研究生、科目等履修生の授業料等)

第 59 条 研究生及び科目等履修生の授業料等は、別に定めるところによる。

(納付した授業料等)

第 60 条 既納の入学検定料及び入学金は返還しない。

2 既納の授業料は原則として返還しない。

(授業料等の一部又は全額免除)

第 61 条 次の各号に該当する学生に対して、授業料等の一部又は全額を免除することがある。

(1) 学力優秀で学生の模範と認められる学生及び学長が適当と認める学生

(2) 社会人学生

(3) 外国人留学生

2 授業料等の一部又は全額免除に関して必要な事項は、別に定める。

附則 この学則は、平成 12 年 4 月 1 日からこれを施行する。

- 附則 この学則（改正）は、平成 13 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 15 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 16 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（別表 1 改正）は、平成 18 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 19 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 20 年 6 月 11 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 20 年 7 月 9 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 21 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 21 年 4 月 15 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 21 年 10 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 23 年 8 月 10 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 25 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 26 年 6 月 11 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 27 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、平成 28 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 1. この学則（改正）は、平成 29 年 4 月 1 日からこれを施行する。
2. 平成 28 年度以前の入学生については、改正後の学則第 3 条、第 4 条、第 29 条、第 31 条及び第 38 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 附則 この学則（改正）は、平成 31 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、令和元年 9 月 25 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、令和 3 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、令和 3 年 9 月 29 日からこれを施行する。
- 附則 1. この学則（改正）は、令和 4 年 4 月 1 日からこれを施行する。
2. 令和 3 年度以前の入学生については、改正後の学則第 3 条、第 4 条、第 29 条、第 31 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 附則 1. この学則（改正）は、令和 5 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、令和 6 年 4 月 1 日からこれを施行する。
- 附則 この学則（改正）は、令和 7 年 4 月 1 日からこれを施行する。

人間環境大学 学則（案）の変更事項を記載した書類

1. 学則変更の事由

新たに総合環境学部を開設することに伴う変更。

2. 変更点

（第3条 学部及び学科）

新たに総合環境学部を既に設置している5学部8学科に加える。

（第4条 学部、学科の学生定員）

新たに開設する学部学科の学生定員を次の通り定め、第4条を整理して記載する。（第4条）

6 総合環境学部

フィールド自然学科	入学定員 60 名	収容定員 240 名
環境情報学科	入学定員 40 名	収容定員 160 名

（第29条5号 授業科目）

新たに開設する学部学科で開講する授業科目の区分を定める。

3. 変更時期

新たに開設する時期に合わせ、令和7年4月1日より施行とする。

人間環境大学 学則（案）改正 新旧対照表

新（改正後）	旧（改正前）
第1条～第2条（略） （学部及び学科） 第3条 本学に、次の学部及び学科を置く。 - 心理学部 - 心理学科 - 犯罪心理学科 - 環境科学部 - フィールド生態学科 - 環境データサイエンス学科 - 看護学部 - 看護学科 - 松山看護学部 - 看護学科 - 総合心理学部 - 総合心理学科 - 総合犯罪心理学科 <u>総合環境学部</u> <u>フィールド自然学科</u> <u>環境情報学科</u> （大学院） 第3条の2 本大学に大学院を置く。 - 大学院の学則は、別に定める。 （学部、学科の学生定員） 第4条 本学の学生定員は、次の通りとする。 - 心理学部 - 心理学科 入学定員 100 名 収容定員 400 名 - 犯罪心理学科 入学定員 50 名 収容定員 200 名 - 環境科学部 - フィールド生態学科 入学定員 60 名 収容定員 240 名 - 環境データサイエンス学科 入学定員 40 名 収容定員 160 名 - 看護学部 - 看護学科 入学定員 95 名 収容定員 380 名 - 松山看護学部 - 看護学科 入学定員 80 名 収容定員 320 名 - 総合心理学部 - 総合心理学科 入学定員 80 名 収容定員 320 名 - 総合犯罪心理学科 入学定員 50 名 収容定員 200 名 <u>総合環境学部</u> <u>フィールド自然学科 入学定員 60 名 収容定員 240 名</u> <u>環境情報学科 入学定員 40 名 収容定員 160 名</u> 第5条～第28条（略）	第1条～第2条（略） （学部及び学科） 第3条 本学に、次の学部及び学科を置く。 - 心理学部 - 心理学科 - 犯罪心理学科 - 環境科学部 - フィールド生態学科 - 環境データサイエンス学科 - 看護学部 - 看護学科 - 松山看護学部 - 看護学科 - 総合心理学部 - 総合心理学科 - 総合犯罪心理学科 （大学院） 第3条の2 本大学に大学院を置く。 - 大学院の学則は、別に定める。 （学部、学科の学生定員） 第4条 本学の学生定員は、次の通りとする。 - 心理学部 - 心理学科 入学定員 100 名 収容定員 400 名 - 犯罪心理学科 入学定員 50 名 収容定員 200 名 - 環境科学部 - フィールド生態学科 入学定員 60 名 収容定員 240 名 - 環境データサイエンス学科 入学定員 40 名 収容定員 160 名 - 看護学部 - 看護学科 入学定員 95 名 収容定員 380 名 - 松山看護学部 - 看護学科 入学定員 80 名 収容定員 320 名 - 総合心理学部 - 総合心理学科 入学定員 80 名 収容定員 320 名 - 総合犯罪心理学科 入学定員 50 名 収容定員 200 名 第5条～第28条（略）

(授業科目) 第 29 条 授業科目は、開講対象により次のように区分する。 (1)～(4) (略) (5) 総合心理学部 総合心理学科 - 一 一般教養科目 - 二 基盤教養科目 - 三 基盤スキル科目 - 四 基盤専門科目 - 五 高度専門科目 - 六 演習科目 - 七 公認心理師関連科目 総合犯罪心理学科 - 一 一般教養科目 - 二 基盤教養科目 - 三 基盤スキル科目 - 四 基盤専門科目 - 五 高度専門科目 - 六 演習科目 - 七 公認心理師関連科目 (6) 総合環境学部 <u>フィールド自然学科</u> <u>一 一般教養科目</u> <u>二 専門教養科目</u> <u>三 フィールド自然共通科目</u> <u>四 陸域フィールド科目</u> <u>五 水域フィールド科目</u> <u>六 農業フィールド科目</u> <u>環境情報学科</u> <u>一 一般教養科目</u> <u>二 専門教養科目</u> <u>三 環境情報科目</u> 第 29 条の 2～第 61 条 (略) <u>附則 この学則 (改正) は、令和 7 年 4 月 1 日からこれを施行する。</u>	(授業科目) 第 29 条 授業科目は、開講対象により次のように区分する。 (1)～(4) (略) (5) 総合心理学部 総合心理学科 - 一 一般教養科目 - 二 基盤教養科目 - 三 基盤スキル科目 - 四 基盤専門科目 - 五 高度専門科目 - 六 演習科目 - 七 公認心理師関連科目 総合犯罪心理学科 - 一 一般教養科目 - 二 基盤教養科目 - 三 基盤スキル科目 - 四 基盤専門科目 - 五 高度専門科目 - 六 演習科目 - 七 公認心理師関連科目 第 29 条の 2～第 61 条 (略)
---	--

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目 次

ア) 学則変更（収容定員変更）の内容	P. 2
イ) 学則変更（収容定員変更）の必要性	P. 3
ウ) 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	P. 5
(1) 教育課程の変更内容	P. 5
(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	P. 5
(3) 教員組織の変更内容	P. 6
(4) 大学全体の施設・設備の変更内容	P. 7
添付資料（学則変更に係る学部学科の教育課程等の概要を含む）	

ア) 学則変更（収容定員変更）の内容

令和7年4月1日より、松山道後キャンパスにおいて、総合環境学部（入学定員100人、収容定員400人）を設置するため、収容定員に係る学則変更を行う。既存の学部学科における定員の変更はない。この新学科の設置と収容定員に係る学則変更により、大学全体の入学定員を555名から655名（100人増加）に、収容定員は2,220人から2,620人（400人増加）に変更する。

①新設する学部

学部名	学科名	入学定員	収容定員
総合環境学部	フィールド自然学科	60人	240人
	環境情報学科	40人	160人
合 計		100人	400人

②大学全体の入学定員、収容定員の変更

	入学定員	収容定員
大学全体（学則変更前）	555人	2,220人
大学全体（学則変更後）	655人	2,620人
増加数	+100人	+400人

イ) 学則変更（収容定員変更）の必要性

このたび収容定員に係る学則変更を行い、新たに設置する総合環境学部の必要性について以下にて説明する。

（総合環境学部を設置する必要性）

総合環境学部では、自然環境と社会的・産業的な環境について、両者の総合性を SDGs (Sustainable Development Goals) における「持続可能性」を基盤に据えて教育研究を行う。今日的な GX (Green Transformation) と DX (Digital Transformation) とを発展的に推進していく総合環境学を、豊富なフィールドワークや豊富な演習授業を通じて具現化し、今日のグローバルな環境課題について多面的、実践的に対応できる人材を育成する。現在、人間も含めた動物・植物・生態系機能などの自然環境、およびデジタル化が進む産業社会も含めた地球環境全体を、持続可能性という観点から総合的に考え、その諸課題の解決策を積極的に提言できる能力を持った人材が強く求められており、本学部の設置はその社会的要請に応えるものである。本学部を構成する 2 学科の社会的必要性は以下の通りである。

（フィールド自然学科を設置する必要性）

フィールド自然学科では、フィールドでの学びを通じて、多様な動物や自然と、人間との関わりに関する専門知識を有し、SDGs の達成に必須である自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。そのため、陸・川・海に広がる多様な自然とそこに分布する生物の理解とともに、それらの第一次産業としての活用までもを含めた自然と人間との関わりの在るべき姿について教育・研究を行う。人間社会が自然の中で存続し、これまで育んできた地域に根付いた文化や産業をこれからも残していくためには、地球規模から地域単位までの自然と人間との関わりについて、十分に理解を進める必要がある。

本学科が置かれる愛媛県は、陸域は全般的に山地が多く平坦地が少ない。海域は穏やかな瀬戸内海とリアス海岸の宇和海に大小 200 あまりの島々が点在している。また、県内産業においては、東予地域では製造業が盛んであるのに対し、南予地域では柑橘栽培や水産業が広く定着している（令和 4 年度版「愛媛の農林水産業」）。このように、多様な自然とともにそこに根づいた地域産業が存在しており、多様な形で自然と人間との関わりの場が数多く存在する地であると言える。

このような愛媛の地において、自然環境、及びその人間との関わりの在り方を主たる教育研究対象とする学科は存在しない。

令和 5 年度に策定された愛媛県の最上位計画である「愛媛県総合計画～未来につなぐ えひめチャレンジプラン～」は、9 の政策・37 の施策で構成されている。その中の政策として「環境を守り自然と共生する社会の実現」が掲げられており、「自然との共生」が施策として示されている。前述の通り、豊かな自然環境と多様な生態系を有する愛媛県において、生物多様性の恵みの持続可能な利用を模索することは、ブランディングなどによる県産品の販売力強化による「地域

の稼ぐ力と県民所得の向上」といった別の政策の実現にも寄与するものと考えられる。

以上の状況から、愛媛県において自然と人間との共生に係る教育を受けた人材の養成は急務となっており、「陸域」「水域」「農業」の3つのフィールドを対象とする科目群でカリキュラムが構成されるフィールド自然学科を愛媛県に開設することは、非常に有意義であり必要性が高いと言える。

本学科では、講義科目において専門的な知識を身につけ、愛媛県を中心とする各地の現場（フィールド）での体験を積み重ねることで、陸上・河川・海洋での生物多様性の保全や持続可能性への理解を確固たるものとし、さらに第一次産業が盛んな瀬戸内・四国・愛媛の地ならではの農林水産業と地場産業の特長とその将来性について深く学ぶ。これにより、愛媛県において求められている、自然と人間との接点である農林水産業の場を主とした、自然環境の持続可能な利用、自然との共生について提案ができる人材を養成し、地域社会への貢献を果たす。以上の社会的要請と必要性から、フィールド自然学科を設置するものである。

（環境情報学科を設置する必要性）

環境情報学科では、SDGs および持続可能社会（Sustainable Society）の理念にもとづき、人間を取り囲む自然環境とデジタル技術に支えられた社会環境との関係を総合的に理解できるとともに、新たなソフトウェアの提案、開発及び環境データの分析を通じて、人間と環境とをめぐる諸問題に積極的に関与し、その解決に貢献できる人材を育成する。本学科では、環境配慮の基準である「GREENSOFT Model」に準拠したソフトウェア開発技術とデータサイエンス知識を駆使することにより、持続可能な開発の実現、「環境」と「開発」の調和に貢献できる人材の育成を教育研究上の目的とする。

「持続可能な開発」の理念は、1980年に世界自然保護基金（WWF）、国際自然保護連合（IUCN）、国連環境計画（UNEP）の3団体によって策定された「世界自然資源保全戦略」に初出があるとされ、その「環境」と「開発」を両輪とする理念は、工業化推進の立場から自然保護の立場まで広く包括しうるものとして単純な自然保護思想とは一線を画するものである。その後この理念は「SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）」の概念にも取り込まれ、2015年に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核をなすに至っている。

国連での採択の一翼を担った我が国も2016年には早々に、「持続可能な開発目標（SDGs）」に係る施策の実施について、関係行政機関相互の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的に推進する」（平成28年5月20日閣議決定）ことを目的として、総理大臣を本部長とする「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」を設置し、「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を発表するとともに、2018年より毎年「SDGsアクションプラン」を策定公表し、SDGs達成に向けた具体的な施策を展開している。

本学所在地の愛媛県においては、「愛媛県デジタル田園都市構想総合戦略」の具現化に向けて、2023年に愛媛県の「最上位計画」として位置づけられた「愛媛県総合計画～未来につなぐえひめチャレンジプラン～」が策定されている。そこでも、「経済のグローバル化等の影響と県

内経済の将来展望」、「デジタル化の進展」、「環境問題の深刻化」等が課題として取りあげられ、「人」、「経済」、「暮らし」にかかわる9つのすべての政策がSDGsの具体的な目標と結びつけられており、今後の地域発展に「開発」と「環境」の調和が不可欠との姿勢を打ち出している。

このように、持続可能な開発の実現を目指す世界情勢、地域情勢のなかで、科学技術、工業生産と自然保護、環境保全との調和を具体的に推進する人材の育成は喫緊の課題である。しかし、科学技術や工業生産の発展を手放すことなく自然環境や社会環境との調和をはかるには、「環境」の視点から工業技術自体を改良発展させるより他に方法はない。ところで、今日の工業製品は一般家庭向けの家電も含めてソフトウェアにより動作を制御されるものが急増し、デジタル化が急速に進展しつつあることから、ソフトウェアの開発及び使用に適切な改良発展を施し、環境配慮を取り込むことができれば、持続可能な開発の実現、「開発」と「環境」の調和に大きな前進を果たせることになる。

そこで本学科では、自然環境、社会環境、経済環境から収集したデータの分析をもとに、ソフトウェア開発に伴うエネルギー消費や労働環境の改善、ソフトウェア使用に伴う環境負荷やユーザー負担の軽減をはかるための知識・技術を学際的に教授研究することを目的とする。工業技術研究に特化した狭義の工学でもなく、自然研究に特化した狭義の環境学でもなく、持続可能な開発、環境保護の視点から新たなソフトウェア開発技術を探究することは、本学が建学の精神とする人間環境学の新たな研究領域を開拓すると同時に、持続可能な開発、「開発」と「環境」の調和を目指す世界及び地域からの要請に応えることでもあり、人間環境学の一層の深化発展と世界貢献、地域貢献を果たすことが期待できる。以上の社会的要請と必要性から、環境情報学科を設置するものである。

ウ) 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（１）教育課程の変更内容

今回の収容定員に係る学則変更は、総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科の新設によるものであり、既存学部における教育課程の変更はない。新設するフィールド自然学科、環境情報学科においては、新規に採用する教員により、新規の教育課程【資料１】【資料２】を編成する。

総合環境学部が開設される松山道後キャンパスには、既設学部として総合心理学部（総合心理学、総合犯罪心理学）が設置されているが、総合心理学部のカリキュラムの変更はなく影響はない。一部の教養科目は総合心理学部と共同開講とするが、専門科目は全て科目、教員とも異なるため、教育課程上の問題はないことを確認している。

以上により、収容定員に係る学則変更により、教育課程における既設学科への悪影響は発生しない計画としている。

（２）教育方法及び履修指導方法の変更内容

このたびの収容定員に係る学則変更により発生する、教育方法及び履修指導方法の変更内容に

ついて、以下にて説明する。今回の収容定員の増加は、総合環境学部の開設によるものであり、教育方法及び履修指導方法の変更内容において、既設学部への影響は原則としてない。

総合環境学部の教育方法は、最良の教育効果を目指して設定している。フィールド自然学科は1学年60人、環境情報学科は40人と、1学科の入学定員は少なく設定しており、両学科ともに少人数教育が可能となっている。

両学科ともに、講義科目については40～100人、演習・実習科目については25人以下、ゼミナールは15人以下の学生数で授業を実施する。語学科目やゼミナール科目をはじめ多くの科目で少人数クラスでの教育を実施する。両学科の共通科目となる一部の講義科目については、最大100名の受講人数を想定しているが、教室の複数のプロジェクター、ディスプレイ、電子黒板、AV機器等の授業支援機器を使用することで、支障のない授業運営を行う。

履修指導については、既設学科の履修内容に影響はないため、履修指導方法には変更はなく、入学前、入学後毎年度の個々の学生に対するきめの細かい履修指導を引き続き行う。

以上により、収容定員に係る学則変更により、教育方法及び履修指導方法の既設学部への影響は発生しない計画としている。

（３）教員組織の変更内容

収容定員の増加に伴い新たに設置する総合環境学部では、フィールド自然学科において基幹教員9人（うち教授4人）、環境情報学科において基幹教員9人（うち教授4人）を採用する計画であり、新たに採用する基幹教員及び非常勤講師等の教員で総合環境学部の科目を全て担当するため、既存学部において教員組織体制の内容と水準の低下は発生しない。

今回の収容定員に係る学則変更及び新学科の設置に伴う専任教員数の増加分は、次の表1に示す通りである。大学全体では、収容定員が2,220人から2,620人に増加（+400人）することにより、専任教員数は124人から142人への増加（+18人）となる。

収容定員の増加によるST比（基幹教員1人あたりの学生数）は、大学全体では17.9→18.4とわずかな増加に留まっている上、キャンパスが異なる既設学部は、収容定員および教員数の変更はないため、教員組織体制とST比率の変更は発生しない。

以上から、学則変更の前後における教員組織の低下は発生しない計画としている。

表1 収容定員に係る学則変更の前後の専任教員数の推移（大学全体）

【変更前】収容定員増前年度（令和6年度）		【変更後】収容定員増以降（令和7年度以降）	
大学全体	基幹教員数	大学全体	基幹教員数
（入学定員 555名） （収容定員 2,220名）	124人 【ST比率】17.9	（入学定員 655名） （収容定員 2,620名）	142人 【ST比率】18.4

※令和7年度時点では完成年度を迎えていない学部があるが、収容定員及び基幹教員数は修業年限分（完成年度）にて算定。

（４）大学全体の施設・設備の変更内容

収容定員に係る学則変更の前後における大学全体の施設・設備の変更内容について、以下にて説明する。今回の学則変更（収容定員増加）に関係するのは、本学の４キャンパスのうち松山道後キャンパスである。総合環境学部の開設に合わせて、松山道後キャンパスに新校舎（３号館）

（５階建て、延べ床面積 3,287.18 ㎡）【資料３】を新たに建設し、総合環境学部の授業は主に新校舎で実施するため、松山道後キャンパス及び大学全体において、収容定員の増加による施設・設備面の教育水準の低下はなく、新校舎の建築により教育研究環境は大きく向上する計画である。

具体的な施設・設備の内容については以下に示す通りである。

１）松山道後キャンパスにおける新校舎整備

新設する総合環境学部が入る松山道後キャンパス（校地は借地、2045 年 12 月までの 25 年の長期契約）は、校地面積 9,145.88 ㎡（運動場面積を含む）の敷地の中に、既設の 1 号館（５階建て、延べ床面積 4,439.5 ㎡）と 2 号館（５階建て同 4,053.2 ㎡）の 2 棟（合計延べ床面積 8,492.7 ㎡）が整備され、敷地内には 1,144.1 ㎡の運動場（テニスコート等）を整備しており、課内及び課外の学生のスポーツ活動に利用している。同キャンパス内に、総合環境学部の校舎として、新たに新校舎として 3 号館（５階建て、延べ床面積 3,287.18 ㎡）を建設する。

新校舎内には、大教室 1 室（207 人収容）、中教室 1 室（96 人収容）、演習室 5 室（各 60 人収容）、ゼミスタジオ 2 室（各室が 120 人収容で 8 室に分割可能）、学生ホール（438.6 ㎡）を整備する計画であり、総合環境学部の 2 学科の学生（収容定員 400 人）に対する十分な収容力を備えている。

総合環境学部の教室利用計画は【資料４】に、松山道後キャンパスの全学科の時間割は【資料５】に示したが、支障なく全ての開講科目が松山道後キャンパスの教室に収まる計画となっている。以上により、松山道後キャンパスにおいては、収容定員の増加による施設・設備面での教学環境の低下はないと言える。

２）大学全体

今回の学則変更の前後における収容定員、校地面積、校舎面積（基準内）の変化は以下の通りである。学則変更の前後において、学生 1 人当たりの校地面積（大学全体）については、17.07 ㎡から 14.47 ㎡とやや減少するが、変更があるのは収容定員が増加する松山道後キャンパスであり、同キャンパスにおいては新校舎の建設により学生が利用する空地等の代替スペース（学生ホール等）は十分に整備される。

学生 1 人当たりの校舎面積（基準内）については、大学全体では 12.55 ㎡から 11.89 ㎡とやや減少するが、松山道後キャンパス以外の 3 キャンパスは変更がない。変更のある松山道後キャンパスにおいては、学生 1 人当たりの校舎面積（基準内）は、14.66 ㎡から 11.86 ㎡に減少するものの、上記の通り 5 階建ての新校舎を建設するので、施設設備環境はむしろ改善されると考えており、大学全体の校地校舎面における教学環境は低下しない計画としている。

表 2 収容定員に係る学則変更の前後の校地校舎面積の推移【大学全体】

	学則変更前（令和 6 年度）	学則変更後（令和 7 年度）
収容定員	2,220 人	2,620 人
校地面積 （運動場を含む）	37,899.75 m ²	37,899.75 m ²
校地面積／収容定員 （学生 1 人当たり校地面積）	17.07 m ² ／人	14.47 m ² ／人
校舎面積（基準内）	27,855.29 m ²	31,142.47 m ²
校舎面積／収容定員 （学生 1 人当たり校舎面積）	12.55 m ² ／人	11.89 m ² ／人

表 3 収容定員に係る学則変更の前後の校地校舎面積の推移【松山道後キャンパス】

	学則変更前（令和 6 年度）	学則変更後（令和 7 年度）
収容定員	520 人	920 人
校地面積	9,145.88 m ²	9,145.88 m ²
校地面積／収容定員 （学生 1 人当たり校地面積）	17.59 m ² ／人	9.94 m ² ／人
校舎面積（基準内）	7,622.75 m ²	10,909.93 m ²
校舎面積／収容定員 （学生 1 人当たり校舎面積）	14.66 m ² ／人	11.86 m ² ／人

学則の変更の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 1 総合環境学部 フィールド自然学科 教育課程等の概要

資料 2 総合環境学部 環境情報学科 教育課程等の概要

資料 3 3号館完成予想パース図

資料 4 総合環境学部 教室使用計画（前期・後期）

資料 5 松山道後キャンパス 時間割（全学科）（前期・後期）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合環境学部フィールド自然学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
学部 共通 科目	人間環境学	1前	○	2			○								1	
	英語Ⅰ	1前	○	2			○								1	
	英語Ⅱ	1後	○	2			○								1	
	ドイツ語Ⅰ	1前			2		○								1	
	ドイツ語Ⅱ	1後			2		○								1	
	フランス語Ⅰ	1前			2		○								1	
	フランス語Ⅱ	1後			2		○								1	
	経済学	1前			2		○								1	
	政治学	1前			2		○								1	
	愛媛を学ぶ	1後			2		○								1	
	法学	1後			2		○								1	
	経営学	1後			2		○								1	
	日本史A	1前			2		○								1	
	日本史B	1後			2		○								1	
	西洋史A	1前			2		○								1	
	西洋史B	1後			2		○								1	
	科学哲学	1前			2		○								1	
	哲学史A	1前			2		○								1	
	哲学史B	1後			2		○								1	
	体育	1前			1				○						1	
	化学	1前			2		○								1	
	生物学	1前			2		○								1	
	社会学	1前			2		○								1	
	数学	1後			2		○								1	
	SDGs概論	1前		2			○								1	
	環境データの可視化技法	1後	○	2			○			1						
	環境データ解析の基礎	2前	○	2				○		1						
	環境研究デザイン論	2後	○	2				○		1						
	環境データの統計解析	3前	○	2				○		1						
	地理情報システム	3後			4			○					1			
	小計（30科目）	—	—	16	45	0	—			1	0	0	1	0	20	—
フ ィ ー ル ド 自 然 共 通 科 目	情報リテラシーⅠ	1前	○	2				○					1			
	情報リテラシーⅡ	1後	○	2				○					1			
	基礎ゼミナールⅠ（フィールド自然学入門）	1前	○	2				○			2		2			
	基礎ゼミナールⅡ（フィールド実地演習）	1後	○	2				○		3			1			
	基礎ゼミナールⅢ（キャリアデザインづくり）	2前	○	2				○		2	1	1				
	基礎ゼミナールⅣ（プレゼンテーション論）	2後	○	2				○		2	1	1	1			
	フィールド自然学演習Ⅰ	3前	○	2				○		4	2	1	2			
	フィールド自然学演習Ⅱ	3後	○	2				○		4	2	1	2			
	フィールド自然学演習Ⅲ	4前	○	2				○		4	2	1	2			
	フィールド自然学演習Ⅳ	4後	○	2				○		4	2	1	2			
	インターンシップⅠ	2前			1				○	1						
	インターンシップⅡ	3前			1				○	1						

科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員 （助手を除く）		
フィールド 自然科目	陸域 フィールド 科目	万物は進化する	1前	○	2			○			1							
		人と自然	1後	○	2			○				1						
		ビオトープ論	2前	○	2			○					1					
		生物地理学	2後	○	2			○					1					
		環境昆虫学（昆虫学Ⅰ）	2前			2		○					1					
		昆虫生態学（昆虫学Ⅱ）	2後			2		○						1				
		屋久島演習（保全生態学演習）	3前			4			○			1						
		インタープリテーション演習	3後			2			○				1					
		陸域 フィールド 共通 科目	動物の生態	1前			2			○			1					
			動物行動観察演習A	1後			2			○			1					
	動物行動学		2前			2		○				1						
	保全昆虫学演習		2後			4			○				1					
	陸域 フィールド 応用 科目	離島演習（フィールド昆虫演習）	3前			4			○				1					
		陸の動物学演習	3後			4			○			1						
	水域 フィールド 科目	水域 フィールド 共通 科目	地球環境学	1前	○	2			○			1						
			群集生態学	2後	○	2			○						1			
			生態系管理学	3前	○	2			○						1			
			自然共生社会	1前			2		○				1					
			水生動物学	1後			2			○					1			
			水産業演習	2前			4			○		1						
			環境共生型社会のデザイン	2後			2			○			1					
			海洋学演習	2後			4			○		1						
			沿岸環境学演習	3前			2			○			1					
		水域 フィールド 応用 科目	動物行動観察演習B	1後			2			○			1					
			海洋と水産の科学	1後			2			○		1						
			河川生態学	2前			2			○					1			
			海の大型動物生態学	2前			4			○			1					
			魚類水生昆虫演習	3前			4			○					1			
			流域環境学演習	3前			4			○		1						
			海洋哺乳類の保全	3後			4			○			1					
	農業 フィールド 科目	農業 フィールド 共通 科目	農業地理学	1前	○	2			○			1						
			地域産業学	1後	○	2			○			1						
環境と微生物			1前			2		○			1							
農業基礎演習Ⅱ			1後			4			○		1			1				
土壌生態学			2前			2		○			1							
微生物利用学			2前			2		○			1							
生産環境学			3前			2		○			1							
環境保全型農業			3後			2		○			1							
天然物化学			3後			2		○			1							
農業 フィールド 応用 科目		農業基礎演習Ⅰ	1前			4			○		1			1				
		農業生態学	2後			2		○						1				
		基礎微生物学演習	2後			4			○		1							
農業 フィールド 応用 科目	農生物演習	3前			4			○					1					
	農環境演習	3後			4			○		1								
	微生物ものづくり演習	3前			4			○		1								
		小計（ 57 科目）		—	38	106	0	—			4	2	1	2	0	0	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 教員 以外 の 教員 (助手を除く)		
卒業論文	卒業論文	4通	○	6					○		4	2	1	2			
	小計（1 科目）	－	－	6	0	0	－			4	2	1	2	0	0	－	
合計（ 84 科目）		－	－	60	151	0	－			4	2	1	2	0	20	－	
学位又は称号		学士（環境学）			学位又は学科の分野				農学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
学部共通科目の必修科目16単位を修得する。さらに、フィールド自然科目から、フィールド自然共通科目の必修科目20単位に加え、陸域フィールド科目の必修科目8単位、水域フィールド科目の必修科目6単位、農業フィールド科目の必修科目4単位の合計38単位を修得する。また、陸域フィールド共通科目の全てと陸域フィールド応用科目のうちの1科目、水域フィールド共通科目の全てと水域フィールド応用科目のうちの1科目、農業フィールド共通科目の全てと農業フィールド応用科目のうちの1科目、このうちのいずれか14単位を修得する。さらに、学部共通科目と、フィールド自然科目の選択科目から、50単位以上を修得する。以上に卒業論文6単位を加え、合計124単位以上を修得すること。（履修科目の上限・46単位（年間））									1 学年の学期区分				2期				
									1 学期の授業期間				15週				
									1 時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(総合環境学部環境情報学科)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員 以外 の教員		
学部共通科目	学部共通一般教養科目	人間環境学	1前	○	2			○									1	
		英語Ⅰ	1前	○		2			○			1						
		英語Ⅱ	1後	○		2			○			1						
		ドイツ語Ⅰ	1前			2			○								1	
		ドイツ語Ⅱ	1後			2			○								1	
		フランス語Ⅰ	1前			2			○								1	
		フランス語Ⅱ	1後			2			○								1	
		経済学	1前			2			○								1	
		政治学	1前			2			○								1	
		愛媛を学ぶ	1後			2			○								1	
		法学	1後			2			○								1	
		経営学	1後			2			○								1	
		日本史A	1前			2			○								1	
		日本史B	1後			2			○								1	
		西洋史A	1前			2			○								1	
		西洋史B	1後			2			○								1	
		科学哲学	1前			2			○								1	
		哲学史A	1前			2			○								1	
		哲学史B	1後			2			○								1	
		体育	1前			1					○							1
	化学	1前			2			○									1	
	生物学	1前			2			○									1	
	社会学	1前			2			○									1	
	数学	1後			2			○									1	
学部共通科目専門教養	SDGs概論	1前			2			○									1	
	環境データの可視化技法	1後			2			○									1	
	環境データ解析の基礎	2前			2				○								1	
	環境研究デザイン論	2後			2				○								1	
	環境データの統計解析	3前			2				○								1	
	地理情報システム	3後			4				○								1	
小計（ 30 科目）		－	－	2	59	0	－			1	0	0	0	0	0	21	－	
環境情報科目	情報リテラシーⅠ（パソコンの活用と情報倫理）	1前	○	4					○					1				
	情報リテラシーⅡ（表計算ソフトによるデータ処理）	1後	○	4					○						1			
	環境プログラミングⅠ（基本文法）	1前	○	12					○			1	1	1				
	環境プログラミングⅡ（クラスの作成）	1後	○	12					○		1		1	1				
	環境プログラミングⅢ（標準API）	2前	○	8					○		1			1				
	環境プログラミングⅣ（永続化技法）	2前	○	4					○		1		1					
	環境データベース概論	1前	○	2			○						1					
	環境データベースⅠ	1後	○	4				○					1					
	環境データベースⅡ	2前	○	4					○				1					
	環境データベースⅢ	2後	○	4					○				1					
	サステナブル・ソフトウェア概論	1後	○	2					○		1							
	サステナブル・ソフトウェア論Ⅰ（ソフトウェア品質）	2前	○	4					○		1							

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 教員以外 の教員	
環境 情報 科目	サステナブル・ソフトウェア論Ⅱ（オブジェクト指向設計）	2後	○	4				○		1						
	サステナブル・ソフトウェア論Ⅲ（アーキテクチャパターン）	3前	○	6				○			1					
	サステナブル・ソフトウェア論Ⅳ（開発プロセス方法論）	3後			2			○		1						
	Web環境システム概論	2前	○	4				○			1					
	Web環境システム開発Ⅰ（Webアプリケーションの実装）	2後	○	6				○			1					
	Web環境システム開発Ⅱ（クライアントサイド・プログラミング）	2後			4			○			1					
	Web環境システム開発Ⅲ（RESTの実装）	3前	○	2				○		1						
	Web環境システム開発Ⅳ（クラウド環境システム開発）	3後			2			○		1						
	Web環境システム開発Ⅴ（セキュア・システム開発）	4前			2			○		1						
	コンピューター・アーキテクチャ論	2後			2		○					1				
	ネットワーク環境論	3前			2			○		1						
	環境情報活用論	3後			4		○						1			
	環境統計学概論	2後			4			○		1						
	環境統計学	3前			6			○		1						
	環境統計プログラミング	3前			2			○				1				
	グリーンAI活用	3後			4			○		1						
	卒業研究Ⅰ	3前	○	2				○		2	1					
	卒業研究Ⅱ	3後	○	2				○		2	1					
	卒業研究Ⅲ	4前	○	2				○		2	1					
	卒業研究Ⅳ	4後	○	2				○		2	1					
小計（ 32 科目）		—	—	94	34	0	—			4	1	2	2	0	0	—
合計（ 62 科目）		—	—	96	93	0	—			4	1	2	2	0	21	—
学位又は称号		学士（環境学）			学位又は学科の分野				農学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
学部共通科目から必修科目を2単位修得する。環境情報科目から必修科目を94単位修得する。さらに、学部共通科目と環境情報科目の選択科目から、28単位以上を修得し、合計124単位以上を修得すること。（履修科目の上限・46単位（年間））									1 学年の学期区分				2期			
									1 学期の授業期間				15週			
									1 時限の授業時間				90分			



【資料 3】 3 号館完成予想パース図

総合環境学部 教室利用計画（前期）

	科目	学期	フィ	学科	情報学科	学生数	曜日	時限	教室	教室	教室	教室
1	人間環境学	1前	○	○		100	火	4	501			
2	英語Ⅰ	1前	○	○		80	金	1	202			
4	ドイツ語Ⅰ	1前	○	○		40	水	4	304			
6	フランス語Ⅰ	1前	○	○		40	木	3	304			
8	経済学	1前	○	○		60	金	2	501			
9	政治学	1前	○	○		65	木	4	501			
13	日本史A	1前	○	○		50	水	3	501			
15	西洋史A	1前	○	○		60	水	2	501			
17	科学哲学	1前	○	○		40	火	5	501			
18	哲学史A	1前	○	○		80	木	5	501			
20	体育	1前	○	○		20	火	1	コミセン	401		
21	化学	1前	○	○		30	火	3	501			
22	生物学	1前	○	○		30	水	5	501			
23	社会学	1前	○	○		30	金	5	501			
25	SDGs概論	1前	○	○		80	月	5	501			
27	環境データ解析の基礎	2前	○	○		80	木	3	中教室			
29	環境データの統計解析	3前	○	○		80	月	2	中教室			
31	情報リテラシーⅠ（フィールド）	1前	○			60	月	3	中教室			
	情報リテラシーⅠ（情報）	1前		○		40	月	3・4	演習室6			
33	基礎ゼミナールⅠ（フィールド自然学入門）	1前	○			15	水	1	演習室6	演習室7	演習室8	演習室9
35	基礎ゼミナールⅢ（キャリアデザインづくり）	2前	○			15	水	2	演習室6	演習室7	演習室8	演習室9
37	フィールド自然学演習Ⅰ	3前	○			10	火	1	各研究室及び演習室等（最大9部屋）			
39	フィールド自然学演習Ⅲ	4前	○			10	火	1	各研究室及び演習室等（最大9部屋）			
41	インターンシップⅠ	2前	○			40	火	2	304			
42	インターンシップⅡ	3前	○			40	水	1	304			
43	万物は進化する	1前	○			60	木	1	501			
45	バイオトープ論	2前	○			60	月	2	301			
47	環境昆虫学（昆虫学Ⅰ）	2前	○			40	水	1	303			
49	屋久島演習（保全生態学演習）	3前	○			30	集中		学外	演6		
51	動物の生態	1前	○			40	金	4	303			
53	動物行動学	2前	○			40	月	1	401			
55	離島演習（フィールド昆虫演習）	3前	○			30	集中		学外	演8		
57	地球環境学	1前	○			60	木	2	501			
59	生態系管理学	3前	○			60	水	3	201			
60	自然共生社会	1前	○			40	月	4	201			
62	水産業演習	2前	○			30	金	1・2	演習室6			
65	沿岸環境学演習	3前	○			30	金	2	演習室7			
68	河川生態学	2前	○			40	月	3	202			
69	海の大動物生態学	2前	○			30	木	1・2	401			
70	魚類水生昆虫演習	3前	○			30	金	3・4	演習室8			
71	流域環境学演習	3前	○			30	火	3・4	演習室6			
73	農業地理学	1前	○			60	金	3	501			
75	環境と微生物	1前	○			40	火	2	401			
77	土壌生態学	2前	○			40	火	3	201			
78	微生物利用学	2前	○			40	金	3	202			
79	生産環境学	3前	○			40	木	2	201			
82	農業基礎演習Ⅰ	1前	○			40	月	1・2	204	実験・実習室8		
85	農生物演習	3前	○			30	木	3・4	実験・実習室8			
87	微生物ものづくり演習	3前	○			30	月	3・4	演習室8			
88	卒業論文	4通	○			10						
89	環境プログラミングⅠ（基本文法）	1前		○		20	月 木 金	1・2 1・2 3・4	演習室6	演習室7		
91	環境プログラミングⅢ（標準API）	2前		○		20	月 木	1・2 1・2	演習室9	演習室10		
92	環境プログラミングⅣ（永続化技法）	2前		○		40	火	3・4	401	401		
93	環境データベース概論	1前		○		40	水	1	301			
95	環境データベースⅡ	2前		○		40	金	3・4	302	302		
98	サステナブル・ソフトウェア論Ⅰ（ソフトウェア品質）	2前		○		40	水	1・2	302			
100	サステナブル・ソフトウェア論Ⅲ（アーキテクチャパターン）	3前		○		40	水	1・2・3	202			
102	Web環境システム概論	2前		○		40	火	1・2	303			
105	Web環境システム開発Ⅲ（RESTの実装）	3前		○		40	金	2	301			
107	Web環境システム開発Ⅴ（セキュア・システム開発）	4前		○		30	火	2	0A1			
109	ネットワーク環境論	3前		○		30	金	4	304			
112	環境統計学	3前		○		30	火	2・3・4	204			
113	環境統計プログラミング	3前		○		30	月	3	204			
115	卒業研究Ⅰ	3前		○		15	金	1	各研究室及びゼミスタジオ			
117	卒業研究Ⅲ	4前		○		15	金	1	各研究室及びゼミスタジオ			

総合環境学部 教室利用計画（後期）

	科目	学期	フィ学科	情報学科	学生数	曜日	時限	教室	教室	教室	教室
3	英語Ⅱ	1後	○	○	80	月	5	中教室			
5	ドイツ語Ⅱ	1後	○	○	20	水	4	304			
7	フランス語Ⅱ	1後	○	○	40	木	3	304			
10	愛媛を学ぶ	1後	○	○	20	水	3	201			
11	法学	1後	○	○	60	火	1	401			
12	経営学	1後	○	○	100	火	2	501			
14	日本史B	1後	○	○	20	金	4	301			
16	西洋史B	1後	○	○	40	水	2	401			
19	哲学史B	1後	○	○	40	金	3	501			
24	数学	1後	○	○	30	水	5	201			
26	環境データの可視化技法	1後	○	○	80	火	3	中教室			
28	環境研究デザイン論	2後	○	○	80	木	2	中教室			
30	地理情報システム	3後	○	○	50	水	1・2	202			
32	情報リテラシーⅡ（フィールド）	1後	○		60	月	3	中教室			
	情報リテラシーⅡ（情報）	1後		○	40	月	3・4	演6			
34	基礎ゼミナールⅡ（フィールド実地演習）	1後	○		15	火	4	演6	演7	演8	演9
36	基礎ゼミナールⅣ（プレゼンテーション論）	2後	○		15	水	2	演6	演7	演8	演9
38	フィールド自然学演習Ⅱ	3後	○		10	火	1	各研究室及びゼミスタジオ等（最大9部屋）			
40	フィールド自然学演習Ⅳ	4後	○		10	火	1	各研究室及びゼミスタジオ等（最大9部屋）			
44	人と自然	1後	○		40	水	1	401			
46	生物地理学	2後	○		40	月	2	201			
48	昆虫生態学（昆虫学Ⅱ）	2後	○		40	水	3	202			
50	インタープリテーション演習	3後	○		30	水	3	演6			
52	動物行動観察演習A	1後	○		30	月	4	演8			
54	保全昆虫学演習	2後	○		30	金	3・4	演6			
56	陸の動物学演習	3後	○		30	木	1・2	演9			
58	群集生態学	2後	○		40	火	2	201			
61	水生動物学	1後	○		40	木	1	401			
63	環境共生型社会のデザイン	2後	○		40	火	3	301			
64	海洋学演習	2後	○		30	木	3・4	演8			
66	動物行動観察演習B	1後	○		30	木	4	演6			
67	海洋と水産の科学	1後	○		40	火	5	204			
72	海洋哺乳類の保全	3後	○		30	月	3・4	204			
74	地域産業学	1後	○		40	木	2	501			
76	農業基礎演習Ⅱ	1後	○		40	月	1・2	204	実験・実習室8		
80	環境保全型農業	3後	○		40	火	2	302			
81	天然物化学	3後	○		40	月	2	202			
83	農業生態学	2後	○		40	金	2	303			
84	基礎微生物学演習	2後	○		30	月	3・4	演7			
86	農環境演習	3後	○		30	金	1・2	実験・実習室8			
88	卒業論文	4通	○		10						
90	環境プログラミングⅡ（クラスの作成）	1後		○	20	月 火 木	1・2 4・5 1・2	0A1	0A2		
94	環境データベースⅠ	1後		○	20	A：木 B：金	4・5 1・2	0A1			
96	環境データベースⅢ	2後		○	40	月	1・2	302			
97	サステナブル・ソフトウェア概論	1後		○	40	水	1	501			
99	サステナブル・ソフトウェア論Ⅱ（オブジェクト指向設計）	2後		○	40	金	3・4	201			
101	サステナブル・ソフトウェア論Ⅳ（開発プロセス方法論）	3後		○	30	月	3	501			
103	Web環境システム開発Ⅰ（Webアプリケーションの実装）	2後		○	40	火	2・3・4	202			
104	Web環境システム開発Ⅱ（クライアントサイド・プログラミング）	2後		○	30	水	1・2	301			
106	Web環境システム開発Ⅳ（クラウド環境システム開発）	3後		○	30	木	3	301			
108	コンピューター・アーキテクチャ論	2後		○	30	水	3	301			
110	環境情報活用論	3後		○	30	金	3・4	302			
111	環境統計学概論	2後		○	30	木	3・4	401			
114	グリーンAI活用	3後		○	30	火	3・4	303			
116	卒業研究Ⅱ	3後		○	15	金	1	各研究室及びゼミスタジオ			
118	卒業研究Ⅳ	4後		○	15	金	1	各研究室及びゼミスタジオ			

松山道後キャンパス 時間割 (前期)

		月 曜 日				火 曜 日				水 曜 日				木 曜 日				金 曜 日				土 曜 日				曜日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
時間	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科	科 目 名	科目担当	教室	学 科

松山道後キャンパス 時間割（後期）

時間	曜日	月 曜 日				火 曜 日				水 曜 日				木 曜 日				金 曜 日				土 曜 日				曜日 時間																			
		学科	科 目 名	科目担当	教室	学科	科 目 名	科目担当	教室	学科	科 目 名	科目担当	教室	学科	科 目 名	科目担当	教室	学科	科 目 名	科目担当	教室	学科	科 目 名	科目担当	教室																				
9:10 ～ 10:40	I	1	総心	精神疾患と その治療	武田 知也	大教室	総心	法学	井口 秀作	401	総心		総心		総心	英語Ⅱ (Bクラス)	番田 清美	301	総心		環境データベースⅠ (B)	渡辺 謙	OA1	総心		1																			
			フィールド				農業基礎演習Ⅱ				甲斐・松原	204 実験8	フィールド	人と自然	西川 真理				401	フィールド				水生動物学	未定		401	フィールド	フィールド																
			情報				環境プログラミングⅡ				深澤・新庄・藤波	演6・7	情報	情報	サステナブル・ ソフトウェア概論				深澤 良彰	501				情報	環境プログラミングⅡ		深澤・新庄・藤波	演6・7	情報	環境データベースⅠ (B)	渡辺 謙	OA1	情報												
		2	総心	異常心理学	木甲斐 智紀	301	総心				学習・言語 心理学	高野 裕治	大教室	総心	テロリズムの心理学	新岡 陽光	201	総心	英語講読Ⅱ	福田 昇	201	総心	恋愛心理学	加藤 司	401	総心		2																	
			フィールド													フィールド						フィールド				伊藤 章子	202		フィールド			フィールド													
			情報				環境データベースⅢ							渡辺 謙	302	情報	情報	Web環境システム開発Ⅱ				神馬 一博				301	情報					情報			情報										
		3	総心	心理臨床領域に おける研究法	横光 健吾	201	総心				マインドフルネス の心理学	伊藤 義徳	304	総心	心理演習	伊藤 義徳 他6名	304	総心	認知加齢と予防科学	野内 類	301	総心	関係行政論	伊藤 義徳 他5名	201	総心		9:10 ～ 10:40																	
			フィールド															フィールド				フィールド' 自然学演習Ⅱ				全教員	各研究室 ゼミスタジオ		フィールド	陸の動物学演習	西川 真理	演9	フィールド	農環境演習	甲斐	実験8	フィールド								
	情報							情報	情報	地理情報システム				未定				202				情報				情報	卒業研究Ⅱ		深澤・請園・神馬	各研究室 ゼミスタジオ	情報														
	4	総心				総心				総心	昆虫生態学	松原 慧		総心				総心				総心		4																					
		フィールド				フィールド	フィールド' 自然学演習Ⅳ	全教員	各研究室 ゼミスタジオ	フィールド					フィールド			フィールド		フィールド		フィールド																							
		情報				情報	情報			情報					情報			情報	卒業研究Ⅳ	深澤・請園・神馬	各研究室 ゼミスタジオ	情報																							
		情報				情報			情報					情報			情報			情報																									
	10:50 ～ 12:20	II	1	総心	臨床心理学 概論	伊藤 義徳	大教室	総心	経営学	村田 晋也	501	総心	西洋史B	吉田 正広	401	総心	こころとは何か (動物・人間・AI)	高野 裕治	大教室	総心	心理学研究法	加藤 司	大教室	総心		1																			
				フィールド				農業基礎演習Ⅱ				甲斐・松原				204 実験8				フィールド				地域産業学	中島 琢自		501	フィールド	環境データベースⅠ (B)	渡辺 謙	OA1	フィールド	フィールド												
				情報				環境プログラミングⅡ				深澤・新庄・藤波				演6・7				情報				情報	環境プログラミングⅡ		深澤・新庄・藤波	演6・7	情報	環境データベースⅠ (B)	渡辺 謙	OA1	情報												
2			総心	サイバー犯罪の心理学	未定	301	総心	学習・言語心理学				高野 裕治				大教室	総心	福祉心理学	吉本 美穂	302	総心	マーケティング の心理学 (売る側の心理学)	番田 清美	301	総心	心理学とキャリア	番田 清美	301	総心		2														
			フィールド				生物地理学										久松 定智				201				フィールド				群集生態学	未定		201	フィールド	基礎ゼミナールⅣ	甲斐・甲斐・ 吉田・久松	演6～9	フィールド	環境研究 デザイン論	三 中 信宏	中教室	フィールド	農業生態学	松原 慧	303	フィールド
			情報				環境データベースⅢ										渡辺 謙				302				情報				Web環境システム開発Ⅰ	神馬 一博		202	情報	情報	Web環境システム開発Ⅱ	神馬 一博	301	情報			情報				
3			総心	心理的 アセスメント	吉本 美穂 横光 健吾 武田 知也	304	総心	心理 プログラミング				十河 宏行				301	総心	司法・犯罪心理学	横光 健吾 他3名	201	総心	赤ちゃんの世界 (生涯発達心理学Ⅰ)	浅川 淳司	201	総心	心理学実験計画法	中嶋 智史	201	総心		10:50 ～ 12:20														
			フィールド				天然物化学										中島 琢自				202				フィールド				環境保全型農業	甲斐 貴光		302	フィールド	地理情報システム	未定	202	フィールド	陸の動物学演習	西川 真理	演9	フィールド	農環境演習	甲斐	実験8	フィールド
		情報								情報	情報				情報										情報							情報			情報			情報							
4		総心				総心				総心				総心				総心				総心		4																					
		フィールド				フィールド				フィールド				フィールド				フィールド				フィールド																							
		情報				情報				情報				情報				情報				情報																							
		情報				情報				情報				情報				情報				情報																							
13:10 ～ 14:40		III	1	総心	英語Ⅱ (Aクラス)	番田 清美	301	総心	心理学 統計法Ⅰ	徳岡 大	大教室	総心	情報リテラシーⅡ	渡部 周平	大教室	総心	フランス語Ⅱ	越智 三起子	304	総心	哲学史B	山本與志隆	501	総心		1																			
				フィールド				情報リテラシーⅡ				松原 慧				中教室				フィールド				環境データの 可視化技法	三 中 信宏		中教室	フィールド	愛媛を学ぶ	森賀 盾雄	201	フィールド	フィールド	フィールド											
				情報				情報リテラシーⅡ				小林 麻衣子				演6				情報							情報	情報	情報	情報			情報												
	2		総心	心理学実験Ⅰ	高野 裕治 他4名	201、202 203、303	総心	視覚の心理学				佐藤 隆夫				201	総心	子どもからおとなへの認知 発達(生涯発達心理学Ⅱ)	富田 享子	401	総心	アドバンスト 心理療法Ⅰ (行動療法)	横光 健吾	302	総心	社会・集団・家族心理学	森本 裕子	大教室	総心		2														
			フィールド				基礎微生物学演習										中島 琢自				演7				フィールド				環境共生型社会の デザイン	吉田 弥生		301	フィールド	昆虫生態学	松原 慧	202	フィールド	海洋学演習	田中 泰章	演8	フィールド	保全昆虫学演習	久松 定智	演6	フィールド
			情報																						情報				Web環境システム開発Ⅰ	神馬 一博		202	情報	コンピュータ・ アーキテクチャ論	渡辺 謙	301	情報	環境統計学概論	請園 正敏	401	情報	サステナブル・ ソフトウェア論Ⅱ	山浦 恒央	201	情報
	3		総心	心理的 アセスメント	吉本 美穂 横光 健吾 武田 知也	304	総心	心理調査計画法				嘉瀬 貴祥				401	総心	モチベーションの心理学	徳岡 大	201	総心	新しいこころの計測学	新岡 陽光	401	総心	環境情報活用論	小林 麻衣子	302	情報		3														
			フィールド				海洋哺乳類の保全										吉田 弥生				204				フィールド				グリーンAI活用	請園 正敏		303	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	
		情報	サステナブル・ ソフトウェア論Ⅳ				山浦 恒央		501	情報	情報		情報	情報	情報		情報				情報				情報				情報	情報		情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報					
	4	総心				総心				総心	アドバンスト 心理療法Ⅴ	金子 周平	303	総心				総心				総心		4																					
		フィールド				フィールド				フィールド							フィールド				フィールド				フィールド																				
		情報				情報				情報							情報				情報					情報																			
		情報				情報				情報							情報				情報					情報																			
	14:50 ～ 16:20	IV	1	総心				総心	心理学 統計法Ⅰ	徳岡 大	大教室	総心	ドイツ語Ⅱ	松尾 博史	304	総心	感情・人格 心理学	中嶋 智史	大教室	総心	日本史B	石畑 匡基	301	総心		1																			
				フィールド				動物行動観察演習A				西川 真理				演8				フィールド				基礎ゼミナールⅡ	西川・吉田・松原		演6～9	フィールド	動物行動観察演習B	吉田 弥生	演6	フィールド	フィールド												
				情報				情報リテラシーⅡ				小林 麻衣子				演6				情報				環境プログラミングⅡ	深澤・新庄・藤波		OA1・2	情報	情報	環境データベースⅠ (A)	渡辺 謙	OA1	情報	情報											
2			総心	心理学実験Ⅰ	高野 裕治 他4名	201、202 203、303	総心	バーチャル リアリティ の心理学				金谷 英俊				302	総心	健康・医療 心理学	嘉瀬 貴祥	301	総心	社会・集団・家族心理学	森本 裕子	大教室	総心		2																		
			フィールド				基礎微生物学演習										中島 琢自				演7				フィールド	Web環境システム開発Ⅰ		神馬 一博	202	フィールド	海洋学演習	田中 泰章	演8	フィールド	保全昆虫学演習	久松 定智	演6	フィールド							
			情報																						情報	情報		情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報					
3			総心	進化心理学	森本 裕子	401	総心	アドバンスト 調査実習				森本 裕子 嘉瀬 貴祥				401 OA3 OA4	総心				総心				総心				総心		14:50 ～ 16:20														
			フィールド				海洋哺乳類の保全										吉田 弥生				204				フィールド				グリーンAI活用	請園 正敏		303	フィールド	フィールド	フィールド	フィールド	フィールド	フィールド	フィールド	フィールド	フィールド	フィールド			
		情報								情報	情報		情報	情報	情報		情報				情報				情報				情報	情報		情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報	情報						
4		総心				総心				総心				総心				総心				総心		4																					
		フィールド				フィールド				フィールド				フィールド				フィールド				フィールド																							
		情報				情報				情報				情報				情報				情報																							
		情報				情報				情報				情報				情報				情報																							
16:30 ～ 18:00		V	1	総心				総心	犯罪心理学概論	藤代 富広	301	総心	プロゼミナールⅡ	担当教員	各研究室 OA1～4 実験1～6	総心	感情・人格 心理学	中嶋 智史	大教室	総心		総心		1																					
				フィールド				英語Ⅰ				岡 良和				中教室				フィールド	海洋と水産の科学		田中 泰章		204	フィールド	数学	庭嶋 隆	201	フィールド	環境データベースⅠ (A)	渡辺 謙	OA1	情報											
				情報																情報	環境プログラミングⅡ		深澤・新庄・藤波		OA1・2					情報			情報												
	2		総心				総心										総心	プロゼミナールⅣ	担当教員	各研究室 実験1～6	総心				総心		総心		2																
			フィールド																						フィールド						フィールド				フィールド			フィールド							
			情報																						情報						情報				情報			情報			情報				
	3		総心	総合演習Ⅱ	ゼミ担当教員	各研究室 OA1～4 実験1～6 演1～10	総心	アドバンスト 調査実習				森本 裕子 嘉瀬 貴祥				401 OA3 OA4	総心				総心				総心				総心		16:30 ～ 18:00														
			フィールド																						フィールド								フィールド				フィールド			フィールド					
			情報								情報						情報													情報				情報			情報								
	4		総心	総合演習Ⅳ	ゼミ担当教員	各研究室 OA1～4 実験1～6 演1～10	総心				総心				総心				総心				総心		4																				
フィールド											フィールド													フィールド					フィールド			フィールド													
情報											情報													情報					情報			情報			情報										
情報											情報													情報					情報			情報			情報										

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 新設組織の概要 ①新設組織の概要 ②新設組織の特色	P2
(2) 人材需要の社会的な動向等 ①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析 ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析 ③新設組織の主な学生募集地域 ④既設組織の定員充足の状況	P3
(3) 学生確保の見通し ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 - ア 既設組織における取組とその目標 - イ 新設組織における取組とその目標 - ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数 ②競合校の状況分析 - ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性 - イ 競合校の入学志願動向等 - ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ） - エ 学生納付金等の金額設定の理由 ③先行事例分析 ④学生確保に関するアンケート調査 ⑤人材需要に関するアンケート調査等	P6
(4) 新設組織の定員設定の理由	P15

（１）新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
人間環境大学 総合環境学部				愛媛県松山市道後樋又 1192-3
フィールド自然学科	60	0	240	
環境情報学科	40	0	160	
学部合計	100	0	400	

②新設組織の特色

収容定員に係る学則変更を行い新たに設置する総合環境学部では、動物・植物・生態系機能などの自然環境、およびデジタル化が進む産業社会も含めた地球環境全体を、SDGs (Sustainable Development Goals) における「持続可能性」という観点から総合的に考え、その諸課題の解決策を積極的に提言できる人材を育成する。本学部では、自然環境と社会的・産業的な環境について総合的な観点から教育研究を行う。特に両者の総合性を SDGs における「持続可能性」を基盤に据えて教育研究を行う。今日的な GX (Green Transformation) と DX (Digital Transformation) とを発展的に推進していく総合環境学を、豊富なフィールドワークや演習授業を通じて具現化し、今日のグローバルな環境課題について多面的、実践的に対応できる能力を育成する。

本学部は環境学を主たる教育研究の対象にすることから、農学分野の学部であるが、私立大学の農学系学部は、令和 5 年度において定員充足状況が 103.32%（別紙 1）となっており、志願ニーズが高い分野となっている。

（フィールド自然学科）

フィールド自然学科では、フィールドでの学びを通じて、多様な動物や自然と、人間との関わりに関する専門知識を有し、SDGs の達成に必須である自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。フィールド自然学科では、フィールドにおける生態系やその人間との接点についての教育研究を行い、以下の能力を身につける。

- ①多様なフィールドにおけるそれぞれの生態系を対象とした実習・演習を重視し、自然環境のメカニズムの理解、及び諸課題を解決するための能力
- ②自然環境へ大きな負荷をかけない一次産業の在り方や、自然と人間の生活とのバランスのとり方を踏まえた行動変革やその提案を行うための知識や技能

（環境情報学科）

環境情報学科では、SDGs 及び持続可能社会 (Sustainable Society) の理念にもとづき、人間を取り囲む自然環境とデジタル技術に支えられた社会環境との関係を総合的に理解できるとともに、新たなソフトウェアの提案、開発及び環境データの分析を通じて、人間と環境とをめぐる諸課題に積極的に関与し、

その解決に貢献できる人材を育成する。SDGs 及び持続可能社会の理念を踏まえたうえで、環境配慮の基準である GREENSOFT Model に準拠したソフトウェア開発技術とデータサイエンス知識を用いて、人間と環境をめぐる諸問題の解決に貢献できる能力を育成することを教育研究上の目的とする。具体的には以下の三つの能力を身につける。

①人間を取り囲む環境の持続とデジタル技術に支えられた産業社会の発展とを総合的に捉える「総合環境学」の視点に立ち、自然環境、社会環境、経済環境等の諸問題に学問的、科学的にアプローチするための基礎知識

②環境配慮の基準である GREENSOFT Model に準拠したソフトウェア開発技術（具体的には、ソフトウェアの開発段階における環境負荷及び開発コストの軽減、使用段階における適切な利用者配慮及びエネルギー消費の軽減を推進するソフトウェア開発技術）

③自然環境、社会環境、経済環境等の諸問題に対して、観測された環境データを適切な形でデータベースに蓄積し、そこに統計学等のデータサイエンスを適用することで合理的な解決策を導き出すための知識

（２）人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

今日、全ての経済活動において、持続可能性と環境負荷の低減が最優先の課題となっていることは周知の通りであり、環境課題の解決に貢献でき、提言ができる人材の需要が高まっている。本学部は、フィールド自然学科においては「フィールド」から、環境情報学科においては「情報」から、環境学に対するアプローチを行い、環境課題の解決に貢献できる人材を養成することから、その人材需要は大いに高いものと考えている。

愛媛県では、人口減少スピードが全国平均よりも速く、今後 20 年間で労働力人口は約 20 万人減少することが予想されている（「愛媛県総合計画～未来につなぐ えひめチャレンジプラン～」(令和 5 年～8 年)）。さらに、愛媛銀行のシンクタンクが実施した「第 101 回愛媛県内企業動向アンケート調査結果」

(2023 年 11 月実施)では、特に愛媛県の基幹産業である農林水産業分野において「人手不足」と回答する比率が 61.7%に達するなど、産業構造を支えることが困難となる状況が懸念されている。これらの地域的背景から、農学関係の学部である総合環境学部に対する期待は高く、その人材需要は高いと言える。

（フィールド自然学科）

フィールド自然学科の卒業後の進路としては、公務員として環境系・農学系技術職、専門職として環境コンサルタント・生物調査会社・農業法人・漁業組合・食品加工会社・動物園・水族館、一般企業への就職として建設、土木、造園、緑化関係、環境調査等を想定している。大きくは、学科での学びの専門性を活かした就職か、環境学の幅広い学びを活かした自治体や一般企業での就職となるが、環境学を修めた人材への需要は今後益々高まると考えられる。

（環境情報学科）

環境情報学科の卒業後の進路としては、公務員や公的機関の情報部門、IR 部門、環境部門、専門職として情報通信企業、データ分析企業、マーケティング調査企業、環境テクノロジー企業、金融機関・製造業・一般企業の情報部門・分析部門・マーケティング部門の就職を想定している。環境学と情報学の両方

を学べる学科は少ないことに加え、本学科においては、達成水準を明確化した集中的かつ本格的な情報学の教育を行うことで、卒業後に情報人材、情報技術の専門職としての就職が可能になると考えている。現在及び将来における情報人材の不足は、政府の様々な答申等でも強調されている事実であり、本学科の卒業生はその人材不足の解消に貢献する。環境学を学修した人材として、環境学と情報学の専門知識を併せ持った人材として、様々な業界の事業所からの人材需要があると考えている。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学部が主な学生募集地域とする愛媛県の18歳人口の本学部開設から10年間（2025年度～2034年度）の18歳人口（高等学校卒業者相当）の推計を、学校基本調査の各学年在籍数から推測した。

愛媛県では開設後10年間で▲1,846人（2025年度比84.3%）の激しい減少幅が予測されている。本学では開設後10年間において18歳人口が16%減になることを前提に志願者、入学者数のシミュレーションを行うことで、充足ができることを確認している。

表 愛媛県の総合環境学部開設後10年間の18歳人口推計

	2025年度（開設時） 18歳人口（推計）	2034年度（10年次） 18歳人口（推計）	減少幅	2025年を100%とした 割合
愛媛県	11,791人	9,945人	▲1,846人	84.3%

（出典）学校基本調査

※2025年度18歳人口は、2022年度中学3年生+中等教育学校前期課程3年生+義務教育9年生、2034年度18歳人口は、2023年度小学1年生+義務教育1年生から算出。

中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月）及び追加資料である「各都道府県における高等教育の現状に関する調査研究」（文部科学省）によると、愛媛県の2033年の大学進学者数（推計）は4,614人、同年の大学入学者数（推計）は2,837人、入学定員充足率（推計）は81.5%と予想されている。愛媛県における大学入学者3,947人のうち愛媛県内の高校出身者は2,112人（53.5%）（令和5年度）と約半数になっている（別紙1）が、愛媛県では自県進学率が34.6%（2023年度、出典：学校基本調査）と低く、毎年3000～4000人程度が進学時に県外に流出している。本学ではこれらの県外流出者の一部を県内進学に目を向かせることで、18歳人口の減少に対応する。新学部である総合環境学部においては、これらの県外流出者が愛媛県に留まるような、魅力的な学部作り、卒業後の進路に満足できることを第一に優先することで、入学定員が充足できると考えている。

【添付データ】

- ・新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙1）

③新設組織の主な学生募集地域

本学は愛知県に大学本部と2キャンパス、愛媛県に法人本部と2キャンパスを置いており、大学としては愛知県と愛媛県を主な学生募集地域としている。愛媛県に設置する総合環境学部においては、愛媛県を主な学生募集地域として設定する。四国地区全体の私立大学の充足状況は86.21%（令和5年度）（別紙1）となっているが、個別の大学では継続的に充足している大学も多く、本学の愛媛県における2学部、松山看護学部と総合心理学部も定員を充足している。愛媛県を含む四国地区での学生確保の方策と

しては、学生が地元四国に留まり、卒業後の進路をイメージできる魅力的な学部学科を運営することであると考えている。

本学の松山看護学部における愛媛県出身者の入学者（令和５年度）の割合は65.1%（56人／入学者数86人）、総合心理学部における割合は67.0%（61人／入学者数91人）であり、愛媛県出身者が大半を占めている。総合環境学部のうち環境情報学科の設置は、愛媛県からのデジタル人材育成・確保の働きかけに応じたものでもあり、愛媛県、愛媛大学、松山大学、東雲大学と本学で、連携協定を締結している（2022年12月19日）。また情報系学部等の運営に関して、愛媛県情報系学部等設置大学連絡調整会議（2023年12月26日）が設置された。同会議においては、連携大学間の単位互換、卒業生・修了生を県内に定着させるための仕組みづくり（産業界との連携）等が計画されている。以上の経緯により、愛媛県の全面的な各種の支援を受けることで、本学部においては入学定員100人のうち70%にあたる70人を愛媛県出身者で確保する計画としており、愛媛県からの各種の支援を学生確保に結びつける予定である。

【添付データ】

- ・新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙１）

④既設組織の定員充足の状況

本学の既設学部では、全ての学部学科（５学部７学科、令和５年度）において収容定員及び入学定員を充足している（令和５年５月現在）（別紙２）。大学全体としては、収容定員1,360人に対し在学学生1,480人（1.08）（令和５年５月）の状況となっている。７学科のうち５学科は令和４年度開設であるが、開設後の２年間は５学科全てが充足しており、５学科の前身となる人間環境学部心理学科、環境科学科（ともに募集停止）も継続的に定員を充足していた。具体的には、令和５年度の入学定員充足率は、心理学部心理学科が1.06、犯罪心理学科が1.08、環境科学部フィールド生態学科が1.08、環境データサイエンス学科が1.05、看護学部が1.05、松山看護学部が1.08、総合心理学部総合心理学科が1.14となっている【資料１】。

このうち新学部である総合環境学部の参考指標となるのは、類似する学部である環境科学部フィールド生態学科、環境データサイエンス学科と、立地が同一キャンパスである総合心理学部総合心理学科である。これらの２学部３学科も全て定員を充足していることから、総合環境学部においても定員を充足できると考えている。

また同２学部３学科の志願者数（実人数・R5）は、フィールド生態学科（入学定員60人）が759人（別紙２－１）、環境データサイエンス学科（入学定員40人）が111人（別紙２－２）、総合心理学部総合心理学科（入学定員80人）が335人（別紙２－７）と、入学定員の数倍以上の実志願者数を集めていることから、新学部においても同水準の志願者数を確保する見込みである。志願者数、合格者数、合格倍率については【資料２】に示したが、全学部において一定以上の倍率を達成している。

本学の各学部の定員充足は、教育内容、教育環境の絶え間ない充実と、学部での学びを活かした就職、大学の支援による高い国家試験合格率等が高校生、保護者、高校等に評価されてのものであり、「学生第一」の姿勢を全学で共有かつ実践していることの結果であると捉えている。今後も引き続き「学生第一」の実現を徹底するとともに、各種データを定量化した学生募集活動を継続することで、既存学部においても定員を充足する見込みである。具体的には、令和６年度入試においても、全ての学部学科（総合犯罪心理学科を増設し５学部８学科）で入学定員を充足する見込みである。

【添付データ】

- ・既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近5年間）（別紙2－1～7）

（３）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

新設する総合環境学部（環境科学部）の学生募集については、カリキュラム内容が近接している既設の環境科学部（フィールド生態学科、環境データサイエンス学科）の学生募集活動の過去の実績が参考とできる。既設の環境科学部は愛知県岡崎市、このたび新設する総合環境学部は愛媛県松山市の設置となるため、学生募集地域や人口条件が大きく異なるものの、地域差を考慮した場合には、有効な指標になると考えている。

環境科学部の2学科の学生募集活動の実績は（別紙3）に示した通りであるが、オープンキャンパス実績と資料請求者数実績について、概略を以下に示す。

●近接する学問分野の既設学部（環境科学部）のオープンキャンパス実績（2023年度）

学部	環境科学部（愛知県 岡崎キャンパス）	
学科	フィールド生態学科	環境データサイエンス学科
入学定員	60人	40人
オープンキャンパス参加者数 （当該学年のみ）	210人	50人
うち受験者数	125人 【OC参加者比：59.5%】	88人 【OC参加者比：176.0%】
うち入学者数	48人 【OC参加者比：22.9%】	34人 【OC参加者比：68.0%】
総入学者数	65人 【歩留まり率：33.3%】 【充足率：1.08】	42人 【歩留まり率：19.4%】 【充足率：1.05】

●近接する学問分野の既設学部（環境科学部）の資料請求数（大学案内発送）実績（2023年度）

学部	環境科学部（愛知県 岡崎キャンパス）	
学科	フィールド生態学科	環境データサイエンス学科
入学定員	60人	40人
資料請求数 （当該学年のみ）	1667人	1667人
うち受験者数	773人 【資料請求者比：46.4%】	543人 【資料請求者比：32.6%】
うち入学者数	65人 【資料請求者比：3.9%】	42人 【資料請求者比：2.5%】
総入学者数	65人 【歩留まり率：33.3%】 【充足率：1.08】	42人 【歩留まり率：19.4%】 【充足率：1.05】

上記の両学科の実績から、オープンキャンパス参加者数からの入学者数は、フィールド生態学科が 22.9%、環境データサイエンス学科が 68.0%、資料請求者数からの入学者数は、フィールド生態学科が 3.9%、環境データサイエンス学科が 2.5%のコンバージョン率という結果となっている。あらたに設置する総合環境学部でも、これらの数値指標を参照し、オープンキャンパスや資料請求獲得の数値目標を設定し、定員の充足を達成する。

【添付データ】

- ・既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）

イ 新設組織における取組とその目標

新学部における学生募集活動については、本学全体のこれまでの活動を継承し、以下の方針にて展開する。

本学は、愛知県岡崎市、大府市および愛媛県松山市（2校地）の4キャンパスに5学部8学科（令和6年度現在）を擁する大学であり、中部地区と四国地区を中心として全国から志願者と入学者を集めていることから、学生募集活動も幅広い地域で展開している。今回設置する総合環境学部も、愛媛県を中心として全国から組織的な学生募集活動を実施する予定である。本学では、現在、高等学校4校と包括連携を締結するなど、高大連携には特に力を入れており、これまでの「試験による機械的な選抜」から、高校生1人1人と向き合うことで、その適性と本学のアドミッション・ポリシーとのマッチング、学生の在学中及び大学卒業後のビジョンを最大限に重視した高大接続を募集活動の中心的な理念としている。この学生募集活動の理念の浸透により、近年では全学部ともに多くの志願者と目標とする十分な入学者を集め、全学部学科において確実に定員を充足している。本学の学生確保に向けた具体的な取り組み状況と計画は以下の通りである。

①学生募集体制

本学では、従来型の進学情報誌や広告などの媒体に依存する体制を脱却し、組織的で能動的な広報・募集活動のための体制の構築に努めており、直接的ターゲット（高校生）と接触する高校内・会場形式型進学ガイダンスや、間接的ターゲット（高校教員）と接触する高校訪問等を活動の両輪とし、そこから得られたデータを基盤とした効果的な募集活動へと転換している。そのために、全学部の広報と募集を統括する入試・広報部制を採用し、大学のストロングポイントを打ち出した全体のブランディングを戦略的に行う体制としている。学生募集体制は、愛知県と愛媛県の2拠点で展開しており、令和4年度は合計15人（職員）の体制で活動を行っている。

また、高校内・会場形式型進学ガイダンス活動を中核とするために、広報媒体活動とは別にそれらの外部での営業活動を統括する「高大連携推進室」を入試・広報部内に設置し、部署単独の責任者（室長）を置いて、高校の進路指導部やクラス担任教諭による具体的な進路指導をフォローできる体制としている。また、学生募集活動に留まらず、教務的な連携を強化し、高校内の進路指導を有機的にサポートする本学教員による出張授業、高校へのキャリア教育支援の連携など、高大連携推進室を中心に積極的に推進している。

②オープンキャンパス

全学体制で取り組むオープンキャンパスを募集戦略において最も重要な中核的イベントと位置づけている。本学は、4 キャンパスで毎年合計 40 回ほどのオープンキャンパスを実施しており、過去 3 年間で平均 1,600 人（のべ）／年、平均 40 人／回以上の来場実績がある。オープンキャンパスは、各回において動員目標を設定し、DMや資料請求などから本学に興味・関心を持った生徒の来場につなげ、来場者に対しては本学の様々な学部学科とその魅力を知ってもらい、出願につなげる結節点の役割を担っており、本学ではそれらの一連のプロセスを全て数値的にデータ管理することで、毎年資料請求・来場者数・出願数の増加を実現している。

オープンキャンパスの動員では、ダイレクトメールの送付、インターネット広告、交通広告、各種受験雑誌、高校内・会場ガイダンス、高校訪問等で広く周知し、来場者の確保へと繋げている。令和 6 年度以降のオープンキャンパスにおいても、4 キャンパスで年間全 43 回の実施予定と昨年度以上の来場者数を見込んでいる。

オープンキャンパスの運営と内容については、

- 1) 資料請求への速やかで質の高い対応
- 2) 大学全体の説明と学科ごとの説明や体験メニュー（ミニ講義など）の魅力的な連動
- 3) 説明やメニュー担当教員の適切な選定
- 4) 学生スタッフの活用（アシスト要員ではなく学生目線の OC 実施体制への転換）
- 5) 保護者用の独立メニューの設置（対高校生だけでなく多面的な大学説明の実施）
- 6) メニュー終了後の参加者との個別面談の徹底

7) 参加者の出願度評価とそれに基づくフォロー（生徒の高校進路指導部・担任へのフォロー、本人・保護者へのフォロー）

を徹底し、常に競合校を意識して、本学で学ぶメリットを打ち出すことで出願の歩留まりを高めるオープンキャンパスとなるよう努めている。また、遠方に住んでいるなどの諸事情で来場できない生徒に対しては、「オンラインオープンキャンパス」と県外での独自「出張進学相談会」も開催しており、大学概要・学部学科・入試概要の説明、教員による体験セミナー、個別相談など来場型オープンキャンパスと同様、自宅や自宅近隣でも本学の魅力を感じることができるようになっている。

③高校訪問・進学説明会

大学が立地する中部地区と四国地区を中心として、対象高校に対して年間 800 回以上の高校訪問（中部地区、四国地区、中国・九州地区）を実施し、それにより高校教員への本学の説明やオープンキャンパス等の案内を行い、高校とのコミュニケーションにより本学の取り組みを浸透させ高校との関係性の強化を図っている。また中部地区と四国地区以外の高校の開拓も積極的に進めており、本学の入学者の出身地は広範囲な地域に広がっている。特に高校訪問では、県外進学者が多い沖縄県を重点地域に設定しており、沖縄県における高校訪問、高校内・会場形式型進学ガイダンスに積極的に参加している。外部業者が開催する高校内・会場形式型・オンライン形式型進学ガイダンスには、中部地区、四国地区を中心に年間 450 会場以上に参加している。また、高校教員を対象とした「大学説明会」を毎年開催しており、令和 6 年度募集においては名古屋・浜松・松山にて実施し、進路を担当する現場の教員に、本学の各学科の学びの魅力や、最新の入試概要を理解し生徒・保護者からの質問に答えたいだけのようにしている。

④媒体広報・DM・大学HP・SNS

受験情報誌等への広告、インターネット広告、交通広告、DM、新聞など、地域ごとに効果的な受験生が利用する様々な媒体を通して、高校生の本学への認知度の向上に努めている。媒体での広報を通じて、新たな認知拡大を見込むとともに、オープンキャンパスへの来場や志願者獲得へとつなげることを意識している。

DM（郵送・電子メール）は、本学の学部学科の情報やオープンキャンパスの告知と来場者数の確保のために使用しており、DM作成・配付を計画的に実施して、毎年度のDM対象リストの蓄積と、DM配信実績、オープンキャンパス来場者数や出願数についての数値管理を心がけている。

大学HPでの情報発信も重要戦略の一つと位置づけており、受験生、保護者、高校教員等に向けた大小の情報を逐次発信することで、入試広報情報のハブ的な役割を担っているとともに、大学HPからの資料請求やオープンキャンパスの参加予約等を受け付けることから、本学の学生募集における導入ゲートにもなっている。また近年受験生において比重を高めている SNS も積極的に活用し、教員からも授業の様子などを定期的に配信することで本学に関連する様々な情報を発信している。

⑤地方試験会場の整備

本学では受験生の利便性と負担の軽減を考慮し、従来より地方試験会場、遠隔地の試験会場の整備に取り組んできた。愛知県（岡崎・大府）、愛媛県（松山）の大学会場以外に、学外試験場（岡崎、大府、東京、静岡、浜松、岡山、高知、福岡、沖縄）を設けている。複数の会場を設定することで、受験生の負担軽減と出願者の増加につなげている。総合環境学部の入学者選抜においても、愛媛県だけでなく県外の地方試験会場での入試も実施する予定である。また、成績優秀者に対する学費減免制度を設け、愛媛県以外からの優秀な学生確保も目指す。県外の高校生に向けた一人暮らしのサポートとして地元企業と連携し「マンションガイド」も独自に制作し発行している。

⑥PDCA サイクルと諸数値指標

本学では、上述した広報・募集活動において、目標とする志願者数及び入学者数の達成のため、不断に組織全体で PDCA サイクルを回しており、そのために学生募集の諸数値指標を細かく設定している。本学では、入学定員の充足は当然のことであるが、入学者の学力水準の確保のため、「2 倍以上の合格倍率となる志願者数」となることを募集における目標としている。過去 3 年間に於いて、既設学部においては、おおむねこの目標を達成している。今回新たに設置する総合環境学部においても、両学科の入学定員から逆算した合格者数、受験者数、志願者数、各オープンキャンパス来場者数、資料請求数、DM等の発送数の諸指標を細かく設定し、その目標を達成するための施策を継続的に実施していく計画である。

具体的な指標としては、フィールド自然学科（入学定員 60 人）として 415 人（のべ）の志願者数、環境情報学科として 300 人（のべ）の志願者数を獲得することを最下限の目標として設定し、アドミッション・ポリシーに合致する学生の入学につなげる計画である。

⑦ふるさと愛媛特別選抜試験

本学では、愛媛県松山市に設置する学部において「ふるさと愛媛特別選抜試験」を実施する。対象学部

は、総合環境学部（仮称・R7 開設予定）、松山看護学部とし、9月と10月に2回〔専願型〕で実施する。総合型選抜で本学への入学意欲を問う入試方式であり、学費減免（入学金免除、授業料等年間20万円免除）を行う。対象は、愛媛県で学ぶ強い意欲がある者（環境学、農学、工学、看護学分野）であり、愛媛県内はもちろん、県外から募集することで入学定員充足をめざす。在学中愛媛県に在住するだけでなく、その後、県内で就職・大学院進学をめざすことで定住を狙う。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上記（ア）で示した既設学部の転換率から、総合環境学部の開設年度である2025年度入試においては、以下の数値目標を取り組みごとに設定する。

上述した既設学部（環境科学部）の各種係数は愛媛県に立地する新学部である総合環境学部でもほぼ同様と考えられるため、オープンキャンパス参加者数として300人（当該学年、総合環境学部のみ）を目標値として、十分に達成可能な水準であることを確認し設定する。オープンキャンパス参加者数から想定される入学者数の見込みは以下の表の通りである。総合環境学部においては、愛媛県の全面的な支援が受けられることから、愛媛県の公立高校には説明会の開催、書面での通知など様々なアプローチが可能になる予定である。

●新設組織（総合環境学部）の入学者の見込み数（予定・2025年度入試）（実人数）

学部	総合環境学部（仮称）（松山道後キャンパス）	
学科	フィールド自然学科（仮称）	環境情報学科（仮称）
入学定員	60人	40人
オープンキャンパス参加者数 （当該学年・当該学科・目標値）	180人	120人
うち受験者数（予定）	120人 【OC参加者比：67%】	80人 【OC参加者比：67%】
うち入学者数（予定）	50人 【OC参加者比：28%】	35人 【OC参加者比：30%】
総入学者数（予定）	60人 【歩留まり率：33%】	40人 【歩留まり率：20%】

資料請求者数としては、1,500人（当該学年）を目標値として設定し、フィールド自然学科については60人（転換率4.0%）、環境情報学科については40人（転換率2.7%）の入学者の達成につなげる。オープンキャンパス参加者と資料請求者数の達成のため、高校訪問、DM、媒体広告等、様々な施策を実施する。

以上の現実的な学生募以上の現実的な学生募集の取り組み別の数値予想及び目標設定により、総合環境学部の入学者数100人を確保できる見込みと考えている。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

本学部では、学校種、定員規模、学問分野、所在地、学力層の類似性から、以下を競合校と選定した。

フィールド自然学科、環境情報学科ともに、四国地区及び愛媛県には、両学科と教育内容が類似する私立大学の学部学科が開設されていないことから、国立大学である愛媛大学農学部生物環境学科及び工学部工学科（コンピュータ科学コース）をそれぞれフィールド自然学科、環境情報学科の競合校に加えた。本学の松山看護学部、総合心理学部の志願者には、愛媛大学との併願者も一定数存在することから、愛媛大学を競合校とするのは妥当と思われる。また松山大学が開設予定である情報学部（2025 年開設予定・設置構想中）は、新学科の環境情報学科（仮称）と学校種、定員規模、学問分野、所在地、学力層の類似性の全てが非常に類似しているが、設置構想中であるので競合校には入れていない。松山大学は、薬学部以外の 4 学部は全て継続的に充足していることから、新学部である情報学部も充足すると予想される。

●フィールド自然学科の競合校

	大学	開設	立地	人材養成目的等の教育内容・学びの特色
1	愛媛大学 農学部 生物環境学科	1954 年度	愛媛県 松山市	山から海に至る広範囲の現場で実際に生じている環境問題と、それらへの対応の実状を理解し、地域規模から世界規模の範囲で活躍できる人材を育成する。具体的には、土・水・生態系などに対する環境の計測・分析・解析に関する先端的手法や環境改善手法と、その基盤となる化学、生物学、物理学などの分野の基礎的・工学的知識を教授し、人類と生物が安全で快適に共存できる環境を提供できる人材を育成する。
2	岡山理科大学 生物地球学部 生物地球学科	2012 年度	岡山県 岡山市	生物・植物の生態や自然現象、考古学など地球をとりまくすべてを学びの対象とし、さまざまな分野を横断的に学ぶ。「植物・園芸学」「動物・昆虫学」「地理・考古学」「地球・気象学」「天文学」「恐竜・古生物学」の 6 コースにおいて、フィールドワークで観察し、手で触れて調査し、実験や体験から得られた情報の分析を通して、学生自身が課題を発見して解決を図る能力を育成する。
3	福山大学 生命工学部 海洋生物科学科	2002 年度	広島県 福山市	持続可能な資源管理を見据え、増養殖に関する知識と技能を活用し、水産業で活躍できる人材、生態系に関する知識及び調査の技能を活用して、持続可能な社会の構築に向けて企業・研究機関等の環境部門で活躍できる人材、水生生物の生理、生態に関する知識や飼育、展示、繁殖に関する技能を活用して、種の保存や希少種の保護を視野に含めた飼育・展示・啓発活動を行う施設、研究機関、企業等で活躍できる人材、食品の開発、衛生管理、製造等の分野で活躍でき、特に水産系食品に強い人材を育成する。

愛媛大学農学部生物環境学科は、本学のフィールド自然学科と教育研究内容が類似しているため、同学科との併願が考えられ、愛媛大学に不合格となった学生の受け皿となることが可能であると考えている。岡山理科大学生物地球学部生物地球学科の「植物・園芸学」「動物・昆虫学」コースは、フィールドワークや調査・実験を重視している点において、新たに設置するフィールド自然学科の教育内容と類似している。福山大学生命工学部海洋生物科学科は、本学部が力を入れている海洋生物、水生生物の教育研究を対象としている点で、本学科と類似している。両学科とも岡山県及び広島県に立地しており、愛媛県及び四国地区には同様の内容の学科は設置されていないことに加え、本学科の特色として、「人間環境学」を中心においた本学及び学部において、環境学の側面からフィールドにおける動植物や生態系の学修を行う点が優位点と言える。

●環境情報学科の競合校

		開設	立地	人材養成目的等の教育内容・学びの特色
1	愛媛大学 工学部工学科 コンピュータ科学 コース	1949 年度	愛媛県 松山市	コンピュータ科学コースでは、従来のコンピュータ科学に加え、AI やデータサイエンス、組込みシステム、サイバーセキュリティを特に学ぶことができるカリキュラム構成としている。
2	広島工業大学 環境学部 地球環境学科	2006 年度	広島県 広島市	生態系のバランスを保つため、地球環境の複雑な仕組みや地球規模の現状把握を行い、環境共生型・循環型社会を構築していく必要があることから、「地球科学分野」「環境共生分野」「環境情報分野」の 3 分野により、地球環境問題に結びつく観測・分析・評価・計画ができる実践力を備えた人材を育成する。
3	広島修道大学 人間環境学部 人間環境学科	2002 年度	広島県 広島市	環境問題に関わる学問分野を横断的に学び、多様な知識で人間と自然が共生する社会について総合的に考える。「環境マネジメントコース」「環境教育コース」「環境科学コース」の 3 つのコースを設置し、「環境人」として社会で活躍可能な能力を身につける。
4	近畿大学 工学部 情報学科	1959 年度	広島県 東広島 市	情報技術に関する知識と、それを利用するための技術を修得し、持続可能な高度情報化社会を築くために必要な高い責任感と倫理観をもって 情報技術を活用できる技術者の育成を目指し、『情報システムコース』と『情報メディアコース』の 2 つのコースを設定。
5	ノートルダム清心女 子大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科	2024 年度	岡山県 岡山市	文系理系の枠組みを超えた柔軟な視点で社会の問題をとらえる力を養い、インターネットやデータ分析を活用した多様なアプローチで課題の改善・解決に当たり、安全で持続的な社会の発展に貢献できる人材を育成する。

新たに設置する環境情報学科は、情報学を通じて環境学を学修する全国的にも数少ない教育研究の取り組みを行う学科であり、教育内容が完全に一致する競合校は存在しないものの、競合大学として上記の 5 大学を挙げる。愛媛大学工学部工学科（コンピュータ科学コース）は、本学の環境情報学科と教育研究内容が類似しているため、同学科との併願が考えられ、愛媛大学に不合格となった学生の受け皿となることが可能であると考えている。愛媛県及び四国地区の私立大学には、本学科と近い私立大学の環境系または情報系の学部学科は設置されていないことから、競合に挙げた私立大学は全て広島県及び岡山県に立地していることとなった。広島工業大学は環境学部地球環境学科の 3 分野の中に「環境情報分野」を置いており、本学科に最も類似した学科と言える。広島修道大学人間環境学部人間環境学科は、情報系のコースは置いていないものの、環境問題の解決に貢献できる人材の養成という点で本学科と共通する点が多い。近畿大学工学部情報学科は、情報技術者の養成を行う学科であり、環境系の要素はないが、情報学において本学科のカリキュラムと共通する点がある。他にノートルダム清心女子大学（岡山県）が 2025 年度に開設予定の情報デザイン学部情報デザイン学科は、情報学を通じた社会課題の解決という点で本学科と類似している。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の入学志願状況は【資料 3】【資料 4】に、入学定員充足状況は以下に示したが、競合校の学科は全て一定上の志願者数を集め入学定員を充足（2023 年度）している。これらの競合校は全て中国地区（岡山県、広島県）に立地しているが、人口規模において愛媛県松山市はやや劣るものの、適切な学生募集施策を実施することで、総合環境学部においても同等の結果が見込めると考えている。

●フィールド自然学科の競合校の入学定員充足率

	競合校	入学定員	入学定員充足率 (2023 年度)
1	愛媛大学 農学部 (全体)	170	1.07
2	岡山理科大学 生物地球学部 生物地球学科	140	1.04
3	福山大学 生命工学部 海洋生物科学科	100	1.10

●環境情報学科の競合校の入学定員充足率

	競合校	入学定員	入学定員充足率 (2023 年度)
1	愛媛大学 工学部 (全体)	500	1.04
2	広島工業大学 環境学部 地球環境学科 (充足率は学部)	180 (学部) 70 (学科)	1.14 (学部)
3	広島修道大学 人間環境学部 人間環境学科	115	1.04
4	近畿大学 工学部 情報学科	100	1.11
5	ノートルダム清心女子大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科	100	2024 年度開設

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等 (競合校定員未充足の場合のみ)

競合校は全て定員を充足していることから該当なし。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学部及び競合校の学納金は以下の通りである。本学部の学納金設定は、国立大学である愛媛大学を除き、競合校の中では低い水準のグループに入っていることから、適切かつ競争力を持った学納金設定であると考えている。

●フィールド自然学科及び競合校の学納金

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年度納付金
人間環境大学 総合環境学部フィールド自然学科	200,000	1,130,000	1,330,000
愛媛大学 農学部生物環境学科	282,000	535,800	817,800
岡山理科大学 生物地球学部 生物地球学科	220,000	1,310,000	1,530,000
福山大学 生命工学部 海洋生物科学科	200,000	1,150,000	1,350,000

(単位：円) ※2024 年度学納金。出典：各大学 HP 等

●環境情報学科及び競合校の学納金

大学学部学科名	入学金	授業料等	初年度納付金
人間環境大学 総合環境学部環境情報学科	200,000	1,130,000	1,330,000
愛媛大学 工学部工学科 コンピュータ科学コース	282,000	535,800	817,800
広島工業大学	250,000	1,340,000	1,590,000

環境学部 地球環境学科			
広島修道大学 人間環境学部 人間環境学科	220,000	1,000,000	1,220,000
近畿大学 工学部 情報学科	250,000	1,148,000	1,398,000
ノートルダム清心女子大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科	200,000	1,150,000	1,350,000

(単位：円) ※2024 年度学納金。出典：各大学 HP 等

③先行事例分析

本学部は既設学部等の廃止を伴わない完全な新設学部であるため、本項目には該当しない。

④学生確保に関するアンケート調査

本学部の学生確保の見通しを測定するために、入学意向アンケート調査【資料4】を実施した。調査と結果の概要は以下の通りである。

●入学意向アンケート調査の概要

調査時期	令和5年9月～12月
調査対象	調査対象学年：高校2年生（令和5年度） 調査対象地域：総合環境学部（仮称）の主たる学生募集エリアと想定される愛媛県を中心とした四国地区、人間環境大学の本部がある愛知県、及び愛媛県の周辺県
回答件数	4,419人（44校）

●入学意向アンケート調査の結果

	フィールド自然学科 入学定員 60人	環境情報学科 入学定員 40人
受験意志（第一志望）	75人（1.7%）	50人（1.1%）
受験意志（第一志望～第三志望以下）	161人（3.6%）	160人（3.6%）
入学意志	77人（1.7%）	51人（1.2%）
5重クロス集計での入学意志	25人（0.6%）	19人（0.4%）

以上の調査結果により、回収のあった4,419人（44校）のうち、フィールド自然学科については75人（1.7%）、環境情報学科については50人（1.1%）が受験意志（第一志望）を示し、フィールド自然学科については77人（1.7%）、環境情報学については51人（1.2%）が入学意志を示し、両学科において受験意志（第一志望）、入学意志ともに入学定員を上回った。

5重クロス集計では、「大学進学希望」かつ「私立大学を希望」かつ「農学分野の環境学分野を志望」かつ「受験意志（第一志望）」かつ「入学意志」を示した回答者は、フィールド自然学科では25人（0.6%）、環境情報学科では19人（0.4%）と入学定員を下回ったが、本調査がサンプル調査である点と、新学部と類似する学部である既設の環境科学部（フィールド生態学科、環境データサイエンス学科）の過去の志願・充足状況と合わせて、学生の確保と定員の充足には問題がないと考えている。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学部の人材需要の見通しを測定するため、事業所向けに「採用意向アンケート調査」【資料6】を実施した。調査の概要と結果の概略は以下の通りである。

●採用意向アンケート調査の概要

調査実施時期	令和5年10月～12月
調査対象 (送付・依頼先)	人間環境大学総合環境学部の卒業生の採用が見込まれる以下の事業所 (業種) 農業・水産・林業、建設・土木・製造、環境関係、情報通信・ソフトウェア、卸売・小売・流通、サービス業、動物園・植物園 (地域) 愛媛県を中心とする四国地区、中国地区及び首都圏、一部業種(動物園・植物園)は全国(依頼件数)1,500件
回収件数	233件(回収率 15.5%)

●採用意向アンケート調査の結果

	フィールド自然学科	環境情報学科
養成人材の社会的ニーズ 「人材ニーズは高い」	97事業所 (41.6%)	129人 (55.4%)
卒業生の採用意向 「採用したい」	72事業所 (30.9%)	86人 (36.9%)
「採用の場合の採用可能人数」	155人 【入学定員60人の2.5倍】	155人 【入学定員40人の3.9倍】

以上の調査結果により、総合環境学部の両学科の卒業後の人材需要については、事業所からの十分な採用意向が示されている。

(4) 新設組織の定員設定の理由

上記で述べた根拠、特に本学が愛知県(3学部)、愛媛県(2学部)両キャンパスの全ての学部学科において入学定員を継続的に充足している点、新学部は愛媛県からの強い要請と全面的な支援を受けて設置するものである点から、総合環境学部フィールド自然学科(入学定員60人)、環境情報学科(入学定員40人)の定員設定は合理的かつ適切であり、定員を充足する見込みであると考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

別紙 1	新設組織が置かれる都道府県への入学状況
別紙 2	既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近 5 年間）
別紙 3	既設学科等の学生募集のためのPR 活動の過去の実績

資料 1	人間環境大学既存学部への入学定員充足状況
資料 2	人間環境大学既存学部の志願状況
資料 3	競合校の学生募集状況（フィールド自然学科）
資料 4	競合校の学生募集状況（環境情報学科）
資料 5	入学意向アンケート調査報告書
資料 6	採用意向アンケート調査報告書

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	愛媛県	2,112人	53.5%
2	広島県	399人	10.1%
3	香川県	240人	6.1%
4	高知県	172人	4.4%
5	岡山県	165人	4.2%
	全 体	3,947人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	愛媛県	88.22%	90.97%	86.21%
2				

※充足率は四国

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
1	農学系	96.41%	102.65%	103.32%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数				8人	10人	9人
	延べ人数				84人	145人	115人
	志願者数				83人	140人	112人
	受験者数				40人	24人	32人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				3人	1人	2人
	辞退者数				78人	142人	110人
	志願者数				77人	137人	107人
	受験者数				37人	23人	30人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				3人	1人	2人
学校推薦型選抜	入学者数				30人	20人	25人
	募集人数				11人	11人	11人
	延べ人数				56人	52人	54人
	志願者数				48人	48人	48人
	受験者数				27人	19人	23
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	0人	0.5
	辞退者数				56人	51人	53.5
	志願者数				48人	47人	47.5
	受験者数				27人	19人	23
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	0人	0.5
一般選抜	入学者数				22人	17人	19.5
	募集人数				27人	25人	26
	延べ人数				628人	327人	477.5
	志願者数				535人	279人	407
	受験者数				70人	61人	65.5
	合格者数				0人	3人	1.5
	うち追加合格者数				0人	1人	0.5
	辞退者数				265人	292人	278.5
	志願者数				245人	249人	247
	受験者数				33人	57人	45
	合格者数				0人	3人	1.5
	うち追加合格者数				0人	1人	0.5
共通テスト利用入試	入学者数				10人	18人	14
	募集人数				6人	6人	6
	延べ人数				421人	233人	327
	志願者数				421人	233人	327
	受験者数				101人	60人	80.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	0人	0.5
	辞退者数				213人	207人	210
	志願者数				213人	207人	210
	受験者数				49人	57人	53
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	0人	0.5
その他の特別選抜	入学者数				4人	4人	4
	募集人数				8人	8人	8
	延べ人数				103人	74人	88.5
	志願者数				99人	73人	86
	受験者数				9人	31人	20
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				72人	67人	69.5
	志願者数				70人	66人	68
	受験者数				8人	29人	18.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
合計	入学者数				2人	6人	4
	募集人数				60人	60人	60人
	延べ人数				1292人	831人	1062人
	志願者数				1186人	773人	980人
	受験者数				247人	195人	221人
	合格者数				0人	3人	2人
	うち追加合格者数				5人	2人	4人
	辞退者数				684人	759人	722人
	志願者数				653人	706人	680人
	受験者数				154人	185人	170人
	合格者数				0人	3人	2人
	うち追加合格者数				5人	2人	4人
	辞退者数				68人	65人	67人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員				60人	60人	60
入 学 定 員 充 足 率				1.13	1.08	1.11
歩 留 率				0.44	0.35	0.39

（備考）令和4年度開設

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数				5人	7人	6人
	延べ人数				32人	62人	47人
	志願者数				32人	59人	46人
	受験者数				28人	30人	29人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				2人	1人	2人
	辞退者数				17人	16人	17人
	実人数				17人	16人	17人
	志願者数				14人	10人	12人
	受験者数				0人	0人	0人
	合格者数				1人	0人	1人
学校推薦型選抜	入学者数				22人	23人	23人
	募集人数				8人	8人	8人
	延べ人数				22人	26人	24人
	志願者数				19人	23人	21人
	受験者数				19人	9人	14
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	0人	0.5
	辞退者数				7人	9人	8
	実人数				6人	9人	7.5
	志願者数				6人	8人	7
	受験者数				0人	0人	0
一般選抜	入学者数				13人	8人	10.5
	募集人数				18人	16人	17
	延べ人数				556人	269人	412.5
	志願者数				466人	230人	348
	受験者数				83人	41人	62
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	1人	1
	辞退者数				55人	40人	47.5
	実人数				48人	35人	41.5
	志願者数				17人	7人	12
	受験者数				0人	0人	0
共通テスト利用入試	入学者数				5人	1人	3
	募集人数				4人	4人	4
	延べ人数				372人	190人	281
	志願者数				372人	190人	281
	受験者数				47人	120人	83.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	1人	0.5
	辞退者数				26人	26人	26
	実人数				26人	26人	26
	志願者数				4人	16人	10
	受験者数				0人	0人	0
その他の特別選抜	入学者数				0人	8人	4
	募集人数				5人	5人	5
	延べ人数				58人	42人	50
	志願者数				56人	41人	48.5
	受験者数				26人	17人	21.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				16人	20人	18
	実人数				16人	20人	18
	志願者数				5人	6人	5.5
	受験者数				0人	0人	0
合計	入学者数				4人	2人	3
	募集人数				40人	40人	40人
	延べ人数				1040人	589人	815人
	志願者数				945人	543人	744人
	受験者数				203人	217人	210人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				4人	3人	4人
	辞退者数				121人	111人	116人
	実人数				113人	106人	110人
	志願者数				46人	47人	47人
	受験者数				0人	0人	0人
入学定員充足率	入学者数				44人	42人	43人
	募集人数				40人	40人	40人
	延べ人数				1040人	589人	815人
	志願者数				945人	543人	744人
	受験者数				203人	217人	210人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				4人	3人	4人
	辞退者数				121人	111人	116人
	実人数				113人	106人	110人
	志願者数				46人	47人	47人
	受験者数				0人	0人	0人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員				40人	40人	40
入 学 定 員 充 足 率				1.10	1.05	1.08
歩 留 率				0.96	0.89	0.93

（備考）令和4年度開設

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数				19人	19人	19人
	延べ人数				102人	137人	120人
	志願者数				100人	131人	116人
	受験者数				62人	67人	65人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				0人	3人	2人
	辞退者数				102人	137人	120人
	実人数				100人	131人	116人
	志願者数				62人	67人	65人
	受験者数				0人	0人	0人
学校推薦型選抜	合格者数				0人	3人	2人
	うち追加合格者数				55人	54人	55人
	辞退者数				24人	24人	24人
	実人数				57人	42人	50人
	志願者数				48人	37人	43人
	受験者数				30人	25人	27.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	3人	2
	辞退者数				57人	42人	49.5
	実人数				48人	37人	42.5
一般選抜	合格者数				30人	25人	27.5
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				1人	3人	2
	実人数				24人	18人	21
	志願者数				40人	40人	40
	受験者数				566人	451人	508.5
	合格者数				465人	398人	431.5
	うち追加合格者数				236人	178人	207
	辞退者数				2人	1人	1.5
	実人数				3人	2人	2.5
共通テスト利用入試	志願者数				229人	182人	205.5
	受験者数				192人	164人	178
	合格者数				72人	54人	63
	うち追加合格者数				1人	1人	1
	辞退者数				1人	1人	1
	実人数				16人	16人	16
	志願者数				8人	8人	8
	受験者数				330人	243人	286.5
	合格者数				330人	243人	286.5
	うち追加合格者数				138人	108人	123
その他の特別選抜	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				0人	0人	0
	実人数				123人	89人	106
	志願者数				123人	89人	106
	受験者数				64人	44人	54
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				0人	0人	0
	実人数				4人	6人	5
合計	募集人数				9人	9人	9
	延べ人数				106人	91人	98.5
	志願者数				103人	84人	93.5
	受験者数				55人	48人	51.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	2人	1
	辞退者数				75人	64人	69.5
	実人数				74人	60人	67
	志願者数				35人	30人	33人
	受験者数				0人	0人	0
入学定員充足率	合格者数				0人	2人	1
	うち追加合格者数				15人	12人	13.5
	辞退者数				100人	100人	100人
	実人数				1161人	964人	1063人
	志願者数				1046人	893人	970人
	受験者数				521人	426人	474人
	合格者数				2人	1人	2人
	うち追加合格者数				4人	10人	7人
	辞退者数				586人	514人	550人
	実人数				537人	481人	509人
入学定員充足率	合格者数				263人	220人	242人
	うち追加合格者数				1人	1人	1人
	辞退者数				2人	9人	6人
	実人数				114人	106人	110人
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員				100人	100人	100
入 学 定 員 充 足 率				1.14	1.06	1.10
歩 留 率				0.43	0.48	0.46

（備考）令和4年度開設

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数				7人	9人	8人
	延べ人数				49人	74人	62人
	志願者数				49人	74人	62人
	受験者数				27人	26人	27人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				1人	1人	1人
	辞退者数				49人	74人	62人
	実人数				49人	74人	62人
	志願者数				27人	26人	27人
	受験者数				0人	0人	0人
	合格者数				1人	1人	1人
学校推薦型選抜	入学者数				23人	23人	23人
	募集人数				10人	10人	10人
	延べ人数				32人	27人	30人
	志願者数				29人	26人	28人
	受験者数				15人	15人	15
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				0人	0人	0
	実人数				32人	27人	29.5
	志願者数				29人	26人	27.5
	受験者数				15人	15人	15
一般選抜	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				0人	0人	0
	実人数				32人	27人	29.5
	志願者数				29人	26人	27.5
	受験者数				15人	15人	15
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				0人	0人	0
	入学者数				15人	14人	14.5
	募集人数				22人	20人	21
共通テスト利用入試	延べ人数				490人	411人	450.5
	志願者数				406人	365人	385.5
	受験者数				66人	91人	78.5
	合格者数				0人	2人	1
	うち追加合格者数				1人	1人	1
	辞退者数				78人	90人	84
	実人数				72人	82人	77
	志願者数				8人	29人	18.5
	受験者数				0人	2人	1
	合格者数				0人	1人	0.5
	うち追加合格者数				4人	10人	7
その他の特別選抜	募集人数				5人	5人	5
	延べ人数				302人	227人	264.5
	志願者数				302人	227人	264.5
	受験者数				80人	55人	67.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				3人	0人	1.5
	辞退者数				75人	50人	62.5
	実人数				75人	50人	62.5
	志願者数				22人	13人	17.5
	受験者数				0人	0人	0
	合格者数				3人	0人	1.5
合計	うち追加合格者数				1人	3人	2
	辞退者数				6人	6人	6
	入学者数				81人	70人	75.5
	募集人数				78人	66人	72
	延べ人数				42人	22人	32
	志願者数				0人	0人	0
	受験者数				0人	0人	0
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				0人	0人	0
	実人数				49人	40人	44.5
合計	志願者数				46人	38人	42
	受験者数				19人	9人	14
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				0人	0人	0
	入学者数				11人	4人	7.5
	募集人数				50人	50人	50人
	延べ人数				954人	809人	882人
	志願者数				864人	758人	811人
	受験者数				230人	209人	220人
	合格者数				0人	2人	1人
合計	うち追加合格者数				5人	2人	4人
	辞退者数				283人	281人	282人
	入学者数				271人	270人	271人
	募集人数				91人	92人	92人
	延べ人数				0人	2人	1人
	志願者数				4人	2人	3人
	受験者数				54人	54人	54人
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	入学者数						

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員				50人	50人	50
入 学 定 員 充 足 率				1.08	1.08	1.08
歩 留 率				0.59	0.57	0.58

（備考）令和4年度開設

１．各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数						#DIV/0!
	延べ人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
学校推薦型選抜	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
	志願者数						#DIV/0!
	受験者数						#DIV/0!
	合格者数						#DIV/0!
	うち追加合格者数						#DIV/0!
	辞退者数						#DIV/0!
	入学者数						#DIV/0!
一般選抜	募集人数	25人	25人	25人	28人	30人	27人
	延べ人数	66人	64人	85人	90人	70人	75人
	志願者数	65人	63人	85人	89人	70人	74人
	受験者数	33人	36人	44人	48人	46人	41.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	66人	64人	85人	90人	70人	75
	志願者数	65人	63人	85人	89人	70人	74.4
	受験者数	33人	36人	44人	48人	46人	41.4
共通テスト利用入試	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	31人	35人	43人	47人	45人	40.2
	志願者数	50人	50人	50人	47人	45人	48.4
	受験者数	462人	608人	690人	526人	411人	539.4
	合格者数	383人	514人	530人	410人	350人	437.4
	うち追加合格者数	106人	134人	118人	108人	94人	112
	合格者数	16人	16人	0人	0人	0人	6.4
	うち追加合格者数	15人	9人	8人	7人	2人	8.2
その他の特別選抜	辞退者数	164人	199人	182人	183人	135人	172.6
	実人数	149人	184人	162人	157人	130人	156.4
	志願者数	48人	66人	54人	56人	45人	53.8
	受験者数	5人	4人	0人	0人	0人	1.8
	合格者数	9人	4人	5人	4人	1人	4.6
	うち追加合格者数	47人	46人	40人	38人	24人	39
	辞退者数	5人	5人	5人	5人	5人	5
	実人数	153人	138人	239人	184人	169人	176.6
	志願者数	153人	137人	239人	184人	169人	176.4
	受験者数	16人	52人	63人	52人	64人	49.4
合計	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	1人	2人	0人	1人	0.8
	辞退者数	5人	7人	23人	12人	26人	14.6
	実人数	5人	7人	23人	12人	26人	14.6
	志願者数	0人	7人	15人	8人	19人	9.8
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	1人	0人	1人	0.4
	うち追加合格者数	0人	0人	5人	4人	2人	2.2
	辞退者数	15人	15人	15人	15人	15人	15
	実人数	251人	221人	281人	227人	206人	237.2
入学定員充足率	志願者数	249人	220人	273人	218人	195人	231
	受験者数	88人	94人	92人	92人	90人	91.2
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	6人	6人	2人	4人	3人	4.2
	辞退者数	208人	176人	217人	162人	152人	183
	実人数	207人	176人	209人	155人	142人	177.8
	志願者数	85人	87人	85人	85人	81人	84.6
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	6人	4人	2人	4人	3人	3.8
	うち追加合格者数	21人	25人	22人	23人	29人	24

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	95人	95人	95人	95人	95人	95
入 学 定 員 充 足 率	1.04	1.12	1.16	1.18	1.05	1.11
歩 留 率	0.58	0.53	0.56	0.57	0.52	0.55

(備考) なし

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	47人	42人	106人	74人	87人	71人
	志願者数	47人	41人	104人	73人	85人	70人
	受験者数	47人	41人	66人	64人	67人	57人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	2人	0人	5人	6人	2人	3人
	辞退者数	47人	42人	106人	74人	87人	71人
	志願者数	47人	41人	104人	73人	85人	70人
	受験者数	47人	41人	66人	64人	67人	57人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	2人	0人	5人	6人	2人	3人
	辞退者数	39人	26人	51人	51人	47人	43人
	入学者数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
学校推薦型選抜	募集人数	9人	12人	17人	26人	14人	16人
	延べ人数	9人	12人	16人	24人	13人	15人
	志願者数	9人	12人	11人	20人	12人	12.8
	受験者数	9人	12人	11人	20人	12人	0
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	9人	12人	17人	26人	14人	15.6
	志願者数	9人	12人	16人	24人	13人	14.8
	受験者数	9人	12人	11人	20人	12人	12.8
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	3人	8人	7人	15人	10人	8.6
	入学者数	20人	20人	20人	20人	20人	20
一般選抜	募集人数	127人	543人	582人	377人	245人	374.8
	延べ人数	113人	465人	466人	290人	195人	305.8
	志願者数	98人	458人	295人	155人	156人	232.4
	受験者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4
	合格者数	8人	9人	3人	4人	3人	5.4
	うち追加合格者数	66人	63人	117人	118人	87人	90.2
	志願者数	62人	55人	100人	93人	73人	76.6
	受験者数	49人	53人	56人	46人	57人	52.2
	合格者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4
	うち追加合格者数	0人	1人	3人	2人	1人	1.4
	辞退者数	22人	28人	20人	12人	16人	19.6
	入学者数	5人	5人	5人	5人	5人	5
	募集人数	23人	168人	212人	137人	85人	125
共通テスト利用入試	延べ人数	23人	163人	212人	137人	85人	124
	志願者数	18人	126人	173人	62人	63人	88.4
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	うち追加合格者数	11人	21人	24人	42人	24人	24.4
	志願者数	11人	21人	24人	42人	24人	24.4
	受験者数	10人	15人	20人	23人	20人	17.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	辞退者数	0人	3人	3人	0人	0人	1.2
	入学者数	15人	15人	15人	15人	15人	15
	募集人数	112人	218人	255人	152人	117人	170.8
	延べ人数	111人	217人	245人	148人	110人	166.2
その他の特別選抜	志願者数	95人	214人	148人	60人	75人	118.4
	受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
	合格者数	2人	2人	1人	2人	2人	1.8
	うち追加合格者数	88人	62人	95人	88人	65人	79.6
	志願者数	87人	61人	92人	86人	62人	77.6
	受験者数	72人	58人	40人	28人	37人	47
	合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
	うち追加合格者数	2人	0人	0人	1人	2人	1
	辞退者数	8人	21人	8人	2人	13人	10.4
	入学者数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
	募集人数	318人	983人	1172人	766人	548人	757人
	延べ人数	303人	898人	1043人	672人	488人	681人
	志願者数	267人	851人	693人	361人	373人	509人
合計	受験者数	0人	0人	0人	3人	0人	1人
	合格者数	12人	11人	10人	12人	7人	10人
	うち追加合格者数	221人	200人	359人	348人	277人	281人
	志願者数	216人	190人	336人	318人	257人	263人
	受験者数	187人	179人	193人	181人	193人	187人
	合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	1人
	うち追加合格者数	4人	1人	9人	9人	5人	6人
	辞退者数	72人	86人	89人	80人	86人	83人
	入学者数						

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入 学 定 員 充 足 率	0.90	1.08	1.11	1.00	1.08	1.03
歩 留 率	0.39	0.48	0.46	0.43	0.45	0.44

（備考）なし

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数				15人	15人	15人
	延べ人数				74人	103人	89人
	志願者数				74人	100人	87人
	受験者数				62人	65人	64人
	合格者数				0人	0人	0人
	うち追加合格者数				5人	0人	3人
	辞退者数				74人	103人	89人
	実人数				74人	100人	87人
	志願者数				62人	65人	64人
	受験者数				0人	0人	0人
	合格者数				5人	0人	3人
学校推薦型選抜	入学者数				51人	59人	55人
	募集人数				15人	15人	15人
	延べ人数				20人	12人	16人
	志願者数				18人	10人	14人
	受験者数				11人	8人	9.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	1人	1
	辞退者数				20人	12人	16
	実人数				18人	10人	14
	志願者数				11人	8人	9.5
	受験者数				0人	0人	0
一般選抜	合格者数				1人	1人	1
	うち追加合格者数				9人	4人	6.5
	辞退者数				29人	29人	29
	募集人数				556人	308人	432
	延べ人数				457人	245人	351
	志願者数				191人	118人	154.5
	受験者数				3人	0人	1.5
	合格者数				5人	1人	3
	うち追加合格者数				160人	110人	135
	辞退者数				145人	85人	115
	実人数				53人	44人	48.5
共通テスト利用入試	合格者数				3人	0人	1.5
	うち追加合格者数				4人	0人	2
	辞退者数				12人	13人	12.5
	入学者数				6人	6人	6
	募集人数				339人	24人	181.5
	延べ人数				339人	24人	181.5
	志願者数				103人	12人	57.5
	受験者数				0人	0人	0
	合格者数				1人	0人	0.5
	うち追加合格者数				95人	24人	59.5
	辞退者数				95人	24人	59.5
その他の特別選抜	合格者数				32人	12人	22
	うち追加合格者数				0人	0人	0
	辞退者数				1人	0人	0.5
	入学者数				6人	0人	3
	募集人数				15人	15人	15
	延べ人数				108人	118人	113
	志願者数				105人	111人	108
	受験者数				51人	52人	51.5
	合格者数				0人	0人	0
	うち追加合格者数				1人	0人	0.5
	辞退者数				73人	86人	79.5
合計	実人数				72人	82人	77
	志願者数				29人	35人	32
	受験者数				0人	0人	0
	合格者数				1人	0人	0.5
	うち追加合格者数				6人	15人	10.5
	辞退者数				80人	80人	80人
	募集人数				1097人	565人	831人
	延べ人数				993人	490人	742人
	志願者数				418人	255人	337人
	受験者数				3人	0人	2人
	合格者数				13人	2人	8人
入学定員充足率	うち追加合格者数				422人	335人	379人
	辞退者数				404人	301人	353人
	入学者数				187人	164人	176人
	募集人数				3人	0人	2人
	延べ人数				12人	1人	7人
	志願者数				84人	91人	88人
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	入学者数						

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員				80人	80人	80
入 学 定 員 充 足 率				1.05	1.14	1.09
歩 留 率				0.44	0.55	0.50

（備考）令和4年度開設

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：フィールド生態学科 オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	418人	626人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、懇談、施設案内を実施。 R4年度入試対象 (R3開催) (3/21、4/25、5/16、6/19、7/4、7/18、8/1、8/22、9/26、10/16) R5年度入試対象 (R4開催) (3/20、4/30、5/28、6/19、7/2、7/24、8/6、8/21、9/25、10/15) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 新設のフィールド自然学科（仮称）の類似学科であるフィールド生態学科では、オープンキャンパス参加者からの入学率は22.9%となっており、OC来場者数の予測（180人・学科）から、フィールド自然学科（仮称）でも入学定員60人を充足できる見込みである。 ※(a)、(b)、(d)については実数、受験者数(c)については併願を含む述べ数
うち受験対象者数 (b)	171人	210人	
うち受験者数 (c)	107人	125人	
うち入学者数 (d)	55人	48人	
(受験率 c/b)	62.6%	59.5%	
(入学率 d/b)	32.2%	22.9%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：環境データサイエンス学科 オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	109人	156人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、懇談、施設案内を実施。 R4年度入試対象 (R3開催) (3/21、4/25、5/16、6/19、7/4、7/18、8/1、8/22、9/26、10/16) R5年度入試対象 (R4開催) (3/20、4/30、5/28、6/19、7/2、7/24、8/6、8/21、9/25、10/15) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 新設の環境情報学科（仮称）の類似学科である環境データサイエンス学科では、オープンキャンパス参加者からの入学率は68.0%となっており、OC来場者数の予測（120人・学科）から、環境情報学科（仮称）でも入学定員40人を充足できる見込みである。 ※(a)、(b)、(d)については実数、受験者数(c)については併願を含む述べ数
うち受験対象者数 (b)	34人	50人	
うち受験者数 (c)	55人	88人	
うち入学者数 (d)	35人	34人	
(受験率 c/b)	161.8%	176.0%	
(入学率 d/b)	102.9%	68.0%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：フィールド生態学科／大学案内の発送

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
資料請求総数 (a)	2262人	3942人	①取組概要 大学案内の送付、受験情報誌等への広告、インターネット広告、交通広告、DM、新聞、テレビCMなど、地域ごとに効果的な受験生が利用する様々な媒体を通して、高校生の本学への認知度の向上に努め、資料請求者から志願者、入学者につなげている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 新設のフィールド自然学科（仮称）の類似学科であるフィールド生態学科では、資料請求者からの入学率は3.9%となっており、資料請求者数の予想（1500人）から、フィールド自然学科（仮称）でも入学定員60人（4.0%）を充足できる見込みである。 ※資料請求総数(a)及び受験対象者数(b)については環境科学部の数値
うち受験対象者数 (b)	1110人	1667人	
うち受験者数 (c)	1186人	773人	
うち入学者数 (d)	68人	65人	
(受験率 c/b)	106.8%	46.4%	
(入学率 d/b)	6.1%	3.9%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：環境データサイエンス学科／大学案内の発送

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
資料請求総数 (a)	2262人	3942人	①取組概要 大学案内の送付、受験情報誌等への広告、インターネット広告、交通広告、DM、新聞など、地域ごとに効果的な受験生が利用する様々な媒体を通して、高校生の本学への認知度の向上に努め、資料請求者から志願者、入学者につなげている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 新設の環境情報学科（仮称）の類似学科である環境データサイエンス学科では、資料請求者からの入学率は2.5%となっており、資料請求者数（1500人）の予想から、フィールド自然学科（仮称）でも入学定員40人（2.7%）を充足できる見込みである。 ※資料請求総数(a)及び受験対象者数(b)については環境科学部の数値
うち受験対象者数 (b)	1110人	1667人	
うち受験者数 (c)	945人	543人	
うち入学者数 (d)	44人	42人	
(受験率 c/b)	85.1%	32.6%	
(入学率 d/b)	4.0%	2.5%	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：総合心理学部／オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	285人	387人	①取組概要 受験希望者及び高校生全般を対象にキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、個別相談及び保護者懇談会、施設案内を実施(R3年度は開設前につき外部会場を借用して開催)。 R4年度入試対象(R3開催)4/29、6/5、7/11、8/8、8/22、9/18、10/17、11/13 R5年度入試対象(R4開催)3/27、4/23、5/8、6/4、7/9、8/7、8/20、9/19、10/16、11/19 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 総合心理学部の開設時(R4年4月開設、定員80人)には、前年度中に説明会を定期的に開催し、新設学部への告知を精力的に行った。その結果、定員の3倍を超える参加者への直接認知に繋がりと、初年度の定員充足を達成した。年を経てさらに認知度は上昇し、左記のとおり、本学への来学者も増加傾向にある。よって、2025年に新設予定の総合環境学部においても同様に広報活動を行うことで、初年度以降、継続して入学定員100人を充足できる見込みである。 ※(a)、(b)、(d)については実数、受験者数(c)については併願を含む述べ数
うち受験対象者数(b)	137人	179人	
うち受験者数(c)	87人	113人	
うち入学者数(d)	65人	72人	
(受験率 c/b)	63.5%	63.1%	
(入学率 d/b)	47.4%	40.2%	

⑥募集を行った学科等名称及び取組の名称：総合心理学部／大学案内の発送

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
資料請求総数(a)	4076人	6556人	①取組概要 大学案内の送付、受験情報誌等への広告、インターネット広告、交通広告、DM、新聞、テレビCMなど、地域ごとに効果的な受験生が利用する様々な媒体を通して、高校生の本学への認知度の向上に努め、資料請求者から志願者、入学者に繋げている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 総合心理学部の開設時(R4年4月開設)には、設置構想を広く継続的に告知したことが多数のパンフレットや入学試験要項の請求に繋がりと、左記のとおり定員の10倍を超える受験者獲得に至った(R4年度実績、定員80人)。2025年に新設予定の総合環境学部においても、同様に様々な媒体で告知を行うことで認知度向上と志願者獲得を図り、入学定員100人を充足できる見込みである。 ※(a)、(b)、(d)については実数、受験者数(c)については併願を含む述べ数 ※受験者数(c)の減少は、併願受験可能な学部を一部見直し(削減)したことによる
うち受験対象者数(b)	1274人	2708人	
うち受験者数(c)	993人	490人	
うち入学者数(d)	84人	91人	
(受験率 c/b)	77.9%	18.1%	
(入学率 d/b)	6.6%	3.4%	

【資料 1】人間環境大学既存学部 of 充足状況

学部学科	入学 定員	キャンパス	備考	平成31年度入試		令和2年度入試		令和3年度入試		令和4年度入試		令和5年度入試	
				入学者数	入学定員 充足率	入学者数	入学定員 充足率	入学者数	入学定員 充足率	入学者数	入学定員 充足率	入学者数	入学定員 充足率
人間環境学部 心理学科 (募集停止)	120	岡崎	令和4年度より 募集停止	165	1.38	134	1.12	129	1.08	—	—	—	—
心理学部 心理学科	100		令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	114	1.14	106	1.06
犯罪心理学科	50		令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	54	1.08	54	1.08
人間環境学部 環境科学科 (募集停止)	80		令和4年度より 募集停止	131	1.64	91	1.14	84	1.05	—	—	—	—
環境科学部 フィールド生態学科	60		令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	68	1.13	65	1.08
環境データサイエンス学科	40		令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	44	1.10	42	1.05
看護学部 看護学科	95	大府		99	1.04	106	1.12	110	1.16	112	1.18	100	1.05
松山看護学部 看護学科	80	松山		72	0.90	86	1.08	89	1.11	80	1.00	86	1.08
総合心理学部 総合心理学科	80	松山道後	令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	84	1.05	91	1.14

【資料 2】人間環境大学既設学部 of 志願状況

学部学科	定員	キャンパス	備考	平成31年度入試					令和2年度入試					令和3年度入試					令和4年度入試					令和5年度入試				
				志願者数	実志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	志願者数	実志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	志願者数	実志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	志願者数	実志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	志願者数	実志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率
人間環境学部 心理学科	120	岡崎	令和4年度より募集停止	509	242	488	374	1.30	1,476	318	1,372	809	1.70	1,429	265	1,305	881	1.48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
心理学部 心理学科	100		令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,161	258	1,046	521	2.01	964	514	893	426	2.10
犯罪心理学科	50		令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	954	129	864	230	3.76	809	281	758	209	3.63
人間環境学部 環境科学科	80		令和4年度より募集停止	511	229	497	372	1.34	1,316	224	1,225	746	1.64	537	223	514	260	1.98	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
環境科学部 フィールド生態学科	60		令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,292	298	1,186	247	4.80	831	759	773	195	3.96
環境データサイエンス学科	40		令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,040	61	945	203	4.66	589	111	543	217	2.50
看護学部 看護学科	95	大府		932	445	850	243	3.50	1,031	446	934	316	2.96	1,295	507	1,127	317	3.56	1,027	443	901	300	3.00	856	856	784	294	2.67
松山看護学部 看護学科	80	松山		318	123	303	267	1.13	983	109	898	851	1.06	1,172	167	1,043	693	1.51	766	163	672	361	1.86	548	277	488	373	1.31
総合心理学部 総合心理学科	80	松山道後	令和4年度開設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,097	152	993	418	2.38	565	335	490	255	1.92

【資料３】フィールド自然学科 競合校となる学科等の入学志願動向

大学	学部	学科	入学 定員	一般入試（前期）志願者数															備考
				2021年度					2022年度					2023年度					
				募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
愛媛大学	農学部	生物環境学科	55	28	51	46	36	1.3	28	65	60	36	1.7	28	42	40	35	1.1	一般選抜 前期日程
岡山理科大学	生物地球学部	生物地球学科	140	－	518	491	186	2.6	－	405	381	346	1.1	－	419	400	346	1.2	一般選抜
福山大学	生命工学部	海洋生物科学科	100	89	346	336	176	1.9	89	236	230	125	1.8	89	180	177	123	1.4	一般選抜

※出典：各大学の公表データ及び旺文社「蜚雪時代」

※入学定員は2023年度の定員

【資料４】環境情報学科 競合校となる学科等の入学志願動向

大学	学部	学科	入学 定員	一般入試（前期）志願者数															備考
				2021年度					2022年度					2023年度					
				募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	
愛媛大学	工学部	工学科	500	313	686	622	333	1.9	311	534	478	334	1.4	308	554	500	339	1.5	一般選抜 前期日程
広島工業大学	環境学部	地球環境学科	70	27	251	241	154	1.6	27	185	180	111	1.6	26	182	179	117	1.5	一般選抜
広島修道大学	人間環境学部	人間環境学科	115	63	307	297	192	1.5	63	430	422	255	1.7	63	261	252	219	1.2	一般選抜
近畿大学	工学部	情報学科	100	－	398	390	194	2.0	－	491	480	119	4.0	－	402	392	116	3.4	一般入試 前期

※出典：各大学の公表データ及び旺文社「蜚雪時代」

※入学定員は2023年度の定員

【資料 5】

人間環境大学
総合環境学部(仮称)
入学意向アンケート調査
報告書

令和 6 年 1 月 31 日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 入学意向アンケート調査 概要	P 3
2. 調査実施高等学校等 一覧	P 4
3. 入学意向アンケート調査 集計結果	P 6
4. 入学意向アンケート調査 結果の要点	P 8
(添付資料)	
5. 入学意向アンケート調査用紙 (新学部 of 概要を含む) (4 頁)	

1. 入学意向アンケート調査 概要

調査目的	人間環境大学 総合環境学部(仮称) (入学定員 100 人・令和 7 (2025) 年度設置予定) における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	調査対象：令和 7 年 3 月に高校卒業予定である高校 2 年生 (令和 5 年度) 調査地域：総合環境学部 (仮称) の主たる学生募集エリアと想定される愛媛県を中心とした四国地区、人間環境大学の本部がある愛知県、及び周辺県の高等学校から調査の協力を得た。
調査内容	・回答者の基本情報 (居住地・性別) ・卒業後の進路 ・志望する大学等の設置者種別 ・興味のある学問分野 ・人間環境大学総合環境学部 (仮称) フィールド自然学科 (仮称)、環境情報学科 (仮称) への受験・入学意志 (すべて選択肢式)
調査時期	令和 5 年 9 月～12 月
調査方法	調査実施の了承が得られた高校に対しアンケート用紙を送付し、各校の教職員の監督のもと、高校において実施した。
回収件数	有効回答数：4,419 件 (44 校)
調査結果	(フィールド自然学科) [入学定員 60 人] [受験意志] 75 人 (1.7%) が受験意志 (第一志望)、161 人 (3.6%) が受験意志 (第一志望、第二志望、第三志望以降を含む) を示した。 [入学意志] 受験意志を示した回答者のうち 77 人 (1.7%) が入学意志を示した。 [5 重クロス集計] 25 人 (0.6%) が「卒業後の進路が大学」かつ「私立大学を志望」かつ「農学分野の環境学分野を志望」かつ「受験意志」(第一志望) かつ「入学意志」を示した。 (環境情報学科) [入学定員 40 人] [受験意志] 50 人 (1.1%) が受験意志 (第一志望)、160 人 (3.6%) が受験意志 (第一志望、第二志望、第三志望以降を含む) を示した。 [入学意志] 受験意志を示した回答者のうち 51 人 (1.2%) が入学意志を示した。 [5 重クロス集計] 19 人 (0.4%) が「卒業後の進路が大学」かつ「私立大学を志望」かつ「環境学分野を志望」かつ「受験意志」(第一志望) かつ「入学意志」を示した。

2. 調査実施高等学校等一覧

	高校名	県	実施件数
1	新田高等学校	愛媛県	517
2	愛媛県立松山商業高等学校	愛媛県	229
3	愛媛県立今治南高等学校	愛媛県	177
4	愛媛県立三島高等学校	愛媛県	172
5	愛媛県立伊予高等学校	愛媛県	136
6	愛媛県立新居浜工業高等学校	愛媛県	128
7	愛媛県立宇和島南中等教育学校	愛媛県	122
8	愛媛県立新居浜商業高等学校	愛媛県	96
9	愛媛県立松山中央高等学校	愛媛県	95
10	愛媛県立八幡浜高等学校	愛媛県	93
11	済美高等学校	愛媛県	91
12	愛媛県立東温高等学校	愛媛県	88
13	愛媛県立川之石高等学校	愛媛県	77
14	松山東雲高等学校	愛媛県	65
15	帝京第五高等学校	愛媛県	60
16	愛媛県立南宇和高等学校	愛媛県	58
17	愛媛県立松山工業高等学校	愛媛県	57
18	新田青雲中等教育高等学校	愛媛県	49
19	愛媛県立松山北高等学校	愛媛県	40
20	愛媛県立三崎高等学校	愛媛県	38
21	愛媛県立今治北高等学校	愛媛県	30
22	聖カトリクス学園高等学校	愛媛県	25
23	未来高等学校	愛媛県	23
24	愛媛県立長浜高等学校	愛媛県	21
25	愛媛県立東予高等学校	愛媛県	18
26	愛媛県立野村高等学校	愛媛県	16
27	愛媛県立上浮穴高等学校	愛媛県	14
28	四国学院大学香川西高等学校	香川県	137
29	香川誠陵高等学校	香川県	98
30	尽誠学園高等学校	香川県	92
31	香川県立高瀬高等学校	香川県	55
32	徳島県立つるぎ高等学校	徳島県	135
33	徳島県立鳴門渦潮高等学校	徳島県	119
34	高知県立嶺北高等学校	高知県	42
35	人間環境大学附属岡崎高等学校	愛知県	280
36	愛知県立刈谷東高等学校	愛知県	76
37	愛知県立大府東高等学校	愛知県	75

38	愛知県立尾北高等学校	愛知県	75
39	愛知県立桃陵高等学校	愛知県	27
40	皇學館高等学校	三重県	305
41	津田学園高等学校	三重県	109
42	作陽学園高等学校	岡山県	117
43	宮崎県立妻高等学校	宮崎県	103
44	山口県桜ヶ丘高等学校	山口県	39
			4,419

3. 入学意向アンケート調査 集計結果

			回答者合計	4,419	
問1 あなたの性別をお答えください。 (択一回答)	1	男性	2,249	50.9%	
	2	女性	2,018	45.7%	
	3	回答しない	152	3.4%	
		合計	4,419	100.0%	
問2 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。 (択一回答)	1	愛媛県	2,538	57.4%	
	2	香川県	365	8.3%	
	3	高知県	43	1.0%	
	4	徳島県	254	5.7%	
	5	愛知県	521	11.8%	
	6	広島県	8	0.2%	
	7	その他	690	15.6%	
		合計	4,419	100.0%	
問3 卒業後の進路をどのように考えているか お答えください。 (複数回答可能)	1	大学	2,936	66.4%	
	2	短期大学	226	5.1%	
	3	専門職大学	180	4.1%	
	4	専門職短期大学	54	1.2%	
	5	専門学校	956	21.6%	
	6	就職	859	19.4%	
	7	その他	84	1.9%	
	複数回答につき合計欄は省略				
問4 (進学の場合) 志望する大学等の設置者(国公立)の希望をご回答ください。 (複数回答可能)	1	国立	1,391	31.5%	
	2	公立	1,323	29.9%	
	3	私立	2,384	53.9%	
	複数回答につき合計欄は省略				
問5 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野をご回答ください。 (複数回答可能)	1	人文科学(文学、史学、哲学、外国語等)	673	15.2%	
	2	社会科学(法学・政治学、商学・経済学、社会学等)	1,119	25.3%	
	3	理学(数学、物理学、化学、生物、地学等)、工学(機械、電気通信、土木建築、船舶、航空等)	551	12.5%	
	4	農学(農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、林学、林産学、獣医学畜産学、水産学等)	297	6.7%	
	5	保健(医学、薬学、看護学等)	857	19.4%	
	6	家政(家政学、食物学、被服学、住居学、児童学等)	256	5.8%	
	7	教育(教育学、教職課程、体育等)	568	12.9%	
	8	芸術(美術、デザイン、音楽等)	412	9.3%	
	9	その他	1,144	25.9%	
	複数回答につき合計欄は省略				
問6 (問5で農学を選んだ方のみ) 農学分野の中で、学びたいと考えている興味のある分野を	1	環境学(フィールド自然学、環境情報学を含む)	188	4.3%	
	2	農学	128	2.9%	
	3	農芸化学	37	0.8%	

ご回答ください。 (複数回答可能)	4	農業工学	49	1.1%
	5	農業経済学	28	0.6%
	6	林学	38	0.9%
	7	林産学	18	0.4%
	8	獣医学・畜産学	128	2.9%
	9	水産学	74	1.7%
	10	その他の農学	133	3.0%
	複数回答につき合計欄は省略			
問 7 あなたは人間環境大学 総合環境学部 (フィールド自然学科、環境情報学科)(全て仮称)が開設された場合、受験を希望しますか。 (択一回答)	1	フィールド自然学科を第一志望として受験する	75	1.7%
	2	環境情報学科を第一志望として受験する	50	1.1%
	3	フィールド自然学科を第二志望として受験する	27	0.6%
	4	環境情報学科を第二志望として受験する	44	1.0%
	5	フィールド自然学科を第三志望として受験する	59	1.3%
	6	環境情報学科を第三志望として受験する	66	1.5%
	7	受験しない	4,098	92.7%
		合計	4,419	100.0%
問 8 (受験意思のあった方のみ) あなたは人間環境大学 総合環境学部 (フィールド自然学科、環境情報学科)(全て仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。 (択一回答)	1	フィールド自然学科に入学する	77	1.7%
	2	環境情報学科に入学する	51	1.2%
	3	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に、フィールド自然学科に入学する	82	1.9%
	4	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に、環境情報学科に入学する	111	2.5%
	5	入学しない	0	0.0%
	6	回答権限なし(問7の「受験しない」)	4,098	92.7%
		合計	4,419	100.0%

※割合(%)は全て全回答者(4,419人)に対する割合

4. 入学意向アンケート調査 結果の要点

要点1) 人間環境大学総合環境学部（仮称）への受験・入学意志

(1) フィールド自然学科

アンケート実施合計 4,419 人のうち、161 人（3.6%）（入学定員 60 人の 2.7 倍）より受験意志（第一志望～第三志望以下）が示された。受験意志（第一志望）を示した者（75 人）で、入学定員である 60 人を上回る結果となった。「受験する」（第一志望～第三志望以下）の回答者 161 人において、「入学する」と回答した者は 77 人（1.7%）となり、入学定員を上回る結果（1.3 倍）となった。

問7（フィールド自然学科 受験意志）の結果

第一志望として受験する	75 人	1.7%	161 人	3.6%
第二志望として受験する	27 人	0.6%		
第三志望以下として受験する	59 人	1.3%		

問8（フィールド自然学科 入学意志）の結果

入学する	77 人	1.7%	159 人	3.6%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	82 人	1.9%		

(2) 環境情報学科

アンケート実施合計 4,419 人のうち、160 人（3.6%）（入学定員 40 人の 4.0 倍）より受験意志（第一志望～第三志望以下）が示された。受験意志（第一志望）を示した者（50 人）で、入学定員である 40 人を上回る結果となった。「受験する」（第一志望～第三志望以下）の回答者 160 人において、「入学する」と回答した者は 51 人（1.2%）となり、入学定員を上回る結果（1.3 倍）となった。

問7（環境情報学科 受験意志）の結果

第一志望として受験する	50 人	1.1%	160 人	3.6%
第二志望として受験する	44 人	1.0%		
第三志望以下として受験する	66 人	1.5%		

問8（環境情報学科 入学意志）の結果

入学する	51 人	1.2%	162 人	3.7%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	111 人	2.5%		

要点２）クロス集計

〔クロス集計表〕（１）フィールド自然学科

回答者合計	〔卒業後の進路〕 (問 3)	〔学校の設置者種別〕 (問 4)	〔興味のある学問分野〕 (大分類) (問 5)	〔興味のある学問分野〕 (中分類) (問 6)	〔受験意志〕 (フィールド自然学科) (問 7)	〔入学意志〕 (フィールド自然学科) (問 8)
回答者合計 4,419 人 (%は全体回答者に対する割合)	「大学」 2,936 人 (65.4%)	「私立」 1,943 人 (44.0%)	「農学」 129 人 (2.9%)	「環境学」 67 人 (1.5%)	「受験したい (第一志望)」 25 人 (0.6%)	「入学する」 25 人 (0.6%)

〔クロス集計表〕（２）環境情報学科

回答者合計	〔卒業後の進路〕 (問 3)	〔学校の設置者種別〕 (問 4)	〔興味のある学問分野〕 (大分類) (問 5)	〔興味のある学問分野〕 (中分類) (問 6)	〔受験意志〕 (フィールド自然学科) (問 7)	〔入学意志〕 (フィールド自然学科) (問 8)
回答者合計 4,419 人 (%は全体回答者に対する割合)	「大学」 2,936 人 (65.4%)	「私立」 1,943 人 (44.0%)	「農学」 129 人 (2.9%)	「環境学」 67 人 (1.5%)	「受験したい (第一志望)」 19 人 (0.4%)	「入学する」 19 人 (0.4%)

※表の面積は回答者数を示すものではない。

「卒業後の進路」(問 3)、「学校の設置者種別 (問 4)」、「興味のある学問分野 (農学分野及びその
中分類)」(問 5) (問 6)、「受験意志」(問 7)、「入学意志」(問 8) の 5 重クロス集計を行ったところ、「大学進学を希望」し、「私立大学を希望」し、「農学分野のうち環境学に興味」を持ち、「受験
意志 (第一志望)」を持ち、「入学意志」を持つ者は、フィールド自然学科が 25 人 (アンケート回答
者全体の 0.6%)、環境情報学科が 19 人 (同 0.4%) であった。

以上



人間環境大学 総合環境学部（仮称） 入学意向アンケート調査

アンケート対象：高校2年生（2023年度現在）

人間環境大学は、松山道後キャンパスにおける新学部として、2025年4月に総合環境学部フィールド自然学科、環境情報学科（全て仮称）の開設を構想しています。本学ではこのアンケート調査を通して、高校生の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、新学部の構想の参考にさせていただきたいと考えています。本アンケートは匿名回答であり、個人が特定されることはございません。集計結果は、新学部の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

問1 あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

☐ 男性 ☐ 女性 ☐ 回答しない

問2 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

☐ 愛媛県 ☐ 香川県 ☐ 高知県 ☐ 徳島県 ☐ 愛知県 ☐ 広島県 ☐ その他

問3 卒業後の進路をどのように考えているかお答えください。（複数回答可能）

☐ 大学 ☐ 短期大学 ☐ 専門職大学 ☐ 専門職短期大学 ☐ 専門学校
☐ 就職 ☐ その他

問4 （進学の場合）志望する大学等の設置者（国公私立）の希望をご回答ください。（複数回答可能）

☐ 国立 ☐ 公立 ☐ 私立

問5 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野をご回答ください。（複数回答可能）

☐ 人文科学（文学、史学、哲学、外国語等）
☐ 社会科学（法学・政治学、商学・経済学、社会学等）
☐ 理学（数学、物理学、化学、生物、地学等） 工学（機械、電気通信、土木建築、船舶、航空等）
☐ 農学（農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、林学、林産学、獣医学畜産学、水産学等）
☐ 保健（医学、薬学、看護学等）
☐ 家政（家政学、食物学、被服学、住居学、児童学等）
☐ 教育（教育学、教職課程、体育等）
☐ 芸術（美術、デザイン、音楽等）
☐ その他





問 6 （問5で農学を選んだ方のみ）農学分野の中で、学びたいと考えている興味のある分野をご回答ください。（複数回答可能）

- | | |
|--|-------------------------------|
| ☐ 環境学（フィールド自然学、環境情報学を含む） | ☐ 農学 |
| ☐ 農芸化学 | ☐ 農業工学 |
| ☐ 農業経済学 | ☐ 林学 |
| ☐ 林産学 | ☐ 獣医学・畜産学 |
| ☐ 水産学 | ☐ その他の農学 |

別紙の人間環境大学 総合環境学部（仮称）の概要と資料をご覧の上で以下の質問にお答えください。

問 7 あなたは人間環境大学 総合環境学部（フィールド自然学科、環境情報学科）（全て仮称）が開設された場合、受験を希望しますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | |
|---|--|
| ☐ フィールド自然学科を第一志望として受験する | ☐ 環境情報学科を第一志望として受験する |
| ☐ フィールド自然学科を第二志望として受験する | ☐ 環境情報学科を第二志望として受験する |
| ☐ フィールド自然学科を第三志望以下として受験する | ☐ 環境情報学科を第三志望以下として受験する |
| ☐ 受験しない | |

問 8 （受験意志のあった方のみ）あなたは人間環境大学 総合環境学部（フィールド自然学科、環境情報学科）（全て仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- ☐ フィールド自然学科に入学する
- ☐ 環境情報学科に入学する
- ☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に、フィールド自然学科に入学する
- ☐ 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に、環境情報学科に入学する
- ☐ 入学しない

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。



人間環境大学 総合環境学部 フィールド自然学科／環境情報学科

(いずれも仮称、2025年設置構想中)

基本情報

開設時期 2025年4月
入学定員 フィールド自然学科：60人
環境情報学科：40人
修業年限 4年
取得学位 学士（環境学）

設置の理念

現代社会は、様々な環境問題、社会課題、国際問題に直面しています。そのため、総合環境学部では、SDGsにおける持続可能な社会を視野に収めながら、自然共生社会の実現とインターネット時代におけるデジタル産業社会の発展とを調和的に達成するための学問と技術を学び、これからの社会に必要とされる人材を養成します。



フィールド自然学科の特色

■自然豊かな愛媛県での実践的な学び ～自然（野外）が教室～

愛媛県は豊かな自然を活かした農業や水産業が盛んであり、自然環境の仕組みを学ぶ場として最適な地域です。自然環境を学ぶには現地に赴くことが重要です。キャンパスを飛び出して、愛媛県内はもちろん北海道や屋久島（鹿児島）などの県外まで、農地、森林、河川、海洋などをフィールドに、多様な実習・演習を通して、実践的な野外調査の知識や技能を体系的に身につけます。

■生態系を構成する多様な生物の専門教育 ～イルカ・ニホンザル・虫・魚などが学べる～

ニホンザルやイルカ、魚類や昆虫などの、陸域及び海や川の多様な動物をそれぞれの研究対象とする専門家が教員として在籍しており、野生動物について広く学ぶことができます。また、微生物の利用や農業、水域の物質循環を専門とする教員もおり、人間の生活を支える自然環境の在り方や管理についても学ぶことができます。

■自然共生社会の構築に向けた、社会問題の解決に 貢献できる人材の育成

複雑な自然環境の仕組みをフィールドの現場で実践的に学んだ上で、自然と人間の生活とのバランスのとおり方についての考え方を身につけることは、現代社会の課題認識やその解決に向けた行動を進める際に役立ちます。フィールド自然学科において学ぶ、自然環境の管理や維持は、どの業種においても基盤となるものであり、進路は多岐にわたります。

■卒業後の進路

環境系・農学系行政職、環境コンサルタント、生物調査会社、農業法人、森林組合、動物園、水族館、一般企業（建設、土木、造園、緑化関係、環境調査等）、大学院進学など

環境情報学科の特色

■これからのデジタル社会をリードする人材の育成

本学科は、「講義」を「聴く」だけではなく、実際に学んだことを活かしてアプリ作品を「作る」ことを主眼にしてカリキュラムを実践的に構成しています。授業全体の85%が「作る」授業です。在学中に、GoogleやAmazonのようなオンラインシステムやSNS、ゲームアプリ、AIアプリの開発を目指します。卒業後は、プログラマーやWebエンジニア、AIエンジニアとして就業できるだけでなく、自作アプリを使った起業も可能になります。また在学中であっても、地域企業に貢献できるシステム開発やアプリ作成に携わることもできます。将来を切り拓くためのIT技術力、世界を一変させる技術力を持つ、デジタル社会にふさわしい人材を育成します。

■誰もが身につけられる「少人数制じっくり型」の授業

システムやアプリの作り方を学ぶ実践的な授業は、一年次の一年間ずっと学生20人あたり4人の教員が担当します。わずか学生5人でひとりの教員を独占できるため、慌てることなく、じっくりゆっくり自分のペースで学ぶことができます。毎日授業を受講することで二年次後半には実際に高度なアプリを作れるようになります。他の大学の同種の科目の時間数に比べて、3倍、4倍と十分に確保されているため、高度なスキルが学部の4年間で身につくようになります。そのため、就職先企業のレベルも格段に上がります。

■ますます需要が高まるIT業界への就職に有利

「アフターコロナ」以降、遠隔会議や授業が増え、多くのネットワークアプリが使われるようになりました。現代の仕事はどんな種類の仕事でもネットワークアプリなしには不可能です。それもあって日本のIT業界は、給与水準も高く、在宅で仕事をすることも可能なため、特に女性にとって働きやすい環境でもあります。またスキルアップに応じて、収入がどんどん上がる転職もIT業界の魅力でもあります。本学科は、県との協定下、愛媛県内外のIT企業と連携しており、IT業界への就職に圧倒的に有利な学科です。

■卒業後の進路

海外・国内大手IT企業、大手ネットサービス企業、スマートフォンアプリ開発企業、金融系を含めた一般企業のシステム部門、新聞社・放送局IT部門、広告代理店IT部門、大手メーカーIT部門、およびデータ分析・マーケティング部門、公務員（IT系技術職）、国立・私立大学法人（IT系技術職、IR部門）、大学院進学など



人間環境大学

学生確保(資料) -28-

養成する人材像

■フィールド自然学科

フィールドでの学びを通じて、多様な動物や自然と、人との関わりに関する専門知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成します。

■環境情報学科

高度な自然環境理解とIT知識を有するとともに、世界中で多くのひとびとに役立つ画期的なシステムやアプリを作りあげる力を備え、自然環境と調和したデジタル社会を実現することのできる人材を育成します。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

■フィールド自然学科

- ・動物の保全や保護、それらが生活する自然環境の保全に配慮した社会に関心がある人
- ・フィールド調査で培った環境保全に関する知識と技能を、自然共生社会の実現に役立てる意欲を持つ人
- ・生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、多様な人々と協働して学ぶ意欲を備えた人

■環境情報学科

- ・主体性を持って多様な人々と協働して学び続ける意欲がある人
- ・環境や情報学に深い興味を持ち、情報技術の活用により積極的に社会貢献する人
- ・情報や数学などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性を備えた人
- ・デジタル社会、インターネット社会に関心を持ち、それらを取り巻く課題を多面的、総合的に解決しようとする意欲ある人

学納金（予定）

学科	入学金	授業料等	その他	初年度納入金合計
フィールド自然学科	200,000円	700,000円	430,000円	1,330,000円
環境情報学科				

<参考> 近隣の類似大学・学部

■フィールド自然学科

- ・愛媛大学農学部
- ・岡山理科大学生物地球学部
- ・倉敷芸術科学大学生命科学部
- ・吉備国際大学農学部
- ・福山大学生命工学部
- ・公立鳥取環境大学環境学部

■環境情報学科

- ・愛媛大学工学部
- ・ノートルダム清心女子大学情報デザイン学部
- ・広島工業大学環境学部
- ・広島修道大学人間環境学部

人間環境大学 松山道後キャンパスへのアクセス

愛媛県松山市道後樋又9-12

伊予鉄道環状線「赤十字病院前」駅徒歩6分

（松山市駅から赤十字病院前まで16分）



人間環境大学

学生確保(資料) -29-

【資料 6】

人間環境大学
総合環境学部(仮称)
採用意向アンケート調査
報告書

令和 6 年 1 月 31 日
株式会社高等教育総合研究所

目 次

1. 採用意向アンケート調査 概要	P 3
2. 採用意向アンケート調査 集計結果	P 4
3. 採用意向アンケート調査 結果の要点	P 6
(添付資料)	
4. 採用意向アンケート調査用紙（新学部の概要を含む）（4 頁）	

1. 採用意向アンケート調査 概要

調査目的	令和7年（2025年）度に設置予定の「人間環境大学総合環境学部（仮称） 入学定員100人」（フィールド自然学科（仮称）入学定員60人、環境情報学科（仮称）入学定員40人）における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	総合環境学部の卒業後に就職・採用が見込まれる以下の業種の事業所（業種） 農業・水産・林業、建設・土木・製造、環境関係、情報通信・ソフトウェア、卸売・小売・流通、サービス業、動物園・植物園 （地域）愛媛県を中心とする四国地区、中国地区及び首都圏、一部業種は全国（動物園・植物園） （依頼件数）1,500件
調査内容	・回答事業所の基本情報（業種・所在地） ・総合環境学部（仮称）卒業生の人材ニーズ及び採用意向
調査時期	令和5年10月～12月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施
回収件数	有効回答数233件（回収率15.5%）
調査結果	（1）フィールド自然学科 【採用意向】72事業所（30.9%）より採用意向が示された。 【採用可能人数】：採用の場合の採用可能人数は155人（72事業所）であった。 （2）環境情報学科 【採用意向】86事業所（36.9%）より採用意向が示された。 【採用可能人数】：採用の場合の採用可能人数は155人（86事業所）であった。

2. 採用意向アンケート調査 集計結果

		総回収件数	233 件	
問 1	貴事業所の業種をお答えください。 (択一)	選択肢	件数	構成比
		1 農業・水産・林業	51	21.9%
		2 建設・土木・製造	22	9.4%
		3 環境関係	1	0.4%
		4 情報通信・ソフトウェア	89	38.2%
		5 卸売・小売・流通	12	5.2%
		6 サービス業	17	7.3%
		7 動物園・植物園	32	13.7%
		8 その他	9	3.9%
		合計	233	100.0%
問 2	貴事業所の所在地をお答えください。 (択一)	選択肢	件数	構成比
		1 愛媛県	62	26.6%
		2 香川県	15	6.4%
		3 高知県	14	6.0%
		4 徳島県	10	4.3%
		5 その他	132	56.7%
		合計	233	100.0%
問 3	貴事業所の従業員規模をお答えください。 (択一)	選択肢	件数	構成比
		1 5 名以下	50	21.5%
		2 6～50 名	118	50.6%
		3 51～100 名	34	14.6%
		4 101～300 名	28	12.0%
		5 301 名以上	3	1.3%
		合計	233	100.0%
問 4	人間環境大学が設置を構想するフィールド自然学科（仮称）で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。（択一）	選択肢	件数	構成比
		1 人材ニーズは高い	97	41.6%
		2 人材ニーズは高くない	22	9.4%
		3 どちらとも言えない	114	48.9%
		合計	233	100.0%
問 5	人間環境大学が設置を構想する環境情報学科（仮称）で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。（択一）	選択肢	件数	構成比
		1 人材ニーズは高い	129	55.4%
		2 人材ニーズは高くない	15	6.4%
		3 どちらとも言えない	89	38.2%
		合計	233	100.0%
問 6	人間環境大学が設置を構想する総合環境学部 フィールド自然学科（仮称）の卒業生を採用したいですか。（択一）	選択肢	件数	構成比
		1 採用したい	72	30.9%
		2 採用しない	40	17.2%
		3 わからない	121	51.9%
		合計	233	100.0%
問 7	【上記問 6 の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をお答えください。 (択一)	選択肢	件数	構成比
		1 1 名	17	23.6%
		2 2 名	9	12.5%
		3 3 名	4	5.6%
		4 4 名	22	30.6%
		5 5 名以上	0	0.0%
		6 人数は未定だが最低 1 人	20	27.8%
		合計 n=72	72	100.0%
問 8	人間環境大学が設置を構想する総合環境学部 環境情報学科（仮称）の卒業生を採用したいですか。（択一）	選択肢	件数	構成比
		1 採用したい	86	36.9%
		2 採用しない	27	11.6%
		3 わからない	120	51.5%
		合計	233	100.0%

問 9	【上記問8の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をお答えください。 (択一)	選択肢		件数	構成比
		1	1名	34	39.5%
		2	2名	13	15.1%
		3	3名	2	2.3%
		4	4名	12	14.0%
		5	5名以上	4	4.7%
		6	人数は未定だが最低1人	21	24.4%
		合計 n=86		86	100.0%

3. 採用意向アンケート調査 結果の要点

要点 1) 人間環境大学 総合環境学部（仮称）で養成する人材の社会的ニーズ

（1）フィールド自然学科

回答事業所の 41.6%にあたる 97 事業所から「総合環境学部フィールド自然学科（仮称）で養成する人材のニーズは高い」との回答を得た（問 4）。同学科の養成人材像が、事業者から高い評価を得ていることが示された。

問 4 「総合環境学部フィールド自然学科（仮称）で養成する人材の社会的ニーズ」

人材ニーズは高い	97 事業所	41.6%
人材ニーズは高くない・どちらとも言えない	136 事業所	58.4%
合計	233 事業所	100.0%

（2）環境情報学科

回答事業所の 55.4%にあたる 129 事業所から「総合環境学部環境情報学科（仮称）で養成する人材のニーズは高い」との回答を得た（問 5）。同学科の養成人材像が、事業者から高い評価を得ていることが示された。

問 5 「総合環境学部環境情報学科（仮称）で養成する人材の社会的ニーズ」

人材ニーズは高い	129 事業所	55.4%
人材ニーズは高くない・どちらとも言えない	104 事業所	44.6%
合計	233 事業所	100.0%

要点 2) 総合環境学部の卒業生の採用意向

(1) フィールド自然学科

調査を行った事業所の 30.9%にあたる 72 事業所から、総合環境学部フィールド自然学科（仮称）の卒業予定者の採用意向が示された。また、その 72 事業所における採用可能人数の合計は、入学定員の 60 人を上回る 155 人（2.5 倍）であった。

問 6 [人間環境大学総合環境学部フィールド自然学科（仮称）の卒業生の採用意向]

採用したい	72 事業所	30.9%
採用しない・わからない	161 事業所	69.1%
合計	233 事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	155 人	-

(2) 環境情報学科

調査を行った事業所の 36.9%にあたる 86 事業所から、総合環境学部環境情報学科（仮称）の卒業予定者の採用意向が示された。また、その 86 事業所における採用可能人数の合計は、入学定員の 40 人を上回る 155 人（3.9 倍）であった。

問 8 [人間環境大学総合環境学部フィールド自然学科（仮称）の卒業生の採用意向]

採用したい	86 事業所	36.9%
採用しない・わからない	147 事業所	63.1%
合計	233 事業所	100.0%
採用の場合の採用可能人数の合計	155 人	-

要点３）業種別クロス集計

回答事業所の業種（問１）と両学科の採用意向（問６、問８）のクロス集計を行ったところ、「採用したい」の回答を得た業種の上位３業種（回答数）は、フィールド自然学科では、農業・水産・林業、情報通信・ソフトウェア、動物園・植物園であった。環境情報学科では、情報通信・ソフトウェア、農業・水産・林業、建設・土木・製造であった。両学科の養成人材像と特性に応じて、各業種から採用意向が示された。

表 問１（業種）と問６、問８（採用意向）のクロス集計

選択肢		回答数	（問６）採用したい （フィールド自然学科）		（問８）採用したい （環境情報学科）	
1	農業・水産・林業	51	21	41.2%	17	33.3%
2	建設・土木・製造	22	11	50.0%	10	45.5%
3	環境関係	1	0	0.0%	0	0.0%
4	情報通信・ソフトウェア	89	18	20.2%	47	52.8%
5	卸売・小売・流通	12	5	41.7%	5	41.7%
6	サービス業	17	4	23.5%	4	23.5%
7	動物園・植物園	32	11	34.4%	3	9.4%
8	その他	9	2	22.2%	0	0.0%
合計		233	72	30.9%	86	36.9%



人間環境大学 総合環境学部（仮称） 採用意向アンケート調査

アンケート対象：採用ご担当者様

平素は学校法人河原学園 人間環境大学に格別のご高配を賜りますこと心よりお礼申し上げます。本学は2025年4月に総合環境学部（仮称）の開設を構想しています。本学では、このアンケート調査を通して、総合環境学部の卒業生が就職を目指す事業所の皆様からさまざまなご意見をお伺いし、新学部の設置計画の参考にさせていただきたいと考えています。

本アンケートは匿名回答であり、事業所名等の情報が特定されることはございません。集計結果は、本学部の設置構想に係る統計資料及び設置手続きの資料としてのみ活用いたします。つきましては、別紙の「総合環境学部の概要」をご覧くださいの上で、アンケート調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

問1 貴事業所の業種をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ 農業・水産・林業 | ☐ 建設・土木・製造 | ☐ 環境関係 | ☐ 情報通信・ソフトウェア |
| ☐ 卸売・小売・流通 | ☐ サービス業 | ☐ 動物園・植物園 | ☐ その他 |

問2 貴事業所の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- ☐ 愛媛県 ☐ 香川県 ☐ 高知県 ☐ 徳島県 ☐ その他

問3 貴事業所の従業員規模をお答えください。（最もよくあてはまるもの1つにマーク）

- ☐ 5名以下 ☐ 6～50名 ☐ 51～100名 ☐ 101～300名 ☐ 301名以上

別紙の人間環境大学 総合環境学部（仮称）の概要を
ご覧の上で以下の質問にお答えください。

問4 人間環境大学が設置を構想するフィールド自然学科（仮称）で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- ☐ 人材ニーズは高い ☐ 人材ニーズは高くない ☐ どちらとも言えない

問5 人間環境大学が設置を構想する環境情報学科（仮称）で養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- ☐ 人材ニーズは高い ☐ 人材ニーズは高くない ☐ どちらとも言えない

問6 人間環境大学が設置を構想する総合環境学部 フィールド自然学科（仮称）の卒業生を採用したいですか。（あてはまるもの1つにマーク）

- ☐ 採用したい ☐ 採用しない ☐ わからない





問 7 【上記問 6 の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- ☐ 1 名 ☐ 2 名 ☐ 3 名 ☐ 4 名
☐ 5 名以上 ☐ 人数は未定だが最低 1 人

問 8 人間環境大学が設置を構想する総合環境学部 環境情報学科（仮称）の卒業生を採用したいですか。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- ☐ 採用したい ☐ 採用しない ☐ わからない

問 9 【上記問 8 の「採用したい」の回答者のみ】採用する場合の採用可能人数をお答えください。（あてはまるもの 1 つにマーク）

- ☐ 1 名 ☐ 2 名 ☐ 3 名 ☐ 4 名
☐ 5 名以上 ☐ 人数は未定だが最低 1 人

問 10 人間環境大学が設置を構想する総合環境学部（仮称）について、期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。



人間環境大学 総合環境学部 フィールド自然学科／環境情報学科

(いずれも仮称、2025年設置構想中)

基本情報

開設時期 2025年4月
入学定員 フィールド自然学科：60人
環境情報学科：40人
修業年限 4年
取得学位 学士（環境学）

設置の理念

現代社会は、様々な環境問題、社会課題、国際問題に直面しています。そのため、総合環境学部では、SDGsにおける持続可能な社会を視野に収めながら、自然共生社会の実現とインターネット時代におけるデジタル産業社会の発展とを調和的に達成するための学問と技術を学び、これからの社会に必要なとされる人材を養成します。



フィールド自然学科の特色

■自然豊かな愛媛県での実践的な学び ～自然（野外）が教室～

愛媛県は豊かな自然を活かした農業や水産業が盛んであり、自然環境の仕組みを学ぶ場として最適な地域です。自然環境を学ぶには現地に赴くことが重要です。キャンパスを飛び出して、愛媛県内はもちろん北海道や屋久島（鹿児島）などの県外まで、農地、森林、河川、海洋などをフィールドに、多様な実習・演習を通して、実践的な野外調査の知識や技能を体系的に身につけます。

■生態系を構成する多様な生物の専門教育 ～イルカ・ニホンザル・虫・魚などが学べる～

ニホンザルやイルカ、魚類や昆虫などの、陸域及び海や川の多様な動物をそれぞれの研究対象とする専門家が教員として在籍しており、野生動物について広く学ぶことができます。また、微生物の利用や農業、水域の物質循環を専門とする教員もおり、人間の生活を支える自然環境の在り方や管理についても学ぶことができます。

■自然共生社会の構築に向けた、社会問題の解決に 貢献できる人材の育成

複雑な自然環境の仕組みをフィールドの現場で実践的に学んだ上で、自然と人間の生活とのバランスのとおり方についての考え方を身につけることは、現代社会の課題認識やその解決に向けた行動を進める際に役立ちます。フィールド自然学科において学ぶ、自然環境の管理や維持は、どの業種においても基盤となるものであり、進路は多岐にわたります。

■卒業後の進路

環境系・農学系行政職、環境コンサルタント、生物調査会社、農業法人、森林組合、動物園、水族館、一般企業（建設、土木、造園、緑化関係、環境調査等）、大学院進学など

環境情報学科の特色

■これからのデジタル社会をリードする人材の育成

本学科は、「講義」を「聴く」だけではなく、実際に学んだことを活かしてアプリ作品を「作る」ことを主眼にしてカリキュラムを実践的に構成しています。授業全体の85%が「作る」授業です。在学中に、GoogleやAmazonのようなオンラインシステムやSNS、ゲームアプリ、AIアプリの開発を目指します。卒業後は、プログラマーやWebエンジニア、AIエンジニアとして就業できるだけでなく、自作アプリを使った起業も可能になります。また在学中であっても、地域企業に貢献できるシステム開発やアプリ作成に携わることもできます。将来を切り拓くためのIT技術力、世界を一変させる技術力を持つ、デジタル社会にふさわしい人材を育成します。

■誰もが身につけられる「少人数制じっくり型」の授業

システムやアプリの作り方を学ぶ実践的な授業は、一年次の一年間ずっと学生20人あたり4人の教員が担当します。わずか学生5人でひとりの教員を独占できるため、慌てることなく、じっくりゆっくり自分のペースで学ぶことができます。毎日授業を受講することで二年次後半には実際に高度なアプリを作れるようになります。他の大学の同種の科目の時間数に比べて、3倍、4倍と十分に確保されているため、高度なスキルが学部の4年間で身につくようになります。そのため、就職先企業のレベルも格段に上がります。

■ますます需要が高まるIT業界への就職に有利

「アフターコロナ」以降、遠隔会議や授業が増え、多くのネットワークアプリが使われるようになりました。現代の仕事はどんな種類の仕事でもネットワークアプリなしには不可能です。それもあって日本のIT業界は、給与水準も高く、在宅で仕事をすることも可能なため、特に女性にとって働きやすい環境でもあります。またスキルアップに応じて、収入がどんどん上がる転職もIT業界の魅力でもあります。本学科は、県との協定下、愛媛県内外のIT企業と連携しており、IT業界への就職に圧倒的に有利な学科です。

■卒業後の進路

海外・国内大手IT企業、大手ネットサービス企業、スマートフォンアプリ開発企業、金融系を含めた一般企業のシステム部門、新聞社・放送局IT部門、広告代理店IT部門、大手メーカーIT部門、およびデータ分析・マーケティング部門、公務員（IT系技術職）、国立・私立大学法人（IT系技術職、IR部門）、大学院進学など



人間環境大学

学生確保（資料） -40-

養成する人材像

■フィールド自然学科

フィールドでの学びを通じて、多様な動物や自然と、人との関わりに関する専門知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成します。

■環境情報学科

高度な自然環境理解とIT知識を有するとともに、世界中で多くのひとびとに役立つ画期的なシステムやアプリを作りあげる力を備え、自然環境と調和したデジタル社会を実現することのできる人材を育成します。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

■フィールド自然学科

- ・動物の保全や保護、それらが生活する自然環境の保全に配慮した社会に関心がある人
- ・フィールド調査で培った環境保全に関する知識と技能を、自然共生社会の実現に役立てる意欲を持つ人
- ・生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、多様な人々と協働して学ぶ意欲を備えた人

■環境情報学科

- ・主体性を持って多様な人々と協働して学び続ける意欲がある人
- ・環境や情報学に深い興味を持ち、情報技術の活用により積極的に社会貢献する人
- ・情報や数学などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性を備えた人
- ・デジタル社会、インターネット社会に関心を持ち、それらを取り巻く課題を多面的、総合的に解決しようとする意欲ある人

学納金（予定）

学科	入学金	授業料等	その他	初年度納入金合計
フィールド自然学科	200,000円	700,000円	430,000円	1,330,000円
環境情報学科				

<参考> 近隣の類似大学・学部

■フィールド自然学科

- ・愛媛大学農学部
- ・岡山理科大学生物地球学部
- ・倉敷芸術科学大学生命科学部
- ・吉備国際大学農学部
- ・福山大学生命工学部
- ・公立鳥取環境大学環境学部

■環境情報学科

- ・愛媛大学工学部
- ・ノートルダム清心女子大学情報デザイン学部
- ・広島工業大学環境学部
- ・広島修道大学人間環境学部

人間環境大学 松山道後キャンパスへのアクセス

愛媛県松山市道後樋又9-12

伊予鉄道環状線「赤十字病院前」駅徒歩6分

（松山市駅から赤十字病院前まで16分）



教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 （千円）	現 職 （就任年月）
-	学長	マキヤマ スケトモ 牧山 助友 ＜平成28年4月＞	74 （高）	法学士		人間環境大学 学長 （平28.4～令10.3）